

東北地区 大学図書館協議會誌

第 76 号
令和 7 年 5 月



尚絅学院大学図書館

寄稿 MyULP：図書館ラジオ（ポッドキャスト）の試み	1
世界のオープンアクセス・デジタルアーカイブ事情を調査する	9
第79回東北地区大学図書館協議会総会資料	17
議事録	78
図書館統計年報	81
東北地区大学図書館協議会総会当番地区・当番大学	84
東北地区大学図書館協議会役員館一覧	85
東北地区大学図書館協議会会則等	86
東北地区大学図書館協議会加盟館名簿	97

寄 稿

MyULP:図書館ラジオ(ポッドキャスト)の試み

宮城大学 学術情報センター長／図書館長
茅原拓朗

1. はじめに

宮城大学学術情報センター（図書館）では 2022 年から図書館ラジオ（ポッドキャスト）
グ、以下では単に図書館ラジオと呼ぶ）『MyULP（マイユーエルピー）』を展開している。大
学構成員の著作物と紐付けた研究・教育・地域貢献における成果や活動の発信を軸として、
図書館主体の音声メディアとしての様々な可能性を探りながら制作を行ってきた。

この度、東北地区大学図書館協議会誌への寄稿という貴重な機会をいただき、折しもシー
ズン 3（2024 年度）が終了しつつある現時点でのふりかえりとして図書館からの音声発信と
アーカイビングの取り組みについて小文を寄せるものである。結論からいうと「とってもよ
かったので皆さまもぜひ！」ということで、以下はむしろ図書館ラジオへのお誘いとして、
成立の経緯や条件、必要な機材や作業等も含め紹介させていただく。

2. 図書館ラジオ成立の背景

最初に、大変迂遠ではあるが、図書館ラジオを始めるにあたっての背景を説明しておかな
ければならない。本節では、図書館ラジオの根拠となっている本学図書館の整備方針と、そ
れに基づいて行われ図書館ラジオ成立の直接の契機ともなったいくつかの取り組みについ
て紹介する。

筆者が総合情報センター（当時、現・学術情報センター）長・図書館長に就任した 2014
年は折しも、インターネット空間の拡大等を背景として大きく変化しつつあった学びの形
をうけて大学図書館も変わっていくべきことをと定める政策が次々に打ち出され、東北地
区の国立大学図書館にも順次コモンズが整備されていった時期であった。筆者も就任直後
から宮城県が設置する公立大学の図書館として今後 10 年単位のスパンで何を指すべきか
の検討と議論を開始し、2017 年度に「学術情報高度化およびディスカバリーコモンズ（図
書館）整備基本計画（以下、基本計画）」としてそれらを取りまとめた。

基本計画の柱の一つが、本学でも大学図書館空間をコモンズ化し、そこで部局カリキュラ
ムを補完しさらに有効化するような図書館独自の教育プログラムを走らせていくことであ
った。所謂図書館外コモンズを中心に、様々な専門機能をもつコモンズをキャンパスに散在
させる形をとった本学では、図書館には「発見」のための（ディスカバリー）コモンズとい
う位置づけが与えられた。その中で、まさに発見を促すための図書館独自の教育プログラム

としてスタートし現在も継続しているのが『六限の図書館』という図書館イベントシリーズである[1]。研究者（著者）やクリエイター、編集者によるトークはもちろん、（いわゆる閲覧室内での）映画上映やデザインワークショップ、写真展など、図書館空間の新しい「使い方」をソフト事業として具現化しながら、さらに学内外の来訪者同士の出会いや活動自体がまた新たな図書館空間を形作っていく、そのきっかけとなるような様々なタイプのイベントを試行してきた。

図書館ラジオは、後述するように新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）流行下において対面イベントである『六限の図書館』の開催が制限される中で、その事業継続として発想された経緯がある。また、COVID-19 流行という特殊事情はあったものの、学内や大学執行部の理解を得る上でも既存の図書館ソフト事業があったことは成因として大きかった。

基本計画に戻るが、そのもう一つの柱が本学学術情報センター（以下、センター）を主体とした情報発信機能の強化である。機関リポジトリについては既にセンターによって運用が始まっていたが、さらにこの方針に沿った形で、2023 年にセンター内に出版会が設置され、機関リポジトリによる完全オンラインの論文誌「宮城大学研究ジャーナル[2]」を創刊して（初巻は2022年に出版会前身の準備委員会による刊行）、仕組としてのリポジトリの運用だけでなく企画や編集をも含む発信主体として教育・研究・地域貢献における学内の成果や活動を広く発信する役割も担うようになっている。この情報発信主体としての図書館の位置づけは、音声メディアを図書館が運営するにあたっての決定的な根拠となった。

情報発信はまだ図書館業務として一般に共有されているとはいいがたいが、本学ではオープンサイエンスを背景として、図書館が主体的にコンテンツを制作・発信することでオープンな学術出版エコシステムの構築に自ら貢献していくことは、基本計画策定時から、明確に意識されていた。2019年にはセンターが主催する公開FD（Faculty Development）「オープン・アクセス・ジャーナルの動向と本学における学術情報および研究資源の今後」を開催し、国立情報学研究所から尾城孝一氏、文科省科学技術・学術政策研究所から林和弘氏（いずれもご所属は当時）を招いて、図書館が企画主体として自らメディアを持つことの意義について具体的な議論を行った[3]（東北の大学からも多数の参加をいただいたのでご記憶の方もおられるかもしれない）。このFDを皮切りに（FD講師のお二人にも背中を押していただいて）、センター内の出版会設置、研究ジャーナル創刊などの発信事業をゆっくりではあるが着実に進めてきたのである。

最後に、背景の3つめとして、人的資源について触れておかねばならない。社会から求められる大学図書館の変化は、それらを担う人材にさらに高度な専門性を求めるものでもあり、本学で定めた先述の基本計画でもやはり同様であった。そこでセンターでは、2019年度から、仙台市が設置する複合文化施設であるせんだいメディアテークの映像とアーカイブを専門とする学芸員であり、教育学を修めて社会教育や文化施設の運営にも通じた小川直人氏を、センター業務を主担当とする特任教員として起用する形で人的資源の高度化を実現した。先述の『六限の図書館』はじめ図書館ラジオも、本学で図書館運営を担当する学

術情報室の尽力に加え、小川特任のような経験豊富な専門人材の参画なしには実現し得なかったことは特に記しておきたい。

3. 図書館ラジオ前夜

COVID-19 流行を受けて、対面イベントであり学内外の交流の場でもあった『六限の図書館』は、2020 年度から 2023 年度まで実質的に事業を停止せざるを得ない状況に陥った。この事態を受けて、まずは『六限の図書館』の事業継続として、そして、キャンパスが果たしてきた有形無形の「体験の場」としての機能を図書館としても維持しなければならないという責務から注目し期待したのがラジオという音声メディアであり、また、ラジオが培ってきた緩やかな紐帯の場としての役割だったのである。我々が MyULP を「ラジオ」と言い張っているのはこの特殊な成立事情によるし、またそれは MyULP の位置づけや企画のあり方に一定のニュアンスを与えてもいる（被災地域の人たちが当該地域のコミュニティ FM に寄せる思いに少し似ているなどと思うことがある）。

まだ名前もない「図書館ラジオ」を始めるにあたり、我々がまず行ったのがとりあえずこの事業のねらいと構想を言わば「音声企画書」として収録し、β 版（公開プロトタイプ）のポッドキャストとして公開してしまうことであった。そしてこの β 版公開で得た一定の感触を受けて、さらに β 版の第 2 弾としてさらに仙台のコミュニティ FM である RADIO3 から鈴木美範氏を招き収録を行った。この第二回の狙いは、現場のプロフェッショナルから制作の手ほどきを受けながら、我々が期待していたラジオの人を緩やかに繋げる機能を中心に音声メディアの現在位置を確認することであった（これら β 版は現在も視聴可能である）。

構想自体を番組として具現化したこの「音声企画書」は、図書館の正式な事業として執行部の理解を得る際に大いに効を奏した。書面だけでは芳しくなかった反応（「図書館でなぜポッドキャストिंगなのか？」というのは当然の反応ではある）が、β 版に実際に触れることによって「あ、なるほど、これを図書館でやるのはいいね」と劇的に好転したのである。

4. 図書館ラジオ: MyULP

かくしてようやく「本放送」である。2022 年の 4 月より改めて MyULP（マイユーエルピー）と名付けられた図書館ラジオ（ポッドキャストिंग）シーズン 1 の公式配信が開始された[4]。シーズン 1 では『六限の図書館』の開催が実質的に休止していたこともあり、全 11 回の収録・配信が行われた。2023 年度のシーズン 2 からは『六限の図書館』の対面開催の再開も見越して、年 6 回を目標とすることを通常のペースと定めて制作を行っている。

番組（局？）名である、MyULP は Miyagi University Library Podcasting のイニシャル（下線部）をとったもので、ラジオ局呼称の伝統に乗っ取ったものである。特に我々は米国の公共放送である NYPR（New York Public Radio）や、「Tiny desk コンサート」という人気コンテンツを通じて日本でも知られるようになった NPR（National Public Radio）への敬

意を示しつつ命名した。読みは「マイユーエルピー」とすることで、大学コミュニティによる、コミュニティのための音声メディアという意味を持たせた。

ターゲット・リスナー層としては、まず本学学生を中心とした学内構成員が想定された。というのも、先述のように MyULP は COVID-19 流行下における『六限の図書館』の事業継続として企画されたものだったからである。キャンパスに集うことができない状況下でキャンパスが本来的に担っていた所謂インターナルコミュニケーションのための役割を代替することを目指したのである。他方、『六限の図書館』は地域にも開かれたものであったことから学外のリスナーも想定していた。特に、特定のトピックについて深く掘り下げることができるポッドキャストの特性から、学術広報や社会教育の一つのチャンネルとしていくことは当初から意識されていた。後述するように、学術広報としての成果も目に見える形で現れ始めている。

主軸となるコンテンツは、学内構成員の著作物に紐付けた著者インタビューである。教員



図1：図書館内での収録の様子。中央の人物が MyULP のナビゲータを務める小川直人特任准教授。

の近著等に加え、先述の宮城大学研究ジャーナルの論文も積極的に採りあげることによって、本学の研究や地域貢献活動によって生まれた成果を広く周知すると同時に、研究のビハインドストーリーも共有することでインターナルコミュニケーションや学術広報としての効果もねらっている。

もう一つの軸としているのは、『六限の図書館』をアーカイブし、永続的に視聴可能なコンテンツ

とすることである。このイベントをパッケージ化することを通じた学術情報の「内製」については『六限の図書館』の構想の中に既に含まれており、いくつかのトーク等は DVD として図書館にも配架されて視聴可能である[5]。この構想をポッドキャストの機能を活用して引き継いだものである（エピソード 021, 023）。

学年暦と連動したコンテンツとして、毎年4月に公開している「シラバスに載っていない参考図書」シリーズがある。これはもともと『六限の図書館』の企画として、紙メディアと図書館の展示架を用いて新入生に向けて教員や大学図書館員からの推薦図書を紹介していたものだが、ゲストを招いて「大学生だった自分に今薦めるとしたら？」という形のインタビュー番組として MyULP に引き継がれている（エピソード 001, 012, 020）。

また、授業と連動させる試みも行っている。本学の「現代メディアカルチャー論」というメディア文化に関する基盤教育科目では、前期末の自由課題として夏休み中に担当教員た

ちが体験すべき様々なメディアコンテンツを学生が推薦して教員に感想を求める（夏休みの読書感想文の「推薦図書」を学生から教員に提示する）というユニークな試みが行われている。この学生たちの「推し」を紹介しつつ、教員がそれらを体験した感想を番組としてフィードバックすることが夏季休暇中の恒例コンテンツとなっている（エピソード 016, 022）。

5. 図書館ラジオのつくりかた

収録は、図書館内や研究室など敢えて背景に周辺の活動の音が入ってしまうような場所で、収録の様子もなるべく可視化されるようにして行われている（図 1）。

そのため、音声収録機材は持ち運んでどこでも展開できるようなハンディさを優先して選択された（図 2）。収録の際の機材の構成には、大きく①話者分のマイクで話者毎に別のトラックに録音，②話者分のマイクを用意するがミキサーを介してステレオ＝2 トラックあるいはモノラル＝1 トラックにあらかじめミックスダウンしながら録音，③ボイスレコーダーやスマートフォン等の内蔵マイクを用いて話者毎のマイクは用意せずに録音，という 3 つの選択肢があると考えられる。①の方法では話者数によっては通常のステ



図 2: MyULP で用いている収録機材。このようなハンディな機材でも 4 名までの話者に個別のマイクを割り当て、独立のチャンネルに録音することができる。

レオ＝2 トラック以上のトラック数が必要となり，話者の音声は分離されているがそのままでは配信できない。②③ではあとから話者を分離することは出来ないがそのままでも配信可能である。MyULP ではこれらを目的や状況に応じて使い分けつつ，しかし，アーカイブ性やその後の編集の自由度を考慮して出来る限り①の構成で収録を行っている。図 2 にも示したとおり，現在はマルチトラックの（3 つ以上のマイクからの音声を独立のチャンネル＝トラックに記録できる）デジタルレコーダーのハンディなものが安価に利用可能である。①の構成で収録した場合，左右のバランスを調整しながらポッドキャストで配信可能なステレオ形式に落とし込む「ミックスダウン」と呼ばれる作業が必要になるが，この作業には Audacity などオープンソース（無料）の音声編集ソフトウェアが利用できるし，ポッドキャスト用と銘打ったマルチトラックデジタルレコーダーや録音機能付きのデジタルミキサーにはミックスダウンまで一貫して作業可能なものも存在する。近年ではデジタル的な補正技術が進んでいるため，レコーダーやスマホの内蔵マイクでも充分配信に耐

えるクオリティでの収録が可能である。ただし、事後的な補正には限界があるため、もともとのソースをできるだけよい状態で録音しておくことはやはり必要になる。そのために、図2にあるようなヘッドフォンでモニタしたり、収録テストをしてレコーダーの位置を調整するなどの手続きを踏むことは強くおすすめしたい。

一方、不要部分をカットしたりテーマ曲やジングル（「合いの手」や構成の区切りとして挿入される短い効果音や音楽）を加えて「ラジオの番組らしく」するための編集を加えるかどうかは考え次第である。というのもポッドキャスティングでは視聴者側で再生箇所やタイミングなどをコントロールできるので、どこを聞かかは視聴者側に委ねると割り切って編集なしで公開することも考えられるからである。

MyULP では「ラジオ」として制作を行っているため、番組テーマやジングルも整えた。番組テーマやジングルは音響的に番組アイデンティティを担いうるほぼ唯一の要素なので、やはり整えたほうが番組（局）としての統一感が演出できる。テーマとジングルの制作は、本学事業構想学研究科に在籍していたプロの作曲家・サウンドデザイナーである長崎智宏氏に依頼した（2025年4月より本学専任教員）。この制作プロセスやコンセプトについては、長崎氏を交えて MyULP で番組化しているので、よろしければ参考にされたい。（エピソード004）

ポッドキャスト配信プラットフォームとしては複数のサービスが存在するが、一般のポッドキャスティング番組と同様、実際に音声ファイルを置くメインのプラットフォームを定めつつ（MyULP では Anchor）、主要なプラットフォーム（MyULP では、Spotify, Apple Music, Amazon Music, YouTube（旧 Google Podcast））とは RSS を通じて連携し、リスナーがアクセスしやすいものを選択出来るようにした。所謂オンプレミスでも配信は可能だが、セキュリティ負担を考えてもほぼその選択はないだろう。学外の商用サービスを利用することにつ

いては、多くの大学で既に Facebook や YouTube などを使うようになっている現在では、特に障壁はないと考えられる。

ポッドキャスティングのような原則としてプル型のメディアはその存在を知ってもらい、かつアクセス手段を提供しなければアクセスしてもらえない、つまり実空間とメディア空間をいかに接続するかということが課題になる。そこで図3のような QR コードを掲載したフライヤーを作っ



図3：イベント『六限の図書館』と MyULP のフライヤー。QR コードが掲載されておりここから直接アクセス可能。

て『六限の図書館』とともに周知を図っている。

フライヤーによって周知を図る試みは 2024 年度より始められたもので、まだ十分に周知が行き渡っているとは言い難いが、それでも再生数（多くのプラットフォームでは一定時間以上再生されたもののみ再生数としてカウントされる）と登録リスナーは着実に増加を続けている。登録（固定）リスナー数は 2025 年 4 月 23 日現在、メインプラットフォームである Anchor だけで 86 となっている。

登録リスナーには出版社や新聞社やその支局など既存メディアも含まれており、大学研究者の著書が MyULP でとりあげたことで増刷につながるなど、学術広報としても効果が目に見える形で現れ始めている（エピソード 003）。また、大学サイトによる広報との所謂メディアミックスの効果も現れており、大学サイトのトピックをさらに MuULP で深掘りすることで、研究者への共同研究や取材オファーにつながったケースもある（エピソード 010）。自らの研究や取り組みの概要やビハインドストーリーを端的に伝える素材としてプロジェクトのウェブサイト等でリンクされるなど（エピソード 015）、出演者自身によって直接的に役立てられてもいる。

6. おわりに

ここまで 3 年（3 シーズン）に渡り図書館としてのポッドキャストの制作配信を続けてきて、上記の効果以外にも、「ラジオ」へのこだわりとして目指していた緩やかな紐帯やインターナルコミュニケーションとしての有形無形の効果や手応えを強く感じている。一方、図書館が主体となって制作・発信する音声メディアにはポッドキャスト以外の方法も含め、まだまだ多くの可能性が残されているようにも思う。この小文が皆さまご自身の「図書館ラジオ」や新たな音声メディアの立ち上げの一助となれば望外の喜びである（いや、むしろ積極的に希望しています）。

< 参照 URL（いずれも 2025 年 4 月 23 日閲覧） >

- [1] 六限の図書館：<http://library.myu.ac.jp/rokugen-no-toshokan>
- [2] 宮城大学研究ジャーナル：<http://library.myu.ac.jp/research-journal>
- [3] FD「オープン・アクセス・ジャーナルの動向と本学における学術情報および研究資源の今後」：<https://www.myu.ac.jp/library/news/2019fd/>
- [4] MyULP：<https://creators.spotify.com/pod/show/myulp>
- [5] 六限の図書館 DVD：<https://lib.myu.ac.jp/opac/search?q=六限の図書館>

※本文中に示したエピソード番号は 2025 年 4 月 23 日現在のものです。



[1] 『六限の図書館』



[4] MyULP

寄稿

世界のオープンアクセス・デジタルアーカイブ事情を調査する

東北大学附属図書館

渡邊愛子, 堀野陽子, 小飯塚猛, 中島大
小林千夏, 三角太郎, 木下直, 後藤浩子

1. はじめに

東北大学では、2022 年 2 月に東京工業大学、総合研究大学院大学、東京理科大学とともに、Wiley 社と日本初の電子ジャーナルの転換契約を行って¹以来、研究成果のオープンアクセス化に努めている。また 2024 年 4 月に新たなデジタルアーカイブ「東北大学総合知デジタルアーカイブ (ToUDA)」²をリリースし、今後の研究データとしての利用を目指して、コンテンツの追加を行っている。

2024 年 2 月に統合イノベーション戦略推進会議が、「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」³を公表したことにより、オープンアクセスが図書館界のホットワードとなった。文部科学省によるオープンアクセス加速化経費事業の採択もあり、オープンアクセスやオープンサイエンス、デジタルアーカイブに関する海外の事例を調査するという館内の機運が高まった。

本稿は、カナダ、香港、米国の大学で、それぞれのオープンアクセス・デジタルアーカイブ事業について訪問調査を行った報告である。東北大学附属図書館（以下当館）は、2016 年から PRRLA (the Pacific Rim Research Libraries Alliance: 環太平洋研究図書館連合)⁴に加盟している。2025 年 10 月には、この年次総会を仙台で開催することが決まっていたこともあり、PRRLA の加盟館のいくつかを訪問することにした。

PRRLA は 1997 年に PRDLA (the Pacific Rim Digital Library Alliance) として誕生した団体である。2016 年に APRU (the Association of Pacific Rim Universities: 環太平洋大学協会) の提携機関となったことにより PRRLA に名称を変更した。東南アジアから、中国、韓国、北米、オーストラリアまで、40 の加盟館がある。日本からは、慶應義塾大学と東北大学が加盟している⁵。

PRRLA 加盟館の各 web サイトを確認し、各館のオープンサイエンス・デジタルアーカイブの取り組みを調査した。結果として、日本とは異なるオープンアクセス方針を取っているカナダの 2 大学、日本と近い取り組みを行っているように見える香港の 3 大学、2023 年に当館と学術交流協定を締結した米国オレゴン大学を訪問することにした。

2. カナダ

2024 年 12 月 9 日にカナダ国ブリティッシュコロンビア州にある、サイモンフレーザー大学、10 日にブリティッシュコロンビア大学を渡邊愛子、堀野陽子が訪問した。ウェブサイトの調査では、APC 支援の縮小等が言われており、日本の状況とは異なることが見て取れたため、大変興味をもって、訪問先とした。

2.1 Simon Fraser University

サイモンフレーザー大学（以下 SFU）は、1965 年に設立された州立大学で、学部生約 3 万人、大学院生 5 千名超が学んでいる⁶。バーナビー、サリー、バンクーバーにキャンパス

があり、それぞれ図書館があるが、今回は、メインキャンパスである Burnaby、Bennet Library⁷を訪問した。

大きな建物が口の字に配置されたキャンパスは近未来的で、時折 SF 映画のロケ地とされるところであった。カナダでは先住民族の文化への理解を深める政策がとられており、閲覧室にもカナダの文化を知るコーナーが設置されていた。

2.1.1 オープンサイエンスの状況

カナダでは Tri-Agency⁸の公的資金提供を受けた論文のオープンアクセスは義務とされている。ただし、このポリシーはあまり規制的ではなく、現在、より強制力があるものに改正するための意見聴取が行われている。このオープンアクセス義務化のため、ケベック州を中心に利用されている Borealis⁹と、FRDR¹⁰の 2 つのナショナルリポジトリがある。FRDR は、ケベックを除く西側の州のコンソーシアムと、ブリティッシュコロンビア州のコンソーシアムが合同する形で 2023 年 3 月に本格始動した。SFU では、機関リポジトリ Summit¹¹が稼働しており、その 10%程度がいわゆる GreenOA論文として登録されている。論文の登録は、Summit、研究データは FRDR¹²を利用している場合が多いとのことであった。

SFU では、出版社との交渉について、「私たちは学術流通の持続可能性について話しているのに、出版社は、彼らの利益しか考えておらず、まるで別の言語で話しているようだ」と語っていたことが、大変印象的であった。

2018 年に初めて転換契約を行い、Central Open Access Fund が支援を行ってきたが、APC 価格の高騰、利用者の増加によって、2023 年に支援を見直した。現在は、転換契約は持続的ではない、と考えており、Full Gold OA 誌のみを対象とし、若手のみ年 1 回申請できる取り組みとしている¹³。

2.1.2 PKP について

SFU 発のオープンアクセス活動として、PKP を紹介された。

PKP Public Knowledge Project¹⁴は、雑誌等を出版するソフトウェア、OJS、OMS、OPS を開発し、無料で公開、その利用教育等も行っている。図書館が PKP の事務局を担当してきたが、2022 年から SFU 副学長が担当することになった。このことによって、PKP は世界的な広がりを持つことになったとのことであった。

OPS (Open Preprint Server) は、科学技術振興機構の Jxiv¹⁵が採用しているが、PKP の活動は日本ではあまり知られていない。今回は紙幅の都合上、他を参照いただきたい¹⁶。



ブリティッシュコロンビア大学キャンパスで

2.2 University of British Columbia

ブリティッシュコロンビア大学 (以下、UBC) は、創立 1908 年、言わずと知れた名門校であり、これまでに 8 名のノーベル賞受賞者、3 名のカナダ首相を輩出している。バンクーバー、オカナガンからなる 2 つのメインキャンパスには合わせて約 7 万 1 千人の学生が所属し、そのうち 2~3 割ほどを留学生が占めている¹⁷。

図書館は各キャンパスにあり、今回筆者らはバンクーバーキャンパスの The Walter C. Koerner Library 内にある会議室にて 3 名の図書館員の方々にインタビューを行った。以下では伺った話の中から印象的だったいくつかのトピックを紹介する。

2.2.1 デジタル化した資料の公開と利活用について

UBC の図書館には、資料のデジタル化を専門に行う” UBC Library Digitization Centre¹⁸⁾”がある。専用のスタジオを備え、専任スタッフと学生アルバイトが実際の作業を担当している。

資料のデジタル化は、研究者の求めに応じた形で行われ、プロジェクトベースで動くことが多い。費用も利用者負担で、その種類は財団や一般企業からの資金提供を含めて様々なケースがあるとのことだった。

専用スタジオとスタッフを備えていることのメリットとして、個人からのリクエストに応じて小規模なデジタル化を行う場合にも、抑えた価格で応じることが可能である点が挙げられる。

2.2.2 博士論文のリポジトリ公開について

過去に提出された博士論文のデジタル化については、最も早い時期のもの（1920 年代）を含め、既に大規模なデジタル化と公開を済ませている。機関リポジトリ” cIRcle¹⁹⁾” 上で、各利用者が利用規則の遵守について同意すると、ダウンロードが可能となる仕組みである。

現行では、インターネット公開が卒業要件の一つとなっているが、学術誌への投稿や特許申請などに関連して、ある程度の猶予を設けることが可能とのこと。ただし猶予期限が来れば自動的に公開されるため、猶予延長を希望する者は再申請が必要となる。

2.2.3 OJS(Open Journal System)の利用について

雑誌の出版ソフトである OJS の使用状況について伺った。OJS は、学生による雑誌運営にも使用されるケースがあるという話が印象的だった。その場合、内容のレベルを追求するというよりは、むしろ雑誌運営の仕組みや学術情報の流れ、アカデミックな振る舞いやスキルを学び、実践するための場になっているとのことだった。

3.香港

香港では研究資金助成機関 RGC (Research Grants Council)²⁰⁾が Open Access Plan of the Research Grants Council²¹⁾ (以下、RGC OA Plan) を交付し、大学図書館コンソーシアム JULAC (The Joint University Librarians Advisory Committee) が RGC OA Plan を支持²²⁾している。事前の web 調査では、各大学で転換契約を用いた APC 支援情報が提供されており、機関リポジトリのコンテンツも本学に比べて充実していることが確認された。

2025～2027 年の PRRLA 事務局を香港中文大学が務めていることもあり、香港で調査を行うこととした。



香港中文大学にて

今回の訪問では、小飯塚猛、中島大、小林千夏の3名が、2025年1月21日に香港理工大学、22日に香港大学、23日に香港中文大学の3大学を訪ねた。

3.1 香港理工大学(The Hong Kong Polytechnic University)

創立1937年、学生数約2万名²³の大学である。ものづくりスペース(i-Space²⁴)ではノートPCやタブレット、3Dスキャナー、IoTデバイスなどの貸出を行い、使い方を学ぶためのセミナーや創作活動を促進する作品コンテストも開催している。館内の自動貸出機は、RFID導入に合わせて3Dプリンタで筐体を成形し配線も行った自作のものであり、実際に利用に供している点が印象的だった。

3.1.1 オープンアクセスの状況

webで転換契約²⁵の情報を公開しており、人文社会系が比較的多く含まれる出版社も対象に転換契約締結を検討しているとスタッフから説明があった。訪問した3大学全てに共通することだが、転換契約によるAPC支援制度ではそのほとんどがAPC全額免除となっている。

機関リポジトリ²⁶のコンテンツ収集は著者自身による提出の他、ScopusやWeb of Science等のデータベースのチェック、オープンソースを用いた自動収集など多様な方法で行われていた。

3.1.2 デジタルアーカイブの状況

大学の歴史と発展を伝える資料のデジタル化に力を入れており、PolyU Digital University Collection²⁷として公開している。大学創立85周年となる2022年にプロジェクトを立ち上げてデジタル化を進め、現在もアイテムを追加中である。

また、デジタル資料を活用した共同活動に積極的に取り組んでいる。その一例として、学生によるプロジェクトVirtual Tour of PolyU Old Campus²⁸では、大学関連資料から写真を抽出・整理し、過去のキャンパスを3Dで再現してバーチャルツアーを実施した。

3.2 香港大学(The University of Hong Kong)

創立1911年、学生数約1万8千名²⁹が学ぶ、香港で最も歴史のある高等教育機関である。机・椅子が皆無で利用者が柱にもたれたり、クッションに座ったりしながら活動を行うスペース、ディスカッション用の教室、高音質の音声教材作成支援を意識した防音室など、多様な学習・研究活動を支えるための設備が用意されている。ほとんどの設備で目的や利用方法が明確化されており、図書館サービスが計画的に設計されている印象を受けた。

3.2.1 オープンアクセスの状況

転換契約³⁰を用いたAPC支援は他の香港の大学と同様にAPC全額免除のものが多い。香港大学では転換契約締結に伴う契約額増加分を抑制するため購読タイトル削減などを実施したが、特に新たな予算は用意せず転換契約締結に至ったとのことであった。

機関リポジトリ³¹のコンテンツ収集方法については、研究者がResearch Information Management System (RIMS)に研究成果を登録することが義務付けられており、研究成果が提出されると機関リポジトリに同期される。論文以外に特許情報等のコンテンツも提供されており、図書館外の様々なユニットからも情報を収集しているとのことであった。

3.2.2 デジタルアーカイブの状況

資料の保護を目的として利用頻度の高い所蔵資料を優先的にデジタル化するとともに、寄贈資料や外部資金により入手した資料のデジタル化にも積極的に取り組んでいる。直近の事例としては、2023年にChan Kwan Po Diaries³²と呼ばれる手稿の寄贈を受け、修復と

デジタル化を進めている。過去には、財団の支援を受けて約 25,000 点の写真からなる大規模なコレクション Frank Fischbeck Collection³³を入手し、デジタル化した実績もある。

同大学では、The Preservation and Conservation Division³⁴が専門技術を駆使して資料の保存・修繕にあたっており、現物の管理にも尽力している様子がうかがえた。

3.3 香港中文大学(The Chinese University of Hong Kong)

創立 1963 年、学生数約 1 万 8 千名³⁵の公立大学である。Learning Garden³⁶と呼ばれる 24 時間利用可能な施設が地下に設けられている。オープンスペースの天井はガラス張りで、地上の池を通じて自然光が柔らかく差し込む設計となっており、快適な学習環境が整えられている。同施設内には、3D プリンタや VR 機器、動画撮影機器等が設置されており、学生の創作活動を支援している。

3.3.1 オープンアクセスの状況

他の大学同様に APC 支援³⁷、機関リポジトリ³⁸を提供している。

注目すべきは Open Books Hong Kong³⁹、Diamond Open Access Megajournal Project⁴⁰の 2 つのプロジェクトである。Open Books Hong Kong は香港中文大学図書館がイニシアティブを取り、香港大学、香港城市大学の図書館と大学出版局の共同で 2024 年に開始した、オープンアクセス書籍の取り組みである。Diamond Open Access Megajournal Project は香港中文大学図書館が CNKI (China National Knowledge Infrastructure) と共同で進めるダイヤモンド・オープンアクセス・メガジャーナルの開発プロジェクトであり、2024 年にレポートを公開している。両プロジェクトに共通しているのは中国語、とりわけ人文社会系の研究のオープンアクセスを意識している点である。

3.3.2 デジタルアーカイブの状況

20 世紀に香港で発行されたタブロイド誌に学術的価値を見出してデジタル化し、Hong Kong Early Tabloid Newspapers 《香港早期小報》⁴¹として公開し、館内の大型タッチパネルモニターでも利用できる。同コレクションは単に web で公開するだけでなく、アイテムを視覚的に探しやすい工夫も見られる。例えば、The Hongkong News というタブロイド誌を提供するサイトでは、記事の見出しを抽出・分析したうえで年表および地図上に配置し、その見出しをクリックすると、アイテム本体にアクセスできる⁴²。加えて、別タイトル The Observatory Review 《天文臺》においても、テキストの分析と視覚化を試行中である⁴³。

4. オレゴン大学

オレゴン大学(University of Oregon)と東北大学の両図書館は、交流協定を 2023 年に締結した⁴⁴。今回、その交流協定の枠組みにおける今後の両大学の人事交流のあり方の模索と、世界に先駆けて 2022 年に論文と研究データの即時公開方針を決定したアメリカ⁴⁵における研究データマネジメントの実態を調査することを目的として、2025 年 1 月 22 日～1 月 23 日の 2 日間、三角太郎、木下直、後藤浩子がオレゴン大学ユーージンキャンパス、ポートランドキャンパスを訪問調査した。

オレゴン大学は、1876 年に設立された州立の総合大学で、約 2 万 4 千人の学生が在籍する⁴⁶。メインキャンパスは、オレゴン州で 2 番目の人口を誇るユーージンにある。ナイキの創業者の出身校であることから、ナイキの手厚い支援を得て、アメフトや陸上の強豪校として全米に知られる。

ユーージンキャンパスにあるサイエンスライブラリ (The Allan Price Science Commons and Research Library)では、工業用ミシン、物作りの工具、アプリを提供する MakerSpace

と呼ばれるエリアを整備し、図書館資料としてゲームソフトを所蔵するなど、大学として様々な研究・学習ニーズに応える意図が強く感じられた。

4.1 オープンサイエンスの状況

オレゴン大学でオープンアクセスに関わるのは、教職員、学生の研究成果を公開する機関リポジトリ Scholar's Bank⁴⁷やオレゴン大学図書館とオレゴン州立大学図書館が共同で運営するデジタルアーカイブ Oregon Digital⁴⁸の運用を担当する Digital Library Services チームと、Open Publishing や Open Data 等の研究者向けインストラクションを担当する Department of Open Research チームである。Digital Library Services は学内の研究成果やオレゴン州の文化遺産を保存する機能を受け持っている。Department of Open Research は学内研究者に向けた APC 支援や研究データマネジメントのコンサルティングを行い、オープンアクセスを推進し、研究成果の利用を促す役割を果たしている。研究データマネジメントは学術 librarian と協力するほか、院生アルバイトによるコンサルティングも行われ、それが院生のキャリア支援にもなるという。それぞれのミッションやスキルに沿って機能強化・高度化を進めている点は、研究支援サービス検討の参考になった。



オレゴン大学ポートランドキャンパスで

4.2 人材育成

組織を支える中心的な人材としての librarian と、日常業務を支える staff とに分けられている。librarian は能力や経験に応じて assistant、associate、senior と昇進する。キャリアパスとしては、図書館のマネジメントに関わる方向性と専門分野を極める方向性とに分かれていく。名簿も公開されているが、OA に係るのは、19 名（Digital Library Services 12 名、Department of Open Research 7 名）⁴⁹であり、組織的に人材育成されている様子が見えてきた。一方、staff にはランク付けがなく、能力や経験により昇給するシステムになっている。

このように、それぞれの大学での取り組みを調査することができた。いずれの大学図書館においても、スタッフの皆様が大変親切に対応してくださり、多くの時間を割いて質問に答え、活動について詳細に説明してくださったことに深く感謝申し上げます。

この訪問は、オープンアクセス加速化経費と学内経費を用いて実施した。

1 東北大学プレスリリース。東北大学・東京工業大学・総合研究大学院大学・東京理科大学と Wiley、日本発の研究成果のオープンアクセス化の促進に関する覚書に署名。

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2022/02/press20220208-01-Axess.html>, (参照 2025-03-28)。

2 東北大学総合知デジタルアーカイブ。 <https://touda.tohoku.ac.jp/portal/>, (参照 2025-03-28)。

3 統合イノベーション戦略推進会議(内閣府)。学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針。

https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf, (参照 2025-03-28)。

4 PRRLA。 <https://pacificrimlibraries.org/>, (参照 2025-03-28)。

-
- 5 佐々木智穂. 環太平洋研究図書館連合(PRRLA: Pacific Rim Research Libraries Alliance) —2017 年総会参加報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018, 5, p. 153-158, <https://tohoku.repo.nii.ac.jp/records/125044>, (参照 2025-03-28).
 - 6 Simon Fraser University. Who we are. <https://www.sfu.ca/about/who-we-are.html>, (参照 2025-04-19).
 - 7 Simon Fraser University Library. <https://www.lib.sfu.ca/>, (参照 2025-03-28).
 - 8 Tri-Agency とは the Canadian Institutes of Health Research (CIHR), the Natural Sciences and Engineering Research Council of Canada (NSERC), and the Social Sciences and Humanities Research Council of Canada (SSHRC)のこと. Open Access Policy. <https://science.gc.ca/site/science/en/interagency-research-funding/policies-and-guidelines/open-access>, (参照 2025-03-28).
 - 9 Borealis. <https://borealisdata.ca/>, (参照 2025-03-28).
 - 10 FRDR. <https://www.frdr-dfdr.ca/repo/>, (参照 2025-03-28).
 - 11 Summit Research Repository. <https://summit.sfu.ca/>, (参照 2025-03-28).
 - 12 SFU Research Data. <https://www.frdr-dfdr.ca/repo/collection/sfu>, (参照 2025-03-28).
 - 13 SFU Central Open Access Fund. <https://www.lib.sfu.ca/help/publish/scholarly-publishing/funding/sfu-open-access-fund>, (参照 2025-03-28).
 - 14 PKP Public Knowledge Project. <https://pkp.sfu.ca/>, (参照 2025-03-28).
 - 15 Jxiv. <https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv>, (参照 2025-03-28).
 - 16 カム, ビョーン=オーレ. Open Journal Systems (OJS)の紹介 --学術誌『RPG 学研究』(JARPS)を例に一. 京都大学研究者の歩き方セミナー記録. <http://hdl.handle.net/2433/290001>, (参照 2025-03-28).
 - 17 The University of the British Columbia. UBC Overview and Facts. <https://www.ubc.ca/about/facts.html>, (参照 2025-03-28).
 - 18 Digitization Centre. <https://digitize.library.ubc.ca/>, (参照 2025-04-19).
 - 19 cIRcle UBC. <https://circle.ubc.ca/>, (参照 2025-04-19).
 - 20 University Grants Committee. RGC Homepage. <https://www.ugc.edu.hk/eng/rgc/>, (参照 2025-03-27).
 - 21 Research Grants Council. “Open Access Plan of the Research Grants Council”. RGC Homepage. <https://www.ugc.edu.hk/doc/eng/ugc/publication/report/report20210106/report20210106.pdf>, (参照 2025-03-27).
 - 22 JULAC. “JULAC Position Statement on Open Scholarship”. JULAC. https://www.julac.org/?page_id=7490, (参照 2025-03-27).
 - 23 Times Higher Education. “The Hong Kong Polytechnic University”. <https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/hong-kong-polytechnic-university>, (参照 2025-03-27).
 - 24 Pao Yue-kong Library, The Hong Kong Polytechnic University. “i-Space”. <https://libguides.lb.polyu.edu.hk/i-Space/home>, (参照 2025-03-27).
 - 25 Pao Yue-kong Library, The Hong Kong Polytechnic University. “OA Publishing (Gold OA)”. Pao Yue-kong Library. <https://libguides.lb.polyu.edu.hk/open-access/publishing>, (参照 2025-03-27).
 - 26 Pao Yue-kong Library, The Hong Kong Polytechnic University. PolyU Institutional Research Archive. <https://ira.lib.polyu.edu.hk/>, (参照 2025-03-27).
 - 27 Pao Yue-kong Library, The Hong Kong Polytechnic University. “PolyU Digital University Collection”. Digital Collections. <https://dc.lib.polyu.edu.hk/collections/8p58ph34n?locale=en>, (参照 2025-03-27).
 - 28 Pao Yue-kong Library, The Hong Kong Polytechnic University. “i-Space: Student Project - Virtual Tour of PolyU Old Campus”. Pao Yue-kong Library. <https://libguides.lb.polyu.edu.hk/i-Space/HKTC>, (参照 2025-03-27).
 - 29 Times Higher Education. “University of Hong Kong”. <https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/university-hong-kong>, (参照 2025-03-27).
 - 30 The University of Hong Kong Libraries, University of Hong Kong. “Article Processing Charges & Transformative Agreements”. HKU Libraries. <https://libguides.lib.hku.hk/openaccess/ta>, (参照 2025-03-27).
 - 31 The University of Hong Kong Libraries, University of Hong Kong. The HKU Scholars Hub. <https://hub.hku.hk/>, (参照 2025-03-27).
 - 32 The University of Hong Kong. “Chan Kwan Po Diaries” Manuscript Donation Ceremony”. The University of Hong Kong. <https://www.hku.hk/press/press-releases/detail/26970.html>, (参照 2025-03-27).
 - 33 The University of Hong Kong. “Frank Fischbeck Collection”. Digital Repository@HKUL. <https://digitalrepository.lib.hku.hk/fischbeck>, (参照 2025-03-27).
 - 34 The University of Hong Kong Libraries, University of Hong Kong. “Preservation & Conservation”. HKU Libraries. <https://lib.hku.hk/preservation/index.html>, (参照 2025-03-27).

-
- 35 Times Higher Education. “The Chinese University of Hong Kong”.
<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/chinese-university-hong-kong>, (参照 2025-03-27).
- 36 The Chinese University of Hong Kong Library. “Learning Garden & MakerSpace”.
<https://www.lib.cuhk.edu.hk/en/libraries/ul/lg/>, (参照 2025-03-27).
- 37 The Chinese University of Hong Kong Library. “Open Access: CUHK OA Publishing Plan”. The Chinese University of Hong Kong Library. <https://libguides.lib.cuhk.edu.hk/openaccess/cuhk>, (参照 2025-03-27).
- 38 The Chinese University of Hong Kong. The Chinese University of Hong Kong Research Portal.
https://aims.cuhk.edu.hk/converis/portal/overview?lang=en_GB, (参照 2025-03-27).
- 39 Open Books Hong Kong. Open Books Hong Kong. <https://openbookshongkong.com/en/>, (参照 2025-03-27).
- 40 The Chinese University of Hong Kong Library. “Diamond Open Access Megajournal Project: Reflection from CUHK Library”. The Chinese University of Hong Kong Library.
<https://www.lib.cuhk.edu.hk/en/about/news/ls-diamond-oa-project-report/>, (参照 2025-03-27).
- 41 The Chinese University of Hong Kong Library. “Hong Kong Early Tabloid Newspapers 香港早期小報”. CUHK Digital Repository. <https://repository.lib.cuhk.edu.hk/en/collection/cuhk-hk-tabloid>, (参照 2025-03-27).
- 42 The Chinese University of Hong Kong Library. “Heading Analysis with Machine Learning on The Hongkong News”. Digital Scholarship Projects.
<https://dsprojects.lib.cuhk.edu.hk/en/projects/heading-analysis-with-machine-learning-on-the-hongkong-news/tabloid-hknews-about/>, (参照 2025-03-27).
- 43 The Chinese University of Hong Kong Library. “Text Analysis and Visualisation of The Observatory Review from Hong Kong Early Tabloid Newspaper”. Digital Scholarship Projects.
<https://dsprojects.lib.cuhk.edu.hk/zh-hans/projects/hong-kong-early-tabloid-newspapers/tabloid-introduction/>, (参照 2025-04-06)
- 44 「東北大学附属図書館とオレゴン大学間における覚書」(MEMORANDUM OF UNDERSTANDING BETWEEN TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY AND UNIVERSITY OF OREGON)を2023年11月に締結
- 45 米国・OSTP による研究成果公開に関する政策方針について(カレントアウェアネス E No.449 2022.12.22)
<https://current.ndl.go.jp/e2564>, (参照 2025-04-14)
- 46 The University of Oregon “About the UO” Our Students
<https://www.uoregon.edu/about>, (参照 2025-04-14)
- 47 Scholars Bank <https://scholarsbank.uoregon.edu/home>, (参照 2025-04-21)
- 48 Oregon Digital, <https://www.oregondigital.org/>, (参照 2025-04-19).
- 49 UO Libraries “Employee Directory” に掲載された Digital Library Services, Department of Open Research に所属する職員数. <https://library.uoregon.edu/about-us/directory>, (参照 2025-04-14)

第79回

東北地区大学図書館協議会 総会

期 日：令和6(2024)年9月13日(金)

会場等：尚絅学院大学(ハイブリット開催)

当番館：尚絅学院大学附属図書館

第 79 回東北地区大学図書館協議会総会 資料目次

●第79回東北地区大学図書館協議会総会 議事次第……………	1
●第79回東北地区大学図書館協議会総会 出席予定者名簿……………	3

I. 総会資料

1. 報告事項

【資料1】 令和5年度活動報告……………	5
【資料2-1】 令和5年度一般報告:国公立大学図書館等の動向……………	6
【資料2-2】 (一般報告)国立大学部会関係……………	15
【資料2-3】 (一般報告)公立大学部会関係……………	20
【資料2-4】 (一般報告)私立大学部会関係……………	22
【資料3】 令和5年度研修部会活動報告……………	25

2. 協議事項

【資料4】 令和5年度決算書(案)……………	27
【資料5】 令和5年度記念事業基金決算書(案)……………	28
【資料6】 令和5年度会計監査報告……………	29
【資料7】 令和6年度事業計画(案)……………	30
【資料8】 令和6年度予算書(案)／令和6年度記念事業基金予算書(案)・	32
【資料9】 第80回総会の当番地区(館)について……………	33
【資料10】 第80回記念事業(案)について……………	34

3. 承合事項

【資料11】 「2025年度からのOA義務化」への対応状況について……………	35
--	----

II. 参考資料

【参考資料1】 東北地区大学図書館協議会会則……………	42
【参考資料2】 東北地区大学図書館協議会表彰規程……………	43
【参考資料3】 東北地区大学図書館協議会表彰規程取扱要項……………	44
【参考資料4】 東北地区大学図書館協議会研修部会設置要項……………	45
【参考資料5】 役員館一覧……………	46
【参考資料6】 第78回東北地区大学図書館協議会総会議事メモ……………	47
尚絅学院大学キャンパスマップ……………	50

第79回東北地区大学図書館協議会総会 議事次第

1. 開会

挨拶

尚絅学院大学

学長 鈴木 道子

尚絅学院大学(当番館)

図書館長 太田 健児

2. 基調講演

東北学院大学 文学部 准教授 吉植庄栄 氏

約10年間、情報リテラシー教育業務を担当して：図書館員と教員の視点から

3. 議長選出

4. 総会

4-1. 報告事項

①令和5年度活動報告について

②令和5年度一般報告について

(一般報告)国立大学部会関係

(一般報告)公立大学部会関係

(一般報告)私立大学部会関係

③令和5年度研修部会活動報告について

4-2. 協議事項

①令和5年度決算報告(案)について

②令和5年度記念事業基金決算報告(案)について

③令和5年度会計監査報告について

④令和6年度事業計画(案)について

⑤令和6年度予算(案)について

⑥令和6年度記念事業基金予算(案)について

⑦第80回総会の当番地区(館)について

⑧第80回記念事業(案)について

4-3. 承合事項

①「2025年度からのOA義務化」への対応状況について

5. 部会

6. 全体会議

6-1. 各部会からの報告

6-2. その他

7. 閉会

挨拶 次期当番館

第 79 回東北地区大学図書館協議会総会 出席者名簿

※対面参加 21 大学 22 名（国立 6、公立 3、私立 13）

※オンライン参加 27 大学 30 名（国立 5、公立 9、私立 16）

No	大学・図書館名	役職	氏名	方式
1	弘前大学附属図書館	附属図書館事務長	三上 豊	対面
2	岩手大学図書館	学術情報課長	高橋 和恵	オンライン
3	東北大学附属図書館	総務課長	三角 太郎	対面
		総務課専門員	渡邊 愛子	対面
8	宮城教育大学附属図書館	学術情報係長	佐々木 智穂	オンライン
9	秋田大学附属図書館	附属図書館長	清水 宏明	オンライン
		図書館・情報推進課長	利 勝利	対面
		総括主査	杉山 禎広	対面
11	山形大学附属図書館	中央図書館長	池田 光則	オンライン
		研究情報部長	吉田 正男	オンライン
15	福島大学附属図書館	学術情報課 副課長	菅野 悟	対面
16	青森公立大学、図書館	主査	中村 裕	オンライン
18	岩手県立大学メディアセンター	主任図書事務員	坂本 由美	オンライン
19	宮城大学学術情報センター	学術情報センター長	茅原 拓朗	対面
		学術情報室長	吉川 陽大	対面
20	秋田県立大学附属図書館	チームリーダー	荻原 正幸	オンライン
21	秋田公立美術大学附属図書館	主席主査	池田 知剛	対面
24	山形県公立大学法人附属図書館	図書館長	吉田 歆	オンライン
		総務企画課長	井渕 善洋	オンライン
25	会津大学情報センター附属図書館	情報センター主幹兼事務長	五十嵐 卓児	オンライン
26	会津大学短期大学部附属図書館	附属図書館長	鈴木 秀子	オンライン
		主任司書	佐々木 倫子	オンライン
27	福島県立医科大学附属学術情報センター	専門司書	古川 聖子	オンライン
28	柴田学園大学附属図書館	教授	友田 志郎	オンライン
31	弘前学院大学附属図書館	図書館長	井上 諭一	オンライン

No	大学・図書館名	役職	氏名	方式
32	青森中央学院大学図書館情報センター	リーダー	鳴海 晴美	オンライン
33	岩手医科大学附属図書館	専門幹	川崎 かおる	オンライン
		学術情報管理係長	佐々木 絵美	オンライン
35	盛岡大学図書館	盛岡大学図書館館長	矢野 千載	オンライン
36	修紅短期大学図書館	図書館長	鈴木 美樹子	オンライン
38	仙台白百合女子大学図書館	図書館長	大本 泉	対面
		事務長	佐藤 啓朗	対面
		主任	谷藤 大介	対面
40	東北学院大学	図書情報課長	曾根 邦敏	対面
			大岡 弘明	対面
41	東北工業大学附属図書館	図書館員	石橋 大	オンライン
42	東北福祉大学図書館	主任	八巻 千穂	対面
44	東北医科薬科大学附属図書館	係長	島田 あすか	対面
46	尚絅学院大学	図書館長	太田 健児	対面
47	聖和学園短期大学図書館	図書館長	佐々木 貴弘	対面
49	東北生活文化大学附属図書館	図書館長	伊藤 常久	オンライン
		司書	村山 智美	オンライン
53	東北文教大学附属図書館	課長	安部 愛	対面
54	東北公益文科大学図書館	図書館長	西村まどか	対面
		図書館事務室長	齋藤 富実子	対面
55	医療創生大学図書館	事務担当	関場 早希子	オンライン
56	奥羽大学図書館	図書館事務部 図書課 主任	小林 克也	オンライン
57	郡山女子大学図書館	図書係(主任)	井上 英子	オンライン
59	日本大学図書館工学部分館	工学部分館長	濱田 幸雄	オンライン
		図書館事務課主任	真壁 直也	オンライン
60	桜の聖母短期大学図書館情報センター	司書	川村 瑠莉花	オンライン
61	福島学院大学図書館情報センター	業務課主任	善方 和美	対面

令和 5 年度活動報告

(常任幹事館:東北大学附属図書館)

第 78 回(令和 5 年 9 月)以降の協議会の活動について、以下の通り報告する。

1.研修会の開催

1-1) 国立大学図書館協会東北地区協会令和 5 年度職員研修

主 催 : 国立大学図書館協会東北地区協会(国立大学図書館協会地区協会助成事業)

後 援 : 東北地区大学図書館協議会

日 時 : 令和 6 年 1 月 26 日(金)13 時 30 分～17 時 00 時

会 場 : 東北大学附属図書館(本館)大会議室

講義は対面+Web会議ツールによるオンライン配信

実習は対面のみ

テーマ : 「これからも紙の本を守るために:大学図書館資料の修理と保存」

講 師 : 横山道子(日本図書館協会 資料保存委員会委員)

参加者: (対面)16 名 (オンライン)99 アクセス

【申込者内訳(申込総数 115 名)】

(東北地区) 国立大学 37 名 公立大学 10 名 私立大学 17 名

(東北地区以外) 国立大学 47 名、大学共同利用機関法人 4 名

1-2) 令和5年度東北地区大学図書館協議会合同研修会

日 時 : 令和6年 8 月 8 日(木)14 時 00 分～15 時 30 分

会 場 : オンラインセミナー(Zoom ウェビナー)

主 催 : 山形大学附属図書館

テーマ: オープンアクセスと大学図書館

講 師 : 影山啓太(文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室)

「大学図書館に関する動向:オープンアクセスを中心に」

田林美幸(山形大学研究情報部学術情報課副課長)

「山形大学のオープンアクセスに関する取り組み」

参加者: 申込数 97 名(国立41名、公立10名、私立46名)(視聴予定者数)

最大同時接続数 66件

※ 当日資料はウェブサイト掲載

https://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/kensyu_godo.html

2.協議会誌の刊行

『東北地区大学図書館協議会誌』第 75 号刊行(令和6年 5 月)

加盟館及び国立国会図書館等関係機関に配布、並びに、ウェブサイトで公開

<https://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/kaishi.html>

3.加盟館数

61 館 (内訳) 国立 15 館、公立 12 館、私立 34 館 (令和 6 年 5 月現在)

4.その他

令和 6 年 2 月「大学図書館職員初任者マニュアル 第 3 版」更新

https://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/fresh_manual03.1.pdf

令和5年度一般報告:国公立大学図書館等の動向

(常任幹事館:東北大学附属図書館)

1. 国公立大学図書館協力委員会

<https://julib.jp/>

- 1) 委員長館 2023 年 8 月 1 日～2024 年 7 月 31 日 早稲田大学
2024 年 8 月 1 日～2025 年 7 月 31 日 筑波大学

2) 会議

(1) 第 94 回国公立大学図書館協力委員会

日 時 2023 年 7 月 24 日(月)

会 場 対面会場及び Web 会議システムによるハイブリッド方式

主な話題 「大学図書館研究」編集委員会報告、専門委員会会計監査報告、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)報告、国立情報学研究所報告、専門委員会主査選出、大学図書館著作権検討委員会運営細則改定、「図書館相互協力便覧 追録」検討、「生成系 AI をめぐる各大学の動向について」(懇談事項)

(2) 第 95 回国公立大学図書館協力委員会

日 時 2023 年 12 月 14 日(木)

会 場 オンラインによる開催

主な話題 シンポジウム企画・運営委員会報告、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)報告、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)報告、国立情報学研究所報告、「図書館相互協力便覧 追録」検討、2022 年度決算(案)および監査報告、2023 年度予算、監事館選出、文部科学省報告

(3) 第 96 回国公立大学図書館協力委員会

日 時 2024 年 7 月 24 日(水)

会 場 オンラインによる開催

主な話題 「大学図書館研究」編集委員会報告、専門委員会会計監査報告、専門委員会主査承認、専門委員会旅費支給運用、次期委員長館選出、国立国会図書館との懇談について(懇談事項)、「早慶和書電子化推進コンソーシアム」の活動について(懇談事項)、文科省報告、

3) 大学図書館シンポジウム

テーマ 「著作権法と大学図書館 ～令和 3 年の著作権法改正を中心に～」

日 時 2024 年 1 月 22 日(月) 13:30～16:00

会 場 Zoom ウェビナーによるオンライン配信

運 営 日本図書館協会大学図書館部会と共催

※ 当日資料および録画 → https://julib.jp/symposium_2023

4) 出版

「大学図書館研究」(オープンアクセス) No.124-126 発行

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jcul/-char/ja/>

2. 日本図書館協会大学図書館部会

<https://www.jla.or.jp/divisions/daigaku/tabid/269/Default.aspx>

- 1) 部会長館 2023 年 8 月 1 日～2024 年 7 月 31 日 早稲田大学
2024 年 8 月 1 日～2025 年 7 月 31 日 筑波大学

2) 会議等

(1) 2023 年度部会総会

日 時 2023 年 5 月 25 日(木)～6 月 2 日(金)

会 場 書面決議会議

主な議題 事業報告および経費収支報告、事業計画・予算調書、一般理事候補者推薦

3) 事業

(1) 第 109 回全国図書館大会岩手大会への協力

日 時 2023 年 11 月 16 日(木)～11 月 17 日(金)

会 場 全体会 盛岡市民文化ホール大ホール(マリオス内)

分科会 いわて県民情報交流センター(アイーナ内)各会議室

テーマ 第 2 分科会「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方」

(2) 2023 年度大学図書館シンポジウム(大学図書館研究集会)

テーマ 「著作権法と大学図書館 ～令和 3 年の著作権法改正を中心に～」

日 時 2024 年 1 月 22 日(月)13:30～16:00(オンラインによる開催)

運 営 国公立大学図書館協力委員会(シンポジウム企画・運営委員会、大学図書館著作権検討委員会)と共催

3. 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

<https://contents.nii.ac.jp/cpc>

1) 第 26 回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

日 時 2023 年 7 月 6 日(木) 13:00-15:00

会 場 オンラインによる開催

主な話題 文部科学省動向報告、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)活動報告、これからの学術情報システム構築検討委員会活動報告・審議、

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動報告、国公立大学
図書館協力委員会動向報告、国立情報学研究所学術コンテンツ事業報
告、国立情報学研究所研究データ基盤(NII RDC)報告

2) 第 27 回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

日 時 2024 年 2 月 6 日(火) 13:00-14:25

会 場 オンラインによる開催

主な話題 「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会報告、大学図書館コン
ソーシアム連合(JUSTICE)活動報告、これからの学術情報システム構築
検討委員会活動報告・審議、オープンアクセスリポジトリ推進協会
(JPCOAR)活動報告、国立情報学研究所学術コンテンツ事業報告、国公
私立大学図書館協力委員会動向報告

4. これからの学術情報システム構築検討委員会

<https://contents.nii.ac.jp/korekara>

1) 会議

(1) 第 37 回委員会

日 時 2023 年 10 月 4 日(水) 15:00~17:00

場 所 オンライン会議 WebEx

主な話題 「これからの学術情報システムの在り方について(2023)」の草案・骨子(審
議)、NACSIS-CAT における個人情報保護法上の問題点への対応につ
いて(審議)、電子ブックメタデータ(国内)のプロトタイプ版の開発状況につ
いて(報告)、図書館総合展 2023 について(報告)

(2) 第 38 回委員会

日 時 2023 年 12 月 6 日(水) 14:30~16:30

場 所 オンライン会議 WebEx

主な話題 「これからの学術情報システムの在り方について(2023)」について(審
議)、コーディングマニュアル NCR2018 対応版について(審議)、電子ブ
ックメタデータ(国内)のプロトタイプ版の公開(報告)、CAT2020 の運用状
況について(報告)、図書館総合展 2023 について(報告)、NACSIS-
CAT における個人情報保護法上の問題点への対応について(報告)

(3) 第 39 回委員会

日 時 2024 年 1 月 24 日(水) 15:00~17:00

場 所 オンライン会議 WebEx

主な話題 2023 年度の活動について、2024 年度の活動について、「これからの学
術情報システムの在り方について (2024)」について(審議)、コーディング
マニュアル NCR2018 対応版について(審議)、2024 年度以降の目録系

研修の企画について、電子リソースデータ共有サービス「タイトルリスト (JUSTICE)」のテスト公開について、NACSIS-CATにおける個人情報保護法上の問題点への対応について(報告)

(4) 第40回委員会

日 時 2024年6月24日(月)14:00~16:00

場 所 オンライン会議 WebEx

主な話題 これからの学術情報システム構築検討委員会 2024 年度活動計画(審議)、システムワークフロー検討作業部会 2024 年度活動計画(審議)、ユーザーグループ運営作業部会 2024 年度活動計画(審議)、次世代検索サービスの検討と実現について(懇談)、コーディングマニュアル・目録情報の基準改定版の確定について(審議)、国立情報学研究所の検討状況について、学術基盤オープンフォーラムについて(報告)

5. 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)

<https://contents.nii.ac.jp/justice>

1) 会議

(1) 2023 年度通常総会

日 時 2024 年 3 月 1 日(金)13:30-15:30

会 場 オンライン会議

主な話題 オープンアクセス推進に関する政府の動向及び政府が支援する交渉体制について(解説)、2023 年度活動(報告)、2023年度決算(協議)、2024年度計画(協議)、2024年度予算(協議)、2024 年度運営委員会委員(協議)

2) 事業

(1) 版元提案説明会

日程:2023 年 9 月 6 日-7 日

場所:一橋大学一橋講堂中会議場 ※版元説明はオンライン配信

(2) OA 推進に関する取り組み

- ・OA 推進作業部会を設置
- ・2024年度提案で、Read&Publish 提案(9提案)、APC 割引(3提案)合意
- ・「2023年度論文公表実態調査」
- ・IEEE の2024Read&Publish パイロットプランに対するグループ交渉の支援

(3) 電子リソースに関わる図書館職員の資質向上

- ・ JUSTICE 電子資料契約実務研修会

日時 2023 年 7 月 21 日(金)

会場 オンライン開催

- ・『電子資料契約実務必携』改訂版の公開
 - ・ JUSTICE ウェブサイト会員館限定ページに掲載
 - ・ 用語集・参考文献等一部を一般公開

6. オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

1)会議

(1)総会

日 時 2024 年3月13日(水)13:30~15:15

会 場 オンライン会議

主な話題 2024 年度会長選出について（協議）、2024 年度監事選出について（協議）、2024 年度運営委員会委員について（協議）、2024 年度活動計画について（協議）、2024 年度予算について（協議）、「出向者の役割および勤務の在り方の見直しについて」（審議中）、2023 年度活動について（報告）、2023 年度決算について（経過報告）、JAIRO Cloud (WEKO3)への移行について（報告）、JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォースの活動について（報告）

2)事業

(1)オープンアクセス推進に関する取り組み

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」・オープンアクセス加速化事業への会員館の対応支援のため、以下を開催

- ・「JAIRO Cloud でオープンアクセス加速化事業を加速化する懇談会」(2024 年 3 月 4, 6, 8 日)(国立情報学研究所との共催)
- ・「国際デジタルキュレーション会議(IDCC2024)等報告会」(2024 年 3 月 15 日)
- ・英国オープンアクセス政策対応等調査報告会(2024 年 3 月 18 日)(主催:国立大学図書館協会資料委員会、共催:JPCOAR、協力:大学図書館コンソーシアム連合)
- ・第 3 回学術情報流通に関する連続セミナー『学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針』に関する懇話会」(2024 年 3 月 19 日)(大学図書館コンソーシアム連合、研究大学コンソーシアムとの共催)
- ・「解説オープンアクセスアシスト機能」(2024 年 3 月 21,25 日)
- ・OA 加速化事業について知りたいことをリストアップする会(2024 年 3 月 21, 29 日)

(2)イベント

- ・学術コミュニケーションセミナー(JPCOAR Webinar)(オンライン)
 - 第 4 回「IRDB-カラクリと役割:どこから・どこへ・どのように-」(2024 年 1 月 17 日、参加者数 209 名)
- ・図書館総合展フォーラム(ハイブリッド)

「JPCOAR meets JUSTICE:大 OA 時代の中を漕ぎ進む大学図書館」(2023 年 10 月 25 日、90 名現地参加、オンライン配信視聴回数:486 回)

6. 国立情報学研究所教育研修事業

<https://contents.nii.ac.jp/hrd/apply/2023>

<専門研修>

目録システム書誌作成研修

情報処理技術セミナー(認証編)

情報処理技術セミナー(クラウド編)

<総合研修>

国立情報学研究所実務研修

大学図書館員のための IT 総合研修

大学図書館職員短期研修

<教材>

NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材

NACSIS-CAT/ILL テキスト教材

7. 国会図書館「令和 5 年度の研修」

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/fy2023/index.html>

8. 最近のトピックス

1) 即時オープンアクセス

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(令和6年2月16日 統合イノベーション戦略推進会議決定)

https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf

(1) 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施

公的資金のうち 2025 年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者(法人を含む)に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける。

即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費制度は、学術論文を主たる成果とするものとし、関係府省が定める。即時オープンアクセスの対象は、査読付き学術論文(電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文(著者最終稿を含む))及び根拠データ(掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ)とする。

(2) グローバルな学術出版社等(学術プラットフォーム)との交渉

誰もが自由に学術論文及び根拠データを利活用できる権利の確保等の観点から、学術プラットフォームに対する大学を主体とする集団交渉の体制構築を支援し、交渉の取組を通じて研究コミュニティの経済的負担の適正化を図る。

(3) 学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載

学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を通じて、誰もが自由に利活用可能となることを目指す。

機関リポジトリ等の情報基盤とは、第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)において「研究データの管理・利活用のための我が国の中核的なプラットフォーム」として位置付けた研究データ基盤システム(NII Research Data Cloud)上で学術論文及び根拠データが検索可能となるものとする。

(4) 研究成果発信のためのプラットフォームの整備・充実

研究成果を誰もが自由に利活用可能とするための発信手段として、研究データ基盤システム(NII Research Data Cloud)、その他のプレプリント、学術論文等の研究成果を管理・利活用をするためのプラットフォームの整備・充実に対する支援を行う。

(5) 国際連携

FAIR 原則(Findable(見つけられる)、Accessible(アクセスできる)、Interoperable(相互運用できる)、Reusable(再利用できる))に沿ったオープンサイエンスの推進のため、学術論文及び根拠データの即時オープンアクセスに関する国際連携を進める。特に、G7 等の価値観を共有する国・地域・国際機関等との連携を図る。

(6) 実施体制その他の事項

本方針で定めるほか、公的資金による研究データの管理・利活用に関しては、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」(令和3年4月 27 日統合イノベーション戦略推進会議決定)によるものとする。

資金配分機関、大学等及びその他即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者の所属する機関が即時オープンアクセスの実施状況を把握するためのシステム間の連携について、関係府省間で検討を行う。

オープンアクセスは研究成果の発信力の向上等のために行うものであることを認識し、既存の研究費や採択件数を圧迫しないよう留意して施策を進める。

本方針を踏まえた学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向け連携して取り組むとともに、関係府省間の検討の場を設け、関係施策実施にあたっての具体的方策を定める。

国内外のオープンアクセスに関する政策動向、市場動向等を踏まえ、必要に応じて本方針を見直す。

※ アンダーライン・太字強調は常任幹事館

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」(統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月 16 日決定)の実施にあたっての具体的方策(令和6年2月21日 関係府省申合せ)

https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf

1. 即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費制度

即時オープンアクセスの対象となる学術論文を主たる成果とする競争的研究費制度は、当面の間、

- ・新たな科学的知見の創出を主眼とし、査読付き学術論文を主たる成果として取り扱うもの
- ・「特定の行政施策の一環として行われ、技術水準の向上を図るもの」以外のもの

等の観点から総合的に判断するものとし、国内外のオープンアクセスに関する政策動向、市場動向等を踏まえ必要な見直しを行うこととする。

学術論文及び根拠データの即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費制度は、現行制度が継続し、2025 年度に新たに公募を行う場合について、以下の表のとおり。なお、競争的研究費の各制度の改廃に併せて本表を修正する。

表 学術論文を主たる成果とする競争的研究費制度

	府省名	資金配分機関	制度名
1	文部科学省	日本学術振興会	科学研究費助成事業
2	文部科学省	科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業 ¹
3	文部科学省	日本医療研究開発機構	戦略的創造研究推進事業
4	文部科学省	科学技術振興機構	創発的研究支援事業

2)「2030デジタル・ライブラリー」推進に向けたロードマップ

オープンサイエンスの時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて～2030 年に向けた大学図書館のロードマップ～(令和 6 年 7 月 1 日「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/071/mext_00002.html

オープンサイエンス時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて

～ 2030 年に向けた大学図書館のロードマップ ～

「デジタル・ライブラリー」の実現は、オープンサイエンスを実質化し、データ駆動型研究の基盤を提供するとともに、我が国における研究成果の社会実装と研究力強化に寄与するものである。また、多様化する高等教育とその学修者のニーズに対応して、いつでも、どこでも学ぶことを可能にし、学修者本位の質の高い教育・学修の実現に資するものでもある。

昨年発足した「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会では、まずこのような「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた当面の目標である「2030 年の大学図書館の望ましい姿」を具体的に描き、「実現に向けた課題」を整理した。その上で、大学図書館のみならず、国、大学、大学図書館関係団体等が目標の達成に向けて、何に取り組み、段階的に何を実現していくべきかをロードマップの形で示した。

このロードマップにおいては、

- ・【1】支援機能・サービス:支援・サービスの基盤としての「コンテンツのデジタル化」と「オープンアクセス」
これまでのコンテンツとこれから生み出されるコンテンツの効果的な利活用に向けたデジタル化とオープン化を促進すること
- ・【2】場:「ライブラリー・スキーマ」に基づく機能の具体化
大学図書館の論理構造としての「ライブラリー・スキーマ」の明確化とそれに基づく大学図書館機能を具体化し実装すること
- ・【3】人材:求められる「スキル・育成」とそのための「制度」
オープンサイエンスに係る支援等、今後求められる新しい機能に対応しうる人材の育成と、育成された人材の適切な配置を実現すること
を優先的に取り組むべき領域とした。その上で、特に大学図書館に求められる新たな機能や取り組みを複数の大学やその他機関とともに整備・運用する等、一大学の一図書館に閉じない形で連携・協力することを、「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた有力な手段として位置付けている。

※ アンダーライン・太字強調は常任幹事館

国立大学部会関係

(幹事館:東北大学附属図書館、山形大学附属図書館)

1.国立大学図書館協会(<https://www.janul.jp/>) 関連

1)第71回国立大学図書館協会総会

日 程:令和6年7月9日(火)13時～17時30分、10日(水)9時30分～12時30分

会 場:ニューウェルシティ宮崎(当番館:宮崎大学附属図書館、YouTube 配信あり)

議 事:

1.開会式

2.議長団選出

3.全体会議(1)

1)報告事項

① 一般経過報告

2)協議事項

① 令和6年度理事・監事の選出について

② 令和5年度決算報告・同監査報告について

③ 令和5年度記念基金決算報告・同監査報告について

④ 令和6年度事業計画(案)について

⑤ 令和6年度予算(案)について

⑥ その他

4.文部科学省所管事項説明

5.国立情報学研究所事業説明

6.大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議報告

7.国立大学図書館協会賞表彰式

8.研究集会(テーマ:学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた大学及び図書館における対応について)

9.全体会議(2)

1)理事会への付託事項の確認

10.次期当番館挨拶

11.閉会式

関連資料: https://www.janul.jp/ja/operations/general_minutes

2)令和5年度国立大学図書館協会秋季理事会

日 時:令和5年10月26日(木)14時～17時

会 場:オンライン(Zoom)

議 事:

1.報告事項

- (1) 第 70 回総会について
- (2) 各委員会報告
- (3) 各地区協会報告
- (4) 地区協会助成事業申請状況報告
- (5) 国公立大学図書館協力委員会報告
- (6) 日本図書館協会関連報告
- (7) 国立情報学研究所報告
- (8) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)報告
- (9) これからの学術情報システム構築検討委員会報告
- (10) オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)報告
- (11)その他
 - ① 令和 4 年度委員会等の残金返納状況について
 - ② 「オープンサイエンスの推進に向けた協会の行動計画」について
 - ③ 文部科学省からの報告

2.協議事項

- (1) 令和6年度海外派遣事業の実施について
- (2) 今後の総会について
 - 1) 第 71 回総会について
 - 2) 第 72 回総会について
 - 3) 今後の総会の開催方法について

3)令和 5 年度国立大学図書館協会春季理事会

日 時:令和 5 年 5 月 20 日(月)14 時~16 時 40 分

場 所:オンライン(Zoom)、および東京大学附属図書館 3 階大会議室

議 事:

1.報告事項

- (1) 各委員会等報告
- (2) 各地区協会報告
- (3) 地区協会助成事業報告
- (4) 国公立大学図書館協力委員会報告
- (5) 日本図書館協会報告
- (6) 国立情報学研究所報告
- (7) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)報告
- (8) これからの学術情報システム構築検討委員会報告

- (9) オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)報告
- (10) 「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会」の審議まとめへの対応について
- (11) その他

2.協議事項

- (1) 国立大学図書館協会ビジョン 2025 総括および次期ビジョン策定スケジュール(案)について
- (2) オープンサイエンスの推進に向けた協会の行動計画に対する評価・総括について
- (3) 資料委員会の構成および事業内容の変更について
- (4) 令和 5 年度決算(案)について
- (5) 令和 6 年度事業計画(案)について
- (6) 令和 6 年度予算(案)について
- (7) 関係団体への派遣役員について
- (8) 第 71 回総会について
 - 1) 開催方法・プログラムについて
 - 2) 総会・研究集会の予算について
 - 3) 研究集会について
 - 4) 総会の議長団について
 - 5) オブザーバ館の参加について
- (9) 第 72 回総会の当番館・日程等について
- (10) その他

4)国立大学図書館協会 令和 6 年度第 1 回理事会

日 時:令和 6 年 7 月 10 日(水)(総会終了後)12:30~12:55

場 所:ニューウェルシティ宮崎 小会議場(梅／橘)

議 事:

- 1) 会長・副会長の選出
- 2) 委員会委員長の指名
- 3) 災害対策拠点の選出
- 4) 理事会付託事項について
- 5) 今後の日程について
- 6) その他

5)シンポジウム・セミナー等

- 1) 令和 5(2023)年度 セミナー「オープンサイエンス時代における＜場＞としての大学図書館:事例から見るライブラリー・スキーマ」

会 場: オンライン

日 時: 令和 6(2024)年 1 月 26 日(金)

内容: <https://www.janul.jp/ja/operations/symposia/2023/symp2023-2>

2) 令和 5(2023)年度 オープンサイエンス時代の大学図書館員像:これからの<人材>構築
にむけて

会 場: 東北大学青葉山コモンズ内「翠生ホール」、オンライン

日 時: 令和 5(2023)年 12 月 12 日(火)

参 加: 現地参加 19 名、YouTube Live 389 アクセス

内 容: <https://www.janul.jp/ja/operations/symposia/2023/symp2023>

2.国立大学図書館協会東北地区協会 関連

1) 令和5年度国立大学図書館協会東北地区協会事務連絡会議

日 時: 令和5年 12 月 8 日(金)15 時~17 時

場 所: 宮城教育大学附属図書館

議 題

I. 報告事項

1. 電子ジャーナルの転換契約について[弘前大学]
2. 令和5年度国立大学図書館協会秋季理事会について[東北大学]
3. 令和5年度国立大学図書館協会地区協会助成事業について[東北大学]
4. 図書系専門試験について[東北大学]

II. 協議事項

1. 第72回国立大学図書館協会総会(令和7年6月)への対応について[東北大学]
2. 次年度以降の国立大学図書館協会地区協会助成事業について[東北大学]

III. 承合事項

1. ジャーナル転換契約について[東北大学]
2. 電子ジャーナル転換契約について[福島大学]
3. その他

2) 第 55 回国立大学図書館協会東北地区協会総会

日 時: 令和 6 年 4 月 25 日(火)15 時~16 時 40 分

場 所: 福島大学附属図書館 オンライン(Zoom)とのハイブリッド開催

議 事:

1. 報告事項

- (1) 国立大学図書館協会について
- (2) 「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会の設置について

2.協議事項

- (1) 国立大学図書館協会東北地区協会理事・当番館等について
- (2) 第 71 回国立大学図書館協会総会に向けての準備事項について
- (3) 令和 6 年度以降の国立大学図書館協会地区協会助成事業への対応について
- (4) 第 72 回国立大学図書館協会総会(令和 7 年 6 月)への対応について

3.承合事項

- (1) 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」への対応について(東北大学)
- (2) 開館時間等の状況について(福島大学)

3.その他

1)第 97 次国立七大学附属図書館協議会

日 時:令和 6 年 2 月 16 日(金)16 時~18 時

場 所:オンライン (Zoom)により実施 (当番館: 東北大学附属図書館)

1) 議長選出

2) 文部科学省より

3) 協議事項:

- 1) オープンアクセスを巡る諸課題に関する意見交換
- 2) その他

公立大学部会関係

(幹事館:会津大学短期大学部附属図書館)

○令和6年度公立大学協会図書館協議会総会

期日:令和6年6月19日(水)

形式:オンライン会議

開催館(会長館):福島県立医科大学附属学術情報センター

<講演>

「大学図書館に関する最近の動向」

文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室

大学図書館係主任 影山啓太 氏

「公立大学の現状と公立大学協会の組織と課題」

一般社団法人公立大学協会 事務局長 中田 晃 氏

<議事>

報告事項

- (1)令和5年度事業報告
- (2)HP 委員会報告
- (3)地区協議会活動報告
- (4)関係委員会等報告
- (5)加盟館概要の見直しについて
- (6)その他

協議事項

- (1)公立大学協会図書館協議会入会図書館について
- (2)役員の選出について
- (3)関係委員会委員等の推薦について
- (4)令和5年度決算報告
- (5)令和5年度監査報告
- (6)令和6年度事業計画(案)について
- (7)令和6年度予算(案)について
- (8)公立大学協会図書館協議会会則の一部変更について
- (9)公立大学協会図書館協議会の名称変更について
- (10)大学図書館職員短期研修への派遣について
- (11)その他

○2024 年度公立短期大学図書館協議会総会

日 時 2024 年 8 月 22 日(木) 14:00～16:30

場 所 三重短期大学 管理棟 2 階 演習室1

議 題

(1)報告事項

- ① 役員紹介
- ② 2023 年度事業報告及び決算報告

(2)審議事項

- ① 2024 年度事業計画及び予算(案)
- ② 協議事項
 - (1)日本図書館協会短大・高専部会役員館について
 - (2)岐阜市立女子短期大学附属図書館の退会について
 - (3)本協議会会費の一時的な徴収停止について
 - (4)輪番表の改訂について

(3)その他

- ① 承合事項
 - (1)ホームページのリニューアルについて
 - (2)学生の利用促進について
 - (3)広報用 SNS の取組について
 - (4)図書館システムについて
 - (5)和雑誌の発注先の決定方法について
 - (6)卒業時及び退学時の図書館資料延滞者への取組について
 - (7)電子書籍サービスの契約及び利用状況について
 - (8) 外国雑誌及び外国電子ジャーナルの契約状況について
 - (9) 研究データエコシステム構築事業について

(4)その他

○2024 年度全国公立短期大学図書館協議会職員研修会

日 時 2024 年 8 月 23 日(金)9:30～12:00(受付 9:00～)

場 所 アスト津 4階 会議室1

講 師 皇學館大学文学部国文学科准教授 岡野 裕行 氏

演 題 「学生協働について」

私立大学部会関係

(幹事館：仙台白百合女子大学、東北公益文科大学)

私立大学図書館協会・東地区部会を中心に(2023年9月1日～2024年8月31日)

加盟校 516校(2023年8月31日現在) 東地区部会 269校

※東北地区加盟校(50音順) 25校

秋田看護福祉大学、石巻専修大学、医療創生大学、岩手保健医療大学、奥羽大学、郡山女子大学、柴田学園大学、尚絅学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北医科薬科大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北文教大学・東北文教大学短期大学部、日本赤十字秋田看護大学、ノースアジア大学、八戸学院、八戸工業大学、東日本国際大学、富士大学、宮城学院女子大学、盛岡大学

○第84回(2023年度)私立大学図書館協会総会・研究大会

<総会>

日 時：2023年8月24日(木)12:00～8月31日(木)17:00

方 法：メール会議

1. 報告事項

- ①協会賞(2022年度審査決定：2023年度表彰)
- ②研究助成(2022年度決定：2023年度助成対象)
- ③2022年度 協会会務報告
- ④2022年度 委員会報告
- ⑤2022年度 協会関連事項報告
- ⑥2023年度 協会役員校、委員会および協会関連団体委員
- ⑦2022年度 ご寄付をいただいた企業

2. 総会議案

- ①2022年度 一般会計・特別会計決算報告(案)
- ②2023年度 事業計画(案)
- ③2023年度 一般会計・特別会計予算(案)
- ④2023年度 新規加盟校および脱退校(案)
- ⑤私立大学図書館協会会則の一部改正について(案)

3. 承合事項

<研究大会>

テーマ:「ポスト・コロナを切り拓く大学図書館」

日 時:2023 年9月1日(金)12:30~17:00

※10:30~12:00 図書館自由見学

※ハイブリッド開催(オンラインと会場の同時開催)

会場参加:大正大学8号館1階

オンライン参加:YouTube Live(限定公開)で配信

1. 記念講演

演 題:「知的立国の形成と図書館への期待」

講演者:片山 善博 氏(大正大学地域構想研究所 所長・社会共生学部 特任教授)

2. 協会賞授賞式

業 績:『やさしい大学図書館のサバイバルイングリッシュ』の刊行

受賞者:早稲田大学図書館、早稲田大学アカデミックソリューション

3. 講演①

演 題:「新たなケアの文化と大学図書館——孤立を超えともに学ぶ場の形成」

講演者:島蘭 進 氏(大正大学地域構想研究所 客員教授)

4. 講演②

演 題:「アクティブ・ラーナーを育てる大学図書館——高校から大学へ、
大学から社会へつなぐ」

講演者:稲井 達也 氏(大正大学附属図書館 館長・教職支援オフィス 教授)

5. 事例報告

演 題:「「学び」と「集い」の図書館に挑む」

講演者:稲井 達也 氏(大正大学附属図書館 館長・教職支援オフィス 教授)

大正大学附属図書館 職員

○2024 年度私立大学図書館協会東地区部会総会

日 時:2024 年 6 月 7 日(金)~6 月 13 日(木)

主 催:帝京大学(2024 年度私立大学図書館協会東地区部会長校)

形 式:e-mail と Web 入力フォームを活用した個別回答形式

I. 報告事項

①2023 年度 東地区部会報告

②2023 年度 協会関係報告

③2024 年度 協会役員校、委員会および協会関連団体等委員

II. 協議事項

①2023 年度 東地区部会事業報告について

- ②2023 年度 東地区部会決算報告および監査報告について
- ③2023 年度 東地区部会研究部決算報告および監査報告について
- ④2024 年度 東地区部会事業計画(案)および予算(案)について
- ⑤2024 年度 東地区部会研究部活動計画(案)および予算(案)について
- ⑥東地区部会理事校数の削減について
- ⑦「私立大学図書館協会東地区部会研究部細則」の一部改正(案)について

○2024 年度私立大学図書館協会東地区館長会

日 時:2024 年 6 月 7 日(金)10:00～

主 催:帝京大学

形 式:オンライン開催(Zoom)

テーマ:研究データポリシーと大学図書館

講演者:松原 茂樹 氏(名古屋大学情報基盤センター 教授)

○2024 年度私立大学図書館協会東地区部会研究講演会

日 時:2024 年 6 月 7 日(金)13:00～16:00

主 催:専修大学(2024 年度私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校)

形 式:オンライン開催(Zoom)

オンデマンド配信(録画映像公開期間:6 月 14 日(金)～7 月 31 日(水))

講演①

演 題:『オープンサイエンスの潮流と科学と社会の変容:政策の狙いと図書館の可能性』

講演者:林 和弘 氏(文部科学省科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室 室長)

講演②

演 題:『オープンサイエンス政策をふまえた私立大学図書館の研究データ管理(RDM)』

講演者:池内 有為 氏(文教大学文学部 准教授)

東北地区大学図書館協議会研修部会の活動について

1. 研修部会名簿

任期:2023 年9月1日～2025 年8月 31 日

部会	所 属	職 名	氏 名 〔 備 考 〕
国立	弘前大学附属図書館	主 任	丸山 ひかり
国立	東北大学附属図書館農学分館		田名部 晃平 〔庶務幹事〕
公立	会津大学情報センター附属図書館	副主任司書	吉田 有里
私立	東北学院大学図書館		大岡 弘明 〔主査〕
私立	東北文化学園大学総合情報センター図書館	課 長	松浦 宝志

2. 研修部会開催状況

2-1. 第1回研修部会(キックオフミーティング)

日 時:2023 年 11 月 28 日(火)10:00～11:00

会 場:オンライン(Zoom)

出席者:丸山ひかり(弘前大)、田名部晃平(東北大)、吉田有里(会津大)

大岡弘明(東北学院大)、松浦宝志(東北文化大)

陪 席:三角太郎、檜原啓一(協議会事務局:東北大)

概 要:委員の確認、主査・庶務幹事の決定。フレッシュパーソンセミナーの開催、大学図書館職員初任者マニュアルの改訂等について話合った。

2-2. 第2回研修部会

日 時:2023 年 12 月 14 日(木)

会 場:オンライン(Teams)

出席者:丸山ひかり(弘前大)、田名部晃平(東北大)、吉田有里(会津大)

大岡弘明(東北学院大)、松浦宝志(東北文化大)

陪 席:三角太郎、檜原啓一(協議会事務局:東北大)

概 要:大学図書館職員初任者マニュアルの改訂、研修ロードマップに関する研修の新規提案等募集に関し今後の進め方を確認した。

2-3. 第3回研修部会

日 時:2024 年 2 月 5 日(月)

会 場:オンライン(Teams)

出席者:丸山ひかり(弘前大)、田名部晃平(東北大)、吉田有里(会津大)

大岡弘明(東北学院大)、松浦宝志(東北文化大)

陪 席:三角太郎、檜原啓一(協議会事務局:東北大)

概 要:大学図書館職員初任者マニュアルの更新内容、研修ロードマップに関する研修の新規提案等募集の結果について確認した。

※後日、大学図書館職員初任者マニュアルを更新した旨、東北地区大学図書館協議会事務局から加盟館へ電子メールにより通知した。研修ロードマップに関する研修の新規提案等募集の結果については、東北地区大学図書館協議会事務局へ報告するとともに、フレッシュパーソンセミナーに反映させること等を今後検討することにした。

以 上

令和5年度 決算書(案)

(自令和5年9月1日～至令和6年8月31日)

(収入の部)

(単位:円)

項目	予算額(円)	決算額(円)	比較増減(円)	摘要
繰越金	2,464,168	2,464,168	0	
会費	732,000	732,000	0	12,000×61館
雑収入	15	166	151	利子
計	3,196,183	3,196,334	151	

(支出の部)

項目	予算額(円)	決算額(円)	比較増減(円)	摘要
会誌印刷費	400,000	369,050	△ 30,950	会誌第74号(送料、振込手数料含む)
総会補助費	200,000	0	△ 200,000	オンライン開催
事業費	150,000	0	△ 150,000	合同研修会はオンライン開催、 講師謝金は辞退
部会活動費	150,000	0	△ 150,000	
通信運搬費	10,000	0	△ 10,000	
積立繰入金	73,200	73,200	0	会費の10%上限
会議費	20,000	0	△ 20,000	
消耗品費	20,000	0	△ 20,000	
雑費	30,000	1,780	△ 28,220	監査旅費
予備費	2,142,983	0	△ 2,142,983	
次年度繰越	0	2,752,304	2,752,304	
計	3,196,183	3,196,334	151	

令和5年度 記念事業基金決算書(案)

(自令和5年9月1日～至令和6年8月31日)

(収入の部)

(単位:円)

項目	予算額(円)	決算額(円)	比較増減(円)	摘要
繰越金	962,163	962,163	0	
積立金	73,200	73,200	0	記念事業実施のための積立
雑収入	8	8	0	利子
計	1,035,371	1,035,371	0	

(支出の部)

項目	予算額(円)	決算額(円)	比較増減(円)	摘要
事業費	0	0	0	
予備費	0	0	0	
次年度繰越	1,035,371	1,035,371	0	
計	1,035,371	1,035,371	0	

令和5年度 東北地区大学図書館協議会 会計監査報告

1. 日 時:令和6年9月3日～9月5日
2. 場所・監査方法:東北大学附属図書館にての訪問監査(山形県公立大学法人)
及び書類を送付しての監査(仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学)
3. 監査対象期間:令和5年9月1日～令和6年8月31日
4. 監 査 結 果:東北地区大学図書館協議会会則第7条に基づき、東北地区大学図書館協議会の監査対象期間に係る収支計算書等について監査を行いました。
監査に当っては会計帳簿の調査及び計算書類の検討等通常必要と認められる手続きで実施しました。
監査の結果、上記計算書類は、前事業年度と同一の基準及び手続きに基づき、当該事業年度の収支の状況及び財産の状況を適正に示しているものと認めます。

令和6年9月5日

監査館

山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学 山形県立米沢女子短期大学

総務企画課長

井 瀧 善 洋 

仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学

五橋キャンパス図書館

酒 井 麻 紀 

令和 6 年度 事業計画(案)

令和 6(2024)年 9 月 1 日～令和 7(2025)年 8 月 31 日

1. 第 79 回総会の開催

令和 6 年 9 月 13 日(金)、尚絅学院大学を当番館・会場として、対面およびオンラインのハイブリット形式により開催

2. 会誌第 76 号の刊行

令和 7 年 5 月頃の予定

3. 研修部会の活動

- ①令和 7(2025)年フレッシュパーソンセミナーの開催
- ②「大学図書館職員初任者マニュアル」の見直し(必要に応じて)
- ③東北地区に必要な研修の検討:研修ロードマップの作成
(フレッシュパーソンセミナーとは異なるレベルの研修の必要性)

4. 合同研修会の開催

開催当番福島地区の予定(次頁のとおり)

5. 創立 80 周年記念行事の実施

東北地区ゆかりの作家等による講演会を実施
詳細は、協議事項

6. 職員の表彰

- ① 図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等に優れた業績のあった者
- ② 協議会の運営、発展のために功績のあった者

7. 記念事業基金の積み立て

令和 6 年度通常会計から、記念事業基金(73,200 円)を繰入予定

令和6年度合同研修会について

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

〔提案理由〕

令和6年度は 福島地区 が開催当番の予定になっているので、確認願いたい。

〔参考〕東北地区大学図書館協議会合同研修会

年度	当番地区	会場大学	テーマ
H22	秋田	秋田大学	図書館を守る
23	山形	山形大学	学生、教職員そして社会が求める大学図書館職員像
24	福島	福島大学	図書館における学習支援に関するサービスの現状と展望について
25	宮城	東北大学	アクティブラーニングとは何か？その実践とは？：アクティブラーニングを通じて大学図書館と大学のつながりを考える
26	青森	弘前大学	電子書籍サービスと学習・教育支援
27	岩手	岩手大学	図書館のコミュニケーション能力を考える：メディアリテラシーからの考察と初歩的な対応手法を学ぶ
28	秋田	秋田大学	これからの大学図書館員が進むべき方向を探る：オープンサイエンスが秘める可能性
29	山形	山形大学	著作権法改正と図書館サービス
30	福島	福島大学	「新しい学び」を創発する大学図書館・図書館職員の役割とは
R元	宮城	東北大学 宮城教育大学	電子コンテンツ、オープンアクセス、そしてJUSTICE [オンライン開催]
2	青森	弘前大学	学生目線での図書館改革[オンライン開催]
3	岩手	岩手大学	著作権法第31条改正への対応[オンライン開催]
4	秋田	秋田大学	図書館×人工知能(AI)[オンライン開催]
5	山形	山形大学	オープンアクセスと大学図書館[オンライン開催]
6	福島		
7	宮城		
8	青森		
9	岩手		

※会場大学の決定については、当番地区において協議するものとする。

※当番地区の輪番制については、平成22年9月16日承認，平成28年9月30日更新

【資料8】

令和6年度 予算書（案）

（自令和6年9月1日～至令和7年8月31日）

（収入の部）

（単位：円）

項目	令和5年度予算額	令和6年度予算額	増減	摘要
繰越金	2,464,168	2,752,304	288,136	
会費	732,000	732,000	0	12,000×61館
広告協賛金	0	0	0	令和5年度から協賛広告なし
雑収入	15	600	0	利子
計	3,196,183	3,484,904	288,721	

（支出の部）

（単位：円）

項目	令和5年度予算額	令和6年度予算額	増減	摘要
会誌印刷費	400,000	400,000	0	会誌第76号（送料含む）
総会補助費	200,000	200,000	0	実費精算
事業費	150,000	150,000	0	合同研修会補助、表彰関係
部会活動費	150,000	150,000	0	研修部会（会議開催等）
通信運搬費	10,000	10,000	0	
積立繰入金	73,200	73,200	0	記念事業基金に繰入
会議費	20,000	20,000	0	
消耗品費	20,000	20,000	0	
雑費	30,000	30,000	0	
予備費	2,142,983	2,431,704	288,721	
計	3,196,183	3,484,904	288,721	

令和6年度 記念事業基金予算書（案）

（自令和6年9月1日～至令和7年8月31日）

（収入の部）

（単位：円）

項目	令和5年度予算額	令和6年度予算額	増減	摘要
繰越金	962,163	1,035,371	73,208	
積立金	73,200	73,200	0	通常会計から繰入
雑収入	8	230	222	利子
計	1,035,371	1,108,801	73,430	

（支出の部）

項目	令和5年度予算額	令和6年度予算額	増減	摘要
事業費	0	1,108,801	1,108,801	80周年記念事業
予備費	0	0	0	
次年度繰越	1,035,371	0	△ 1,035,371	
計	1,035,371	1,108,801	73,430	

第80回総会の当番地区(館)について

(常任幹事館 東北大学附属図書館)

〔提案理由〕

第80回総会は 秋田地区 が当番の予定になっているので、確認願いたい。
また、第82回から89回も現在のローテーションにより実施したい。

〔参考〕

東北地区大学図書館協議会総会当番地区(館)予定

(第81回まで、平成29年9月22日承認)

回	年 度	当番地区	当番(会場)大学	備 考
73	30	宮 城	東北学院大学	
74	元	山 形	山形大学	
75	2	青 森	弘前大学	メール会議
76	3	宮 城	宮城大学	メール会議
77	4	岩 手	岩手医科大学	メール会議
78	5	福 島	日本大学図書館工学部分館	オンライン会議
79	6	宮 城	尚絅学院大学	ハイブリット開催
80	7	秋 田		
81	8	山 形		
82	9	宮 城		
83	10	青 森		
84	11	岩 手		
85	12	宮 城		
86	13	福 島		
87	14	秋 田		
88	15	宮 城		
89	16	山形		

注1:会場大学については、当該地区において協議の上、開催予定の前年度総会に報告するものとする。

注2:開催地区のローテーションの確認について

①宮城地区は、他地区より大学の数が多いので、3年に1回割り振る。

②その他の地区は、次のローテーションによる。

青森地区、岩手地区、福島地区、秋田地区、山形地区

東北地区大学図書館協議会第80回総会記念事業(案)について

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

1. 趣旨

当協議会の前身である「東北地方大学専門学校図書館協議会」の創立第1回総会は、1947(昭和22)年5月30、31日に開催された。当協議会が、2025(令和7)年9月に開催予定の総会で80回を数えることを記念し、以下の事業の実施を提案する。

- 1) 記念講演会
- 2) 80回記念ショート動画

2. 事業の詳細

1) 記念講演会

- ・ 東北ゆかりの作家による記念講演会
- ・ 講演者については幹事館で調整
- ・ 開催方法(オンライン有無、対象者)、開催日時についても幹事館で調整
- ※ 総会と別日程での開催も検討
- ・ 実施スケジュール
 - ・ 2024年10-12月 第79回総会にて承認後
 - ・ 幹事館で講演者候補案を作成、交渉
 - ・ 日程・会場もあわせて検討・確保
 - ・ 2025年4月- 広報
 - ・ 2025年秋 開催

2) 80回記念ショート動画・

- ・ 「80th Anniversary Movie」(仮称)として、各加盟館から写真提供、BGMを付した動画(スライドショー)を制作し、ウェブサイト等で公開
- ・ 当協議会における講演会や総会等のイベントの幕間等での上映を想定
- ・ 各館より、3～5枚の印象的な写真、特徴的な写真、笑顔の写真等を提供してもらう。
 - ※ 各館の貴重資料や特徴的な資料コーナー、カラフルなラーニングコモンズ等
 - ※ 記念碑的動画とするため、現職員笑顔の写真や「80th Anniversary」などのボードを手にした集合写真等も望ましい。
- ・ 動画の長さは、視聴のしやすさを考慮して5分程度、長くても8分程度とする。
- ・ 共有方法はウェブ上のみとし、DVD等で加盟館に配布等を行わない。
- ・ 制作体制については、幹事館で検討
- ・ 制作・公開スケジュール
 - 2024年9月～11月 第79回総会にて承認後、各館による写真提供及び制作チーム結成
 - 2024年12月～ 制作チームによる制作作業
 - 2025年夏 動画公開(遅くとも9月の第80回総会までに)

第79回 東北地区大学図書館協議会 承合事項 まとめ

「2025年度からのOA義務化への対応状況」

理由：2025年度から公的資金を投じた研究についてオープンアクセスが義務化されることに関連して、大学図書館として何か準備していることがあれば、教えてほしい（国際教養大学）

資料：学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf

■設問内容

- ・オープンアクセスポリシーの策定状況
（策定済み 策定中 未着手だが策定の予定あり 未着手）
- ・策定済みの場合、策定年月
- ・研究データポリシーの策定状況
（策定済み 策定中 未着手だが策定の予定あり 未着手）
- ・策定済みの場合、策定年月
- ・機関リポジトリの有無および、プラットフォーム
（独自 JAIRO Cloud 検討中 なし）
- ・OA義務化について検討している部署（複数選択）
（図書館 研究協力系 情報系 教員 その他 未検討）
- ・即時OA義務化の準備として検討・実施していること（複数回答）
OAポリシーの策定・改訂 機関リポジトリ機能強化 OA学内支援体制の整備 査読済み論文の出版状況とそのOA率の実態把握APC支援 学内教職員に対する情報共有 研究データポリシーの策定・改訂 OD学内支援体制の整備 即時OA義務対象外コンテンツのOA化方策の検討 人材育成 情報収集 未対応
- ・課題と考えていること（複数回答）
OAポリシーの策定・改訂 機関リポジトリ機能強化 OA学内支援体制の整備 査読済み論文の出版状況とそのOA率の実態把握APC支援 学内教職員に対する情報共有 研究データポリシーの策定・改訂 OD学内支援体制の整備 即時OA義務対象外コンテンツのOA化方策の検討 人材育成 情報収集 未対応
- ・その他自由記述

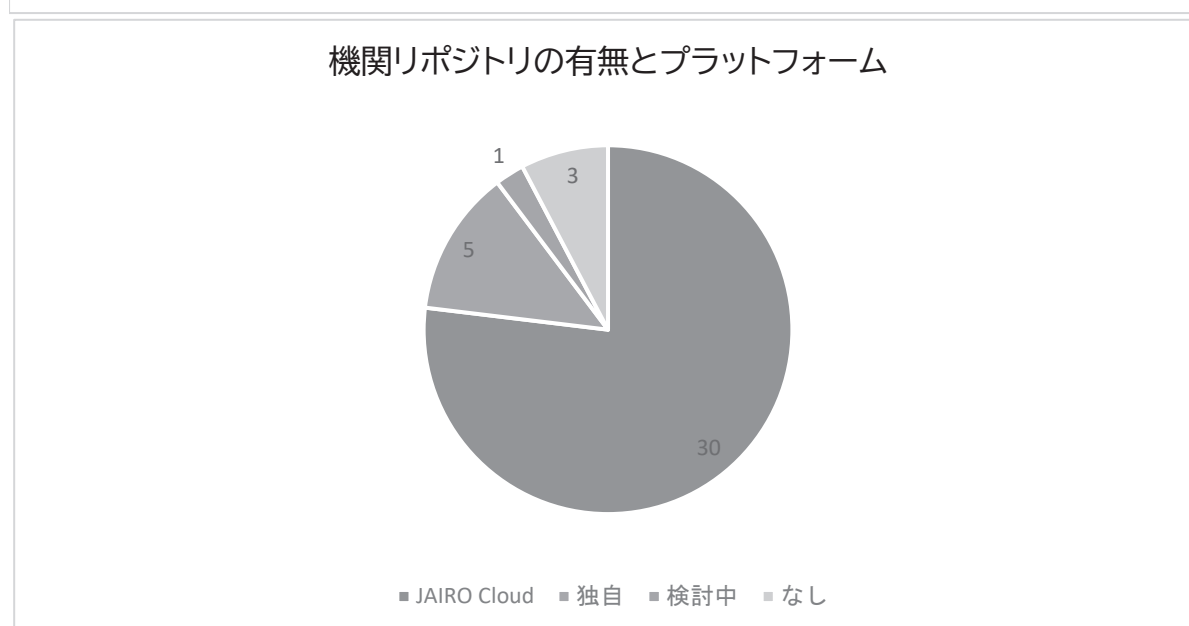
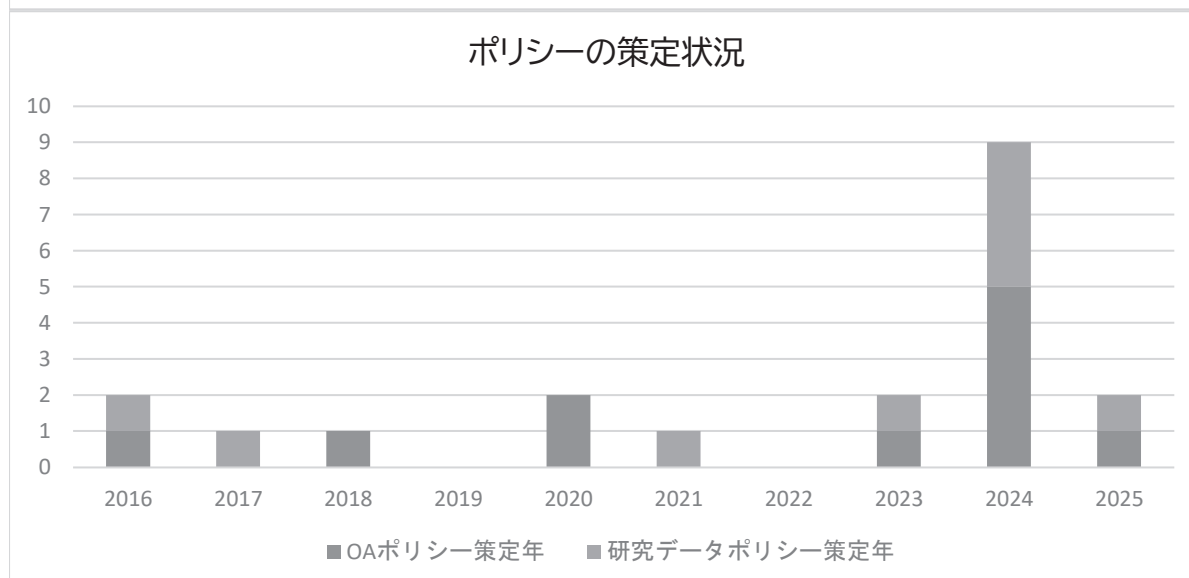
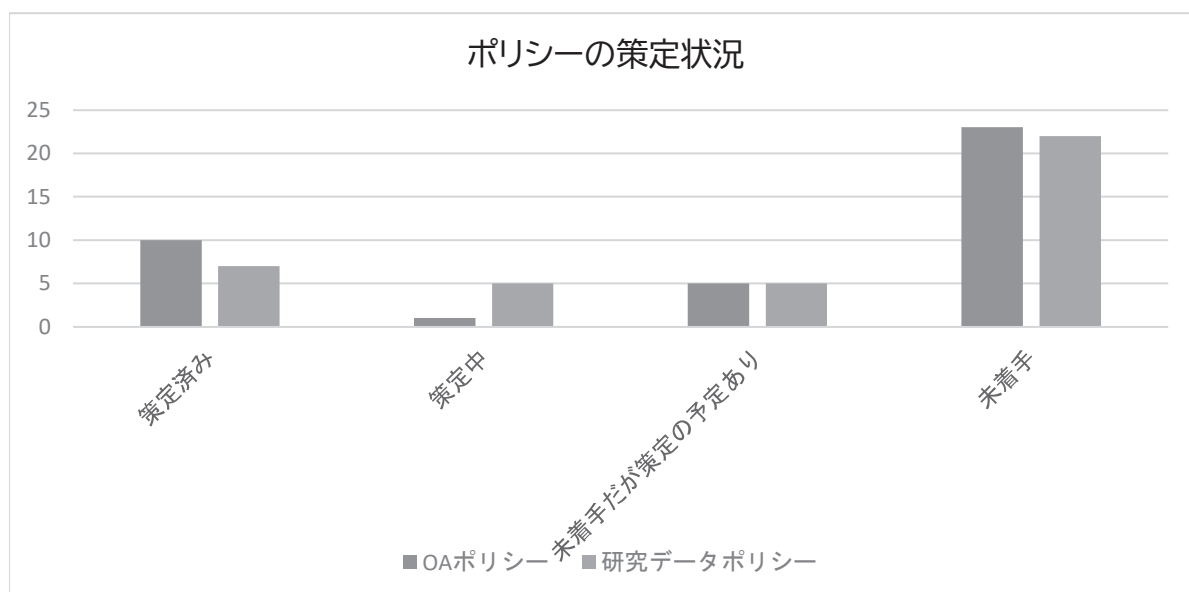
■回答期間

- ・令和6年7月29日～8月23日
- Microsoft Forms で回答

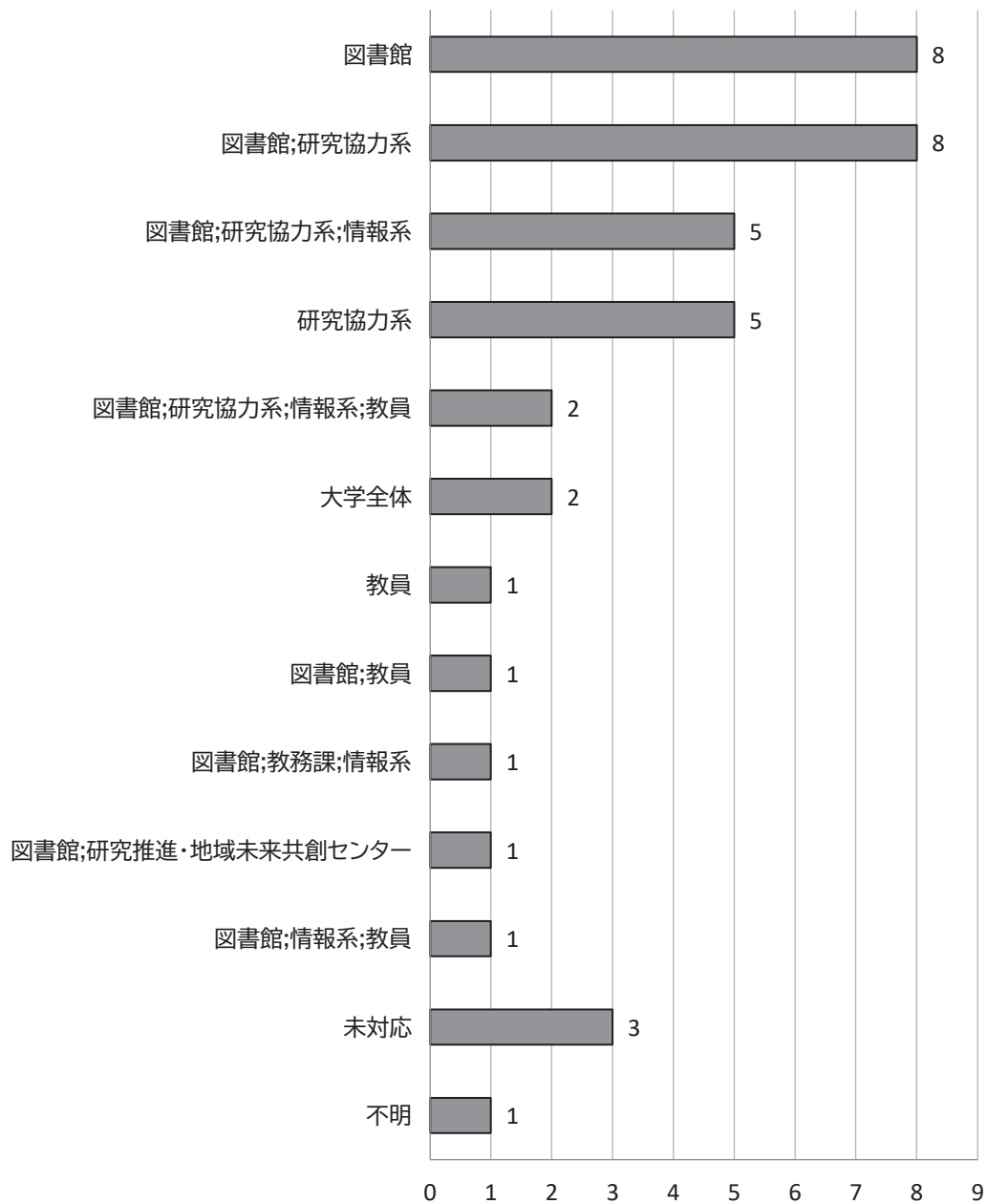
■回答数

- ・39機関（61機関中 分館等を除くと、全52大学）

回答の概況



OA義務化について検討している部署

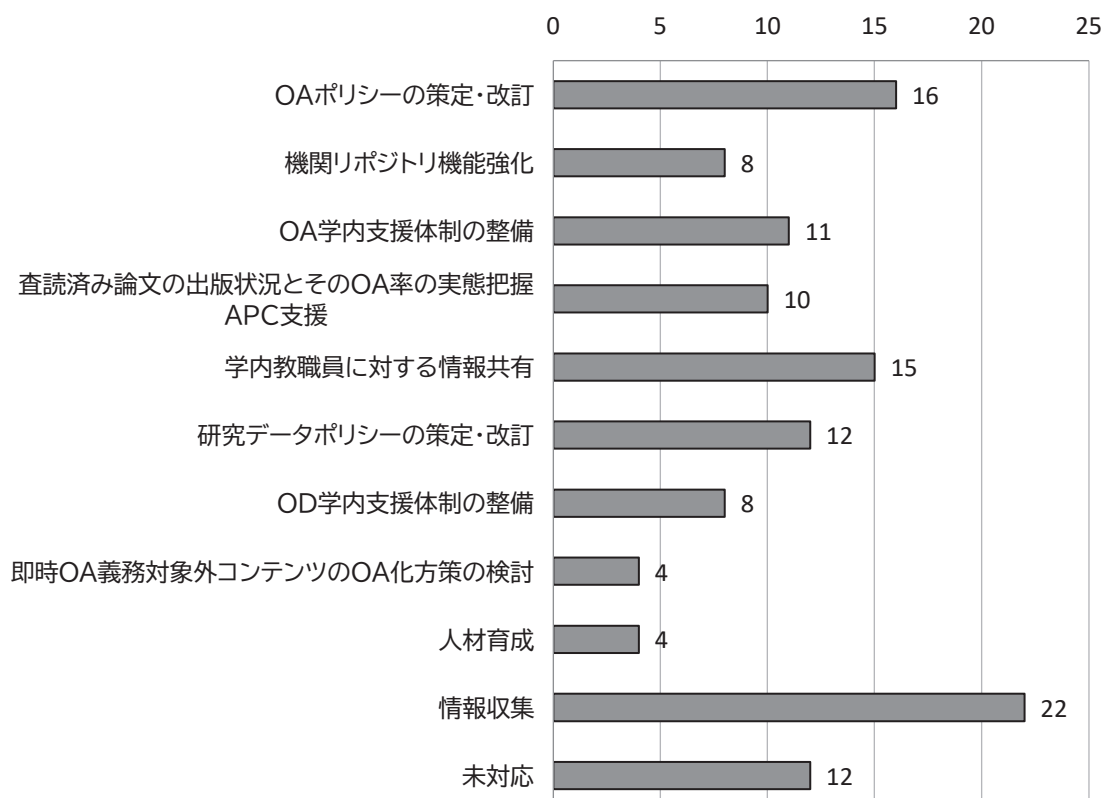


・自由記述

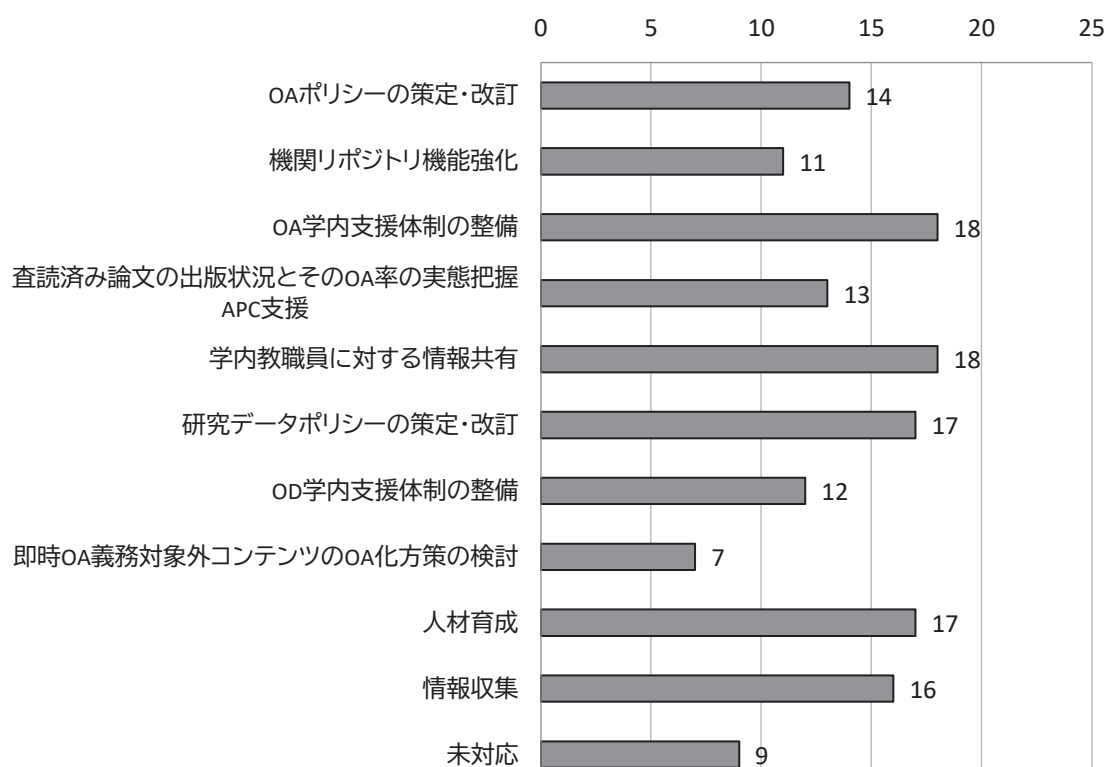
・義務化により研究者や関係職員の負担増とならないよう、対策を検討する必要があると考えている。

・人員資源は限られており、効果的な成果を得るためには、学内の関連部署との連携もはかりつつ、図書館としてどのように経営資源を配分するのかといった組織マネジメントが必要で、既存の枠組みにとらわれない組織改編なども検討していかなければならないと考えている。

検討実施していること



課題と考えていること



第79回 東北地区大学図書館協議会 承合事項
「2025年度からのOA義務化への対応状況」

Id	大学名	オープンアクセスポリシーの策定状況	1. 策定済み、策定中で公開予定が	研究データポリシーの策定状況	4. 策定済み、策定中で公開予定が	機関リポジトリの有無およびプラットフォーム
1	山形県立米沢芸術大学・山形県立	未着手		未着手		JAIRO Cloud
2	秋田県立美術大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
3	秋田県立大学	未着手だが策定の予定あり		未着手だが策定の予定あり		JAIRO Cloud
4	青森県立大学	未着手		未着手		独自
5	富士大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
6	宮城教育大学	未着手		策定中	2024年度内	JAIRO Cloud
7	石巻専修大学図書館	未着手		策定済み	2016年4月	JAIRO Cloud
8	金沢大学短期大学部附属図書館	未着手		未着手		なし
9	聖和学園短期大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
10	公立大学法人松津大学	未着手		未着手		独自
11	東北芸術工科大学図書館	未着手		未着手		JAIRO Cloud
12	東日本国際大学・いわき短期大学	策定済み	2016年12月	未着手		JAIRO Cloud
13	日本大学図書館工学部分館	未着手		未着手		JAIRO Cloud
14	秋田大学	策定済み	2024年5月	策定中		JAIRO Cloud
15	奥羽大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
16	弘前大学	策定済み	2024年5月	策定済み	2024年4月	JAIRO Cloud
17	富士大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
18	岩手医科大学附属図書館	未着手		未着手		JAIRO Cloud
19	福島学院大学図書館情報センター	未着手		未着手		なし
20	国際教養大学	未着手		未着手		なし
21	八戸学院大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
22	東北工業大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
23	桜の聖母短期大学	未着手だが策定の予定あり		未着手だが策定の予定あり		JAIRO Cloud
24	東北福祉大学図書館	策定済み	2020年10月	策定中	未定	JAIRO Cloud
25	岩手大学	策定済み	2020年2月(策定)、2020年3月(公開)	策定済み	2024年4月(策定)、公開予定なし	JAIRO Cloud
26	青森中央学院大学・青森中央短期	策定済み	2024年8月	未着手		JAIRO Cloud
27	東北文化学園大学総合情報センタ	未着手		未着手		JAIRO Cloud
28	福島大学	策定済み	2023年1月	未着手	2023年12月	独自
29	東北大学附属図書館	策定済み	2018年3月	策定済み	2021年12月	JAIRO Cloud
30	山形大学	策定済み	2024年1月	策定済み	2024年1月	JAIRO Cloud
31	青森県立保健大学	策定中	2025年3月	策定中	2025年3月	JAIRO Cloud
32	東北生活文化大学・東北生活文化	未着手		未着手		検討中
33	柴田学園大学附属図書館	未着手だが策定の予定あり		未着手だが策定の予定あり		JAIRO Cloud
34	岩手県立大学	未着手		策定済み	2017年1月	JAIRO Cloud
35	福島県立医科大学附属学術情報セ	未着手		未着手		独自
36	弘前学院大学	未着手だが策定の予定あり		未着手だが策定の予定あり		独自
37	公立大学法人宮城大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
38	尚絅学院大学	未着手		未着手		JAIRO Cloud
39	秋田大学附属図書館 医学部分館	策定済み	2024年5月	策定中		JAIRO Cloud

OA義務化について検討している部署(複数回答可)	即時OA義務化の準備として検討・実施していること(複数回答可)
図書館	OAポリシーの策定・改訂;学内教職員に対する情報共有;情報収集
図書館	OAポリシーの策定・改訂;機関リポジトリ機能強化;学内教職員に対する情報共有;
研究協力系;図書館	研究データポリシーの策定・改訂;情報収集;学内教職員に対する情報共有;OAポリシーの策定・改訂;
図書館	未対応;
大学全体	未対応;
現時点では決まっていない。;	研究データポリシーの策定・改訂;情報収集;
研究協力系	未対応
図書館	未対応
教員	学内教職員に対する情報共有;情報収集
未対応	未対応
図書館;教員	未対応
図書館;情報系;教員	学内教職員に対する情報共有
研究協力系	未対応
図書館;研究協力系;情報系	員に対する情報共有;研究データポリシーの策定・改訂;OD学内支援体制の整備;情報収集
図書館	未対応
図書館;研究協力系;情報系	把握APC支援;研究データポリシーの策定・改訂;OD学内支援体制の整備;即時OA義務対象外コンテンツのOA化方策の
大学全体	未対応
図書館;研究協力系	情報収集;人材育成
研究協力系	未対応
研究協力系	情報収集;未対応
図書館;科研費担当部署	情報収集
検討していない	情報収集
図書館;研究協力系	学内教職員に対する情報共有;査読済み論文の出版状況とそのOA率の実態把握APC支援;OA学内支援体制の整備;機
図書館;研究協力系;情報系	OAポリシーの策定・改訂;学内教職員に対する情報共有;研究データポリシーの策定・改訂;情報収集
図書館;研究協力系;情報系;教員	タポリシーの策定・改訂;OD学内支援体制の整備;即時OA義務対象外コンテンツのOA化方策の検討;人材育成;情報収集
研究協力系;図書館	OAポリシーの策定・改訂;学内教職員に対する情報共有
図書館;庶務課(競争的研究費管理部門)	情報収集
図書館	員に対する情報共有;研究データポリシーの策定・改訂;情報収集
図書館;研究協力系;情報系;教員	員に対する情報共有;OD学内支援体制の整備;即時OA義務対象外コンテンツのOA化方策の検討;人材育成;情報収集
図書館;研究協力系;情報系	リジンの策定・改訂;情報収集
図書館;研究協力系	員に対する情報共有;情報収集
図書館;教務課;情報系	情報収集
図書館	OAポリシーの策定・改訂;研究データポリシーの策定・改訂;情報収集
図書館;研究協力系	情報収集
不明	未対応
図書館	員に対する情報共有;研究データポリシーの策定・改訂;OD学内支援体制の整備;OA学内支援体制の整備
図書館;研究推進・地域未来共創センター	機関リポジトリ機能強化;OA学内支援体制の整備;OD学内支援体制の整備
研究協力系	OAポリシーの策定・改訂;OA学内支援体制の整備;査読済み論文の出版状況とそのOA率の実態把握APC支援
図書館;研究協力系;情報系	員に対する情報共有;研究データポリシーの策定・改訂;OD学内支援体制の整備;情報収集

東北地区大学図書館協議会会則

昭和22年 5月30日 制定

令和 2年 9月30日 最近改正

第1条 本会は東北地区大学図書館協議会と称する。

第2条 本会は東北地区における大学および国立工業高等専門学校に附属する図書館をもって組織し、図書館の施設、運営、管理などの進歩改善について、相互に連携協力することを目的とする。

第3条 本会は毎年1回、加盟館輪番により総会を開催する。但し必要に応じ、加盟館過半数の賛成を得て、臨時総会を開くことができる。

第4条 本会の目的を達成するため、随時図書館に関する講習会を開催、その他必要と認める事業を行うものとする。

第5条 本会に顧問を置くことができる。

顧問はかつて加盟館に在籍し、本会において特に顕著なる功績のあった者の中から、総会においてこれを推薦する。

顧問は総会に出席し、また随時意見を述べることができる。

第6条 本会に常任幹事館、及び幹事館若干を置く。

1. 常任幹事館、幹事館は幹事会を組織し、協議会の運営にあたる。
2. 幹事会は毎年少なくとも1回招集するものとする。
3. 常任幹事館は協議会の会務を処理し、幹事会を招集する。
4. 常任幹事館、幹事館は総会において互選によってこれを定め、その任期を2カ年とする。但し、重任することができる。

第7条 本会の会計事務を監査するため若干の監査館をおく。監査館は総会において互選によってこれを定め、その任期を2カ年とする。但し、重任することができる。

第8条 本会の事務所は、常任幹事館内におく。

第9条 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。会費は年額12,000円とする。

- 2 本会の会計年度は毎年9月1日にはじまり、翌年8月31日に終わる。

第10条 総会の票決権は1館につき1票とし、議決は出席館過半数の賛成を要する。

第11条 本会則は総会の議決によらなければこれを変更することができない。

附 則

本会則は昭和24年12月2日から施行する。

(略)

附 則 (令和2年9月30日第75回総会)

この会則は、令和2年9月1日から施行する。

東北地区大学図書館協議会表彰規程

平成19年 9月20日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）会則第4条に基づく事業として加盟館の職員を表彰するため、必要な事項を定めるものとする。

(表彰の区分)

第2条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。

- (1) 図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者
- (2) 協議会の運営、発展のために功績顕著であった者

(応募の方法)

第3条 表彰を受けようとする者は、所属する加盟館の長に応募の申請を行う。加盟館の長は、応募の申請に基づき常任幹事館へ推薦を行う。

(審査委員会)

第4条 前条の推薦があった時は、審査委員会が審査を行う。

- 2 審査委員会は、常任幹事館及び加盟館の互選による審査委員館若干をもって組織する。
- 3 審査委員会に主査館を置き、常任幹事館をもって充てる。
- 4 審査委員会は、必要に応じ学識経験者の意見を参考とすることができる。

(表彰者の決定)

第5条 幹事会は、審査委員会の審査に基づき、表彰者を決定する。

(表彰状の授与等)

第6条 表彰に際しては、別紙様式による表彰状に併せて記念品を贈呈することができる。

- 2 表彰は、協議会の総会において行う。

(取扱要項への委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、表彰について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年9月20日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会学術奨励規程（昭和40年6月2日制定）は、廃止する。
- 3 東北地区大学図書館協議会表彰規程（昭和38年6月30日制定）は、廃止する。

東北地区大学図書館協議会表彰規程取扱要項

平成19年 9月20日制定

- 第1 この取扱要項は、東北地区大学図書館協議会表彰規程（以下「規程」という。）第7条の規定に基づき表彰について必要な事項を定めるものである。
- 第2 規程第2条第1号の「図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者」とは次に掲げる者をいう。
- (1) 図書館活動における業績 業務処理の改善や業務遂行上の成果等で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動において先導的な意義を有するもの。
 - (2) 図書館情報学の研究、調査等の業績 図書館情報学に関する著作で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動に対して啓発性を有するもの。
 - (3) 前2号の業績は、個人以外にグループも対象とする。
- 第3 規程第2条第2号の「協議会の運営、発展のために功績顕著であった者」とは、加盟館に5年以上勤務した者のうち、規定文言の主旨に合致するものを対象とする。
- 第4 規程第3条の推薦の期日は、毎年5月末日までとする。
- 2 推薦は、別紙文書により行う。
- 3 応募については、自薦、他薦を問わないものとする。
- 第5 主査館は、推薦調書（各写）を審査委員会に送付し、審査を依頼するものとする。
- 第6 審査は、会議又はその他の方法による。
- 第7 推薦調書を提出した審査委員館は、審査には加わらない。
- 第8 常任幹事館から推薦調書の提出があった場合は、常任幹事館を除く審査委員館の互選によって主査館を決定する。
- 第9 審査委員館は、当分の間、会則第6条に規定する幹事館をもって充てる。
- 第10 審査委員館は、審査結果を文書にて、その年の7月末日までに常任幹事館に報告する。
- 第11 常任幹事館は、審査委員会の結果を総会に報告するものとする。
- 第12 受賞者等については、その受賞事由、業績等の概要等を協議会誌に公表するものとする。

附 則

- 1 この取扱要項は、平成19年9月20日から施行する。
- 2 学術奨励賞候補論文等審査取扱要項（平成2年9月20日制定）は、廃止する。

東北地区大学図書館協議会研修部会設置要項

制 定 平成20年 9月18日

最終改正 平成30年 2月 1日

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に研修部会（以下「部会」という。）を設置し、具体的な研修実施のための企画立案を行い、協議会加盟館員の人材育成と交流の機会を図る。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 部会が主体となって実施する研修の企画
- (2) 研修会会場館（地区）との協力による集合型研修への協力
- (3) 研修結果・成果の協議会ウェブサイト等を利用した公開

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 国立大学部会から推薦された者 2名
- (2) 公立大学部会から推薦された者 1名
- (3) 私立大学部会から推薦された者 2名

2 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とする。ただし、再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成20年9月18日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会研修検討WGは、廃止する。

附 則

この要項は、平成30年2月1日から施行する。

東北地区大学図書館協議会 役員館一覧

【参考資料5】

回次 (任期)	常任 幹事館	幹事館			監査館			審査委員会(平成19年8月までは論文審査館)		
		(国立)	(公立)	(私立)	(公立)	(私立)	(国立)	(公立)	(私立)	
第46回総会 (H3.9～H5.8)	東北大学	東北大学 岩手大学	福島県立会津短期大学	宮城学院女子大学 石巻専修大学	宮城県農業短期大学	東北福祉大学	東北大学 岩手大学	福島県立医科大学 山形県立米沢女子短期大学	東北工業大学 日本大学工学部	
第48回総会 (H5.9～H7.8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	会津大学短期大学部	東北福祉大学 いわき明星大学	宮城県農業短期大学	東北学院大学	東北大学 宮城教育大学	福島県立医科大学 秋田県立農業短期大学	八戸工業大学 秋田経済法科大学	
第50回総会 (H7.9～H9.8)	東北大学	東北大学 秋田大学	会津大学	東北薬科大学 富士大学	宮城県農業短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 秋田大学	福島県立医科大学 岩手県立宮古短期大学	仙台大学 郡山女子大学	
第52回総会 (H9.9～H11.8)	東北大学	東北大学 福島大学	会津大学	八戸工業大学 東北工業大学	宮城県農業短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 福島大学	福島県立医科大学 岩手県立宮古短期大学	仙台大学 郡山女子大学	
第54回総会 (H11.9～H13.8)	東北大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学	秋田経済法科大学 東北文化学園大学	山形県立米沢女子短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 山形大学	秋田県立大学 秋田公立美術工芸短期大学	仙台大学 盛岡大学	
第56回総会 (H13.9～H15.8)	東北大学	東北大学 弘前大学	山形県立保健医療大学	仙台白百合女子大学 秋田経済法科大学	秋田県立大学	東北福祉大学	東北大学 弘前大学	宮城大学 宮城県農業短期大学	八戸大学 東北工業大学	
第58回総会 (H15.9～H17.8)	東北大学	東北大学 岩手大学	秋田県立大学	宮城学院女子大学 いわき明星大学	宮城大学	仙台白百合女子大学	東北大学 岩手大学	青森県立保健大学 岩手県立大学	宮城学院女子大学 いわき明星大学	
第60回総会 (H17.9～H19.8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	宮城大学	東北学院大学 岩手医科大学大学	岩手県立大学	東北福祉大学	東北大学 宮城教育大学	青森県立保健大学 青森公立大学	仙台大学 郡山女子大学	
第62回総会 (H19.9～H21.8)	東北大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学	東北福祉大学 郡山女子大学	青森県立保健大学	東北学院大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学	東北福祉大学 郡山女子大学	
第64回総会 (H21.9～H23.8)	東北大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学	盛岡大学 仙台大学	福島県立医科大学	石巻専修大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学	盛岡大学 仙台大学	
第66回総会 (H23.9～H25.8)	東北大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学	東北薬科大学 東北文教大学・短期大学部	山形県立保健医療大学	岩手医科大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学 東北文教大学・短期大学部	東北薬科大学 東北文教大学・短期大学部	
第70回総会 (H25.9～H27.8)	東北大学	東北大学 弘前大学	山形県立米沢女子短期大学	東北学院大学 八戸学院大学	秋田公立美術大学	東北工業大学	東北大学 弘前大学	山形県立米沢女子短期大学 八戸学院大学	東北学院大学 八戸学院大学	
第72回総会 (H27.9～H29.8)	東北大学	東北大学 岩手大学	秋田公立美術大学	東北学院大学 青森中央学院大学	宮城大学	東北文化学園大学	東北大学 岩手大学	秋田公立美術大学 青森中央学院大学	東北学院大学 青森中央学院大学	
第74回総会 (H29.9～R1.8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	宮城大学	修紅短期大学 聖和学園短期大学	岩手県立大学	東北医科薬科大学	東北大学 宮城教育大学	宮城大学 修紅短期大学 聖和学園短期大学	修紅短期大学 聖和学園短期大学	
第76回総会 (R3.9～R5.8)	東北大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学	仙台青葉学院短期大学 東北芸術工科大学 東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部 奥羽大学	青森公立大学 会津大学短期大学部	尚綱学院大学 仙台白百合女子大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学 青森県立保健大学	仙台青葉学院短期大学 東北芸術工科大学 東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部 奥羽大学	
第78回総会 (R5.9～R7.8)	東北大学	東北大学 山形大学	会津大学短期大学部	仙台白百合女子大学 東北公益文科大学	山形県立大学法人	仙台青葉学院短期大学	東北大学 山形大学	会津大学短期大学部	仙台白百合女子大学 東北公益文科大学	

第78回東北地区大学図書館協議会総会議事メモ

期 日 令和5年9月27日（水）13：30～15：18（オンライン会議）

当 番 館 日本大学図書館工学部分館

参 加 者 加盟37館64名

議事

1. 開会

当番館日本大学図書館工学部分館の濱田分館長から、開会の挨拶があった。

2. 議長選出

当番館日本大学図書館工学部分館の添田図書館事務課長から、当番館の濱田分館長を議長として選出することが提案され、承認された。

3. 全体会議(1)

3-1. 報告事項

- ① 令和4年度活動報告について
事務局から、資料1に基づき報告があった。
- ② 令和4年度一般報告について
事務局及び各部会幹事館から、資料2に基づき報告があった。
- ③ 令和4年度研修部会活動報告について
事務局から、資料3に基づき報告があった。
- ④ 加盟館のキャンパス統合による名簿の変更について
事務局から、資料4に基づき報告があった。

3-2. 協議事項

- ① 令和4年度決算報告(案)について
- ② 令和4年度記念事業基金決算報告(案)について
- ③ 令和4年度会計監査報告について
事務局から、上記①及び②について、資料5及び6に基づき報告があった。
次いで③について、監査館の仙台白百合女子大学から、資料7に基づき、令和5年9月1日～15日に会津大学短期大学部及び仙台白百合女子大学による監査を実施した旨報告があり、それぞれ原案のとおり承認された。
- ④ 令和5年度事業計画(案)について
事務局から、資料8に基づき提案があり、原案のとおり承認された。
また、令和5年度合同研修会は、山形地区が開催当番となることを確認した。
- ⑤ 令和5年度予算(案)について

⑥ 令和５年度記念事業基金予算(案)について

事務局から、上記⑤及び⑥について、資料９に基づき提案があり、それぞれ原案のとおり承認された。

⑦ 第７９回総会の当番地区(館)について

事務局から、資料１０に基づき説明があり、次回当番地区が宮城地区であることを確認した。当番大学は尚絅学院大学とすることが承認された。

⑧ 役員館の選出について

事務局から、資料１１に基づき説明があり、常任幹事館の推薦並びに各部会で幹事館及び監査館を選出し、全体会議(２)で報告いただきたい旨依頼があった。

常任幹事館については、推薦がなかったことから、議長から、引き続き東北大学に依頼したい旨提案があり、承認された。

⑨ 研修部会委員の改選について

事務局から、資料１２に基づき説明があり、各部会で研修部会担当館を選出していただいた後、全体会議(２)で報告、後日、当該大学から委員を推薦いただき、委嘱手続きを行うことが承認された。

⑩ 第８０回記念事業(案)について

事務局から、資料１３に基づき説明があり、各部会で検討いただいた後、全体会議(２)で報告、その結果を踏まえて、幹事館５館による協議に一任したい旨提案があり、承認された。

3-3. 承合事項

① オンライン会議主催における課題について

提案の趣旨について、提案館の日本大学図書館工学分館から資料１４に基づき説明があり、各部会で必要に応じて意見交換を行うこととした。

4. 部会

国立、公立、私立大学の各部会に分かれて、会合が行われた。

5. 全体会議(２)

5-1. 各部会からの報告

各部会から、意見交換の結果について報告があった。

(1) 役員館の選出について

① 国立大学部会（報告館：東北大学）

幹事館として、東北大学と山形大学を選出した。

② 公立大学部会（報告館：福島県立医科大学）

幹事館として、会津大学短期大学部を、監査館として山形県公立大学法人附属図書館を選出した。

③ 私立大学部会（報告館：奥羽大学）

幹事館として、仙台白百合女子大学と東北公益文科大学を、監査館として仙台青葉学院短期大学を選出した。

(2) 研修部会担当館の選出について

① 国立大学部会（報告館：東北大学）

担当館として、弘前大学と東北大学を選出した。

② 公立大学部会（報告館：福島県立医科大学）

担当館として、会津大学を選出した。

③ 私立大学部会（報告館：奥羽大学）

担当館として、東北学院大学と東北文化学園大学を選出した。

(3) 第80回記念事業(案)について

① 国立大学部会（報告館：東北大学）

国立大学部会として、震災関連の記録をまとめたものを作成又は記念講演会（AIと図書館若しくは東北ゆかりの作家による）の提案があった。

② 公立大学部会（報告館：福島県立医科大学）

公立大学部会として、第60回記念事業で作成した図書館のすすめの改訂又は記念講演会の提案があった。

③ 私立大学部会（報告館：奥羽大学）

私立大学部会として、幹事館一任となった。

以上の各部会からの報告に基づき、幹事館での協議に一任することが承認された。

5-2. その他

なし。

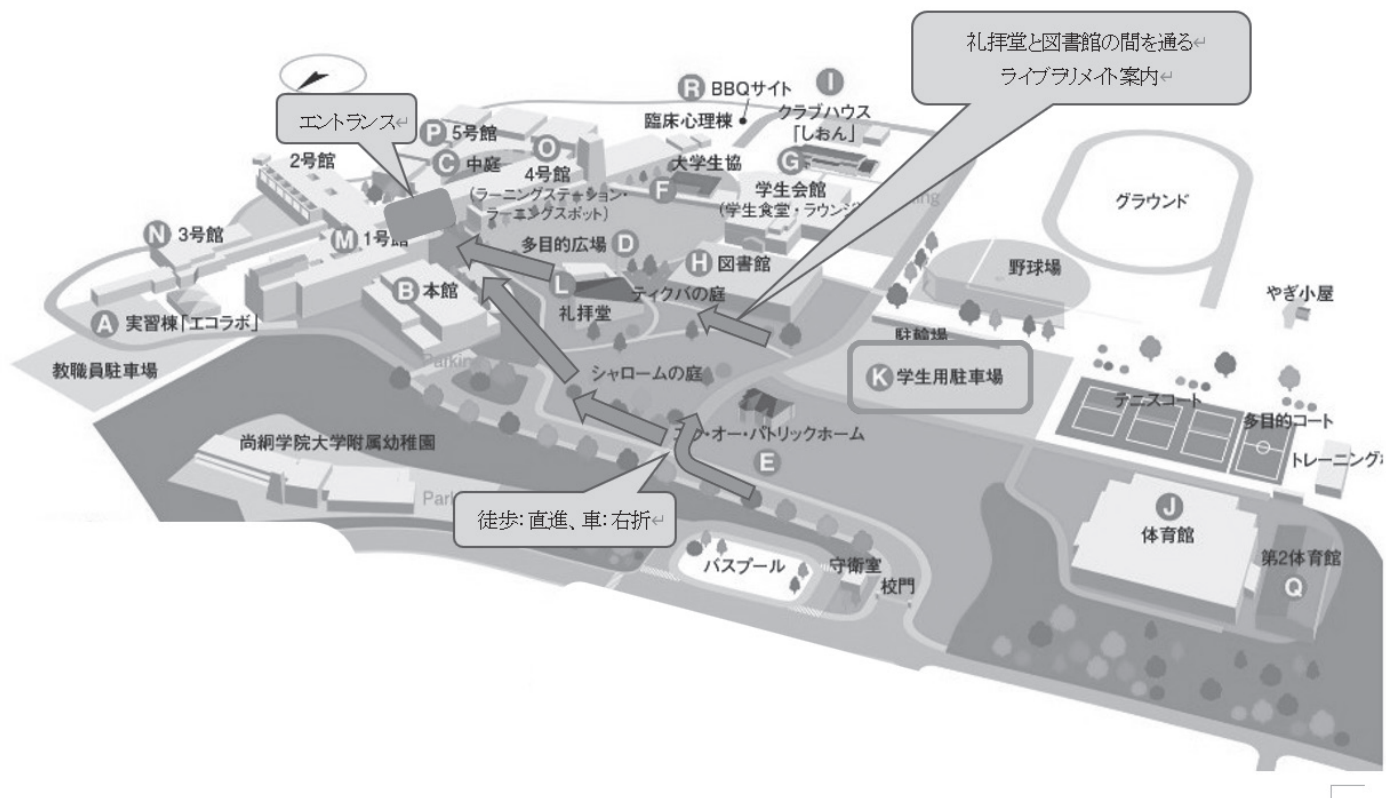
6. 閉会

挨拶 次期当番館

次期当番館である尚絅学院大学図書館の太田館長から挨拶があった。

以 上

尚絅学院大学キャンパスマップ



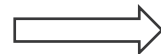
【4号館】

図書館へ

トイレ



自動ドア

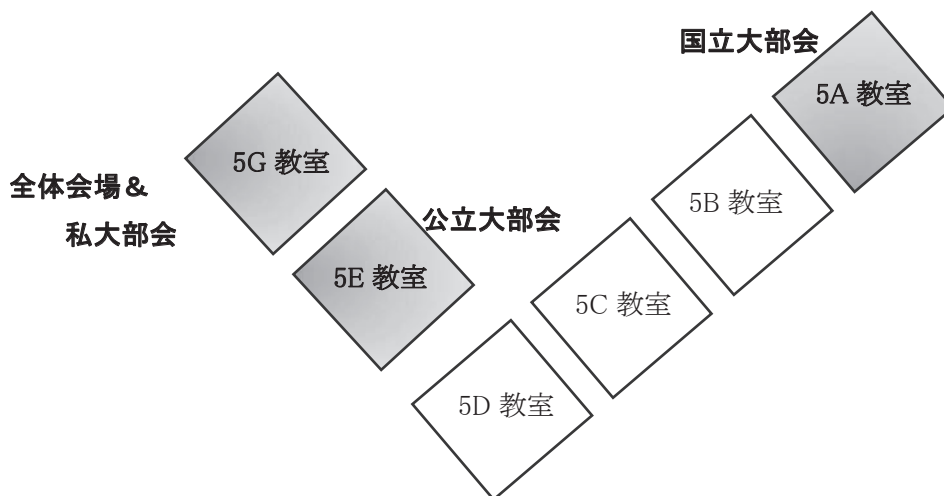


エントランス

自動ドア

【5号館】

トイレ



【5.準備物】

- ・PC3 台、
- ・ビデオ、三脚
- ・カメラ

- ・立て看板 (2) 正門、エントランス前
- ・教室掲示
- ・スリッパ、ビニール袋 (40)

第79回東北地区大学図書館協議会総会基調講演

約10年間、情報リテラシー 教育業務を担当して

ー図書館員と教員の視点からー

東北学院大学文学部
吉植 庄栄

1. はじめに

2



自己紹介
(R6年3月迄)

吉植 庄栄 (盛岡大学文学部)

(よしうえ しょうえい)

- ・ 東京都大田区出身、19歳からほぼずっと仙台
- ・ 教育哲学を大学・大学院（東北大教）で専攻
- ・ 大学図書館員を20年務めた（東北大図が14年間）
- ・ 平成30(2018)年4月から現職
- ・ 令和2(2020)年4月から図書館副館長を兼務

3



自己紹介
(R6年4月以降)

吉植 庄栄 (東北学院大学文学部)

(よしうえ しょうえい)

- ・ 6年ぶりに仙台に帰還
- ・ 盛岡大学には未練たっぷり
- ・ それも被災時に居た場所に干支一巡して戻ること
- ・ 何か意味があるんですかね？
- ・ 岩手に残してきた人・仕事、すべてごめんなさい

4

2. 情報リテラシー教育は 何故やるか？

5

(1) S.R.ランガナタン 図書館学の五法則から

6

S.R.ランガナタン(1892-1972)

(Shiyali Ramamrita Ranganathan =
சியலி ராமாமிருத ரங்கநாதன்)



インド（マドラス州、現タミルナドゥ州出身）の数学者・図書館学者、図書館運営の実務者でもある。

『図書館学の五法則』のほか、
『コロソ分類法』など多数の著作を生み出した。

7

The Five Laws of Library Science(1931)

- Books are for use
- Every reader his [or her] book
- Every book its reader
- Save the time of the reader
- The library is a growing organism

8

図書館学の五法則（和訳）

- 図書は利用するものである
 - いずれの利用者にもその人の本を
 - いずれの本にもその利用者を
 - 利用者の時間を節約せよ
 - 図書館は成長する有機体である
- 図書館業務の原理を5つに集約した基本原理。

9

第四法則

- 当時は閉架書庫が普通
 - オーダーしてから図書館員が取ってくる時代
 - 下手すると午前中待たされる
- これは経済損失！

10

第四法則実現のために

- 開架式書庫
- 分類による配架
- カード、冊子体目録
- 図書検索システム
- 雑誌記事検索システム
- 選書

11

第四法則実現のために

- 電子ジャーナル
- 機関リポジトリ
- 電子図書館
- デジタルコレクション
- レファレンスサービス

12

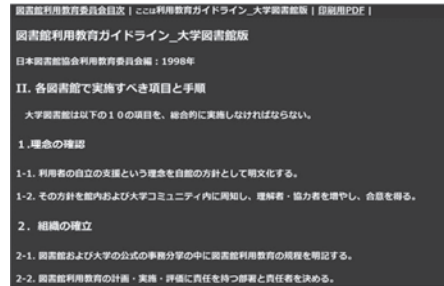
第四法則実現のために ■サービスを知らない利用者 ■多すぎて見つけられない利用者 ↓ ■レファレンス→相談できる ■利用者教育→次から自分で可能 ※相談カウンター＆講習会の意義 13	(2)大学図書館と 情報リテラシー教育 14
大学の図書館 ■資料が圧倒的な量 ■様々なサービス ■様々な機器類 ■様々なスペース 多機能で複雑 使いこなすには至難の業 15	学校図書館の平均蔵書数(SLA 2023) ■小学校：9,965 冊 ■中学校：12,244 冊 ■高等学校：26,534 冊 16
大学図書館蔵書数（急激に増加） ■尚絅学院大学：約16.3万冊 ■盛岡大学：約19万冊 ■岩手大学：約89万冊 ■東北学院大学：約135万冊 ■東北大学：約420万冊 ■東京大学：約1,000万冊超え 17	戸惑った時の人間の態度？ ■適応するように学ぶ ■自分とは関係ないと思う ■理解不能→存在しないことに 18

新入生の意識

- そもそも入って良いの？
 - 多機能で何をして良いか謎
 - とりあえず勉強してみる
 - とりあえず本を検索してみる
 - 見よう見まねで使ってみる
- ※何も教えなければとても不親切

19

図書館利用教育ガイドライン(1998)



20世紀末からうたわれていた²⁰

高校→大学図書館への飛躍

- 入退館システム
- 自動貸出機
- 貸出冊数増加・期間延長
- アクティブラーニング・スペース
- 様々な電子機器
- 書庫・特殊資料

21

飛躍への対応

- 新入生ガイダンス
- 蔵書検索講習
- 雑誌記事検索講習（日・英）
- 各種データベース講習
- 館内機器活用講習
- レポート・論文講習

22

3. 大学図書館員時代

23

大学図書館員としての20年

- 東京外国語大学附属図書館
(1998-2000)
- 東北大学附属図書館
(2001-2011, 2015-2017)
- 宮城教育大学附属図書館
(2012-2014)

24

利用者教育担当の時期 ■ 東北大学附属図書館参考調査係 (2003-2006) ■ 宮城教育大学附属図書館 (2012-2014) ■ 東北大学附属図書館参考調査係 (2015-2017) 25	東北大学附属図書館参考調査係（前） ■ 自由参加型講習会 ・ OPAC ・ 雑誌記事（日本語・英語） ■ 研究室依頼 → 文学部行動科学研究室等 ■ （授業参画） 26
当時思ったこと ■ 新入生ガイダンスに全員来ない ■ 自由参加型講習会参加者は少ない → 新学期はある程度多いが ■ 準備が空振りになることも ■ 教えた内容は定着したのか？ ■ 一方、授業は大人数 4月以外オーダーメイドが必勝策？²⁷	宮城教育大学附属図書館 ■ 2人の係長に兼任講師発令 ■ 司書教諭科目 ・ 学校図書館メディアの構成 ・ 情報メディアの活用 （東北大教育情報研究部：泉山靖人先生） 附属図書館のリソースを活かした授業を²⁸
当時思ったこと ■ 図書館を使わせる講義 → 学生は使わざるを得なくなる ■ 自然に情報リテラシー教育 ■ 成果物を館内展示 ■ 成績付与まで作業 → 何が分かったかまで把握 29	東北大学附属図書館参考調査係（後） ■ 授業運営 ■ 新入生向け講習会（体系化） ■ 研究室依頼 → 川内の学部に展開 ■ 学部オリエンテーションに参画 → 自由参加型を補完したかった 30

当時思ったこと ■新入生に必ず1回はガイダンス ■自由参加型講習会は4月限定に →新学期のメリットは活かす ■基本はオーダーメイド講習会 ■講義運営(東北大図開講)は教員委任 →参考調査係は事務に徹する 31	オーダーメイド講習会 ■近隣学部 to 営業活動 →研究室行事に組み込んでもらう ■前半は書庫ガイダンス (閲覧係) ■後半の内容は先生と協議 ■係員の専門に合わせて担当決定 →最盛期は4人居た 32
4. 大学教員時代 33	大学教員としての6年 ■盛岡大学文学部英語文化学科准教授 ■担当は司書課程 ■でも司書6割、学芸員2割、教職2割 【司】図書館概論ほか司書科目 【学】博物館情報メディア論、教育論 【教】教育学概論、教育におけるICT活用 34
大学教員としての6年 ■帰納法を体感させる →見学・インタビュー→発見を促す ■講義半分・文献読解・班別討議 ■毎回課題・発表・レポート ■レポートは中間・最終2回提出 ■添削・評価後返却→再提出 ■文献を参考にしないと大減点に ■発表はコロナ後動画発表に 35	大学図書館副館長としての4年 ■新設ポスト ■学内で1番図書館運営に詳しいとい うことで就任 ■図書館運営・専門業務の統括 ※法人職員の事務室長が事務は統括 ■直営 ■専門職ではない 36

大学図書館副館長としての4年

■盛岡大学図書館

- ・職員8-9人
- ・蔵書：19万冊
- ・年間予算：約2千万円
- ・平成19(2007)年 新館オープン
- ・直後にラーニングコモンズ設置

37

大学図書館副館長としての4年

■取り組んだこと

- ・危機管理（コロナ対策）
- ・自動貸出機導入
- ・情報リテラシー業務担当
- ・『図書館指南書』リニューアル
- ・学生協働の復活
- ・選書体制の見直し
- ・人材の確保、人事の安定化
- ・『盛岡大学図書館研究年報』創刊

38

大学図書館副館長としての4年

■『図書館指南書』

- ・前身は、東北地区大学図書館協議会『図書館のすすめ』
- ・『東北大学レポート指南書』のコンセプトで全面リニューアル

39

大学図書館副館長としての4年

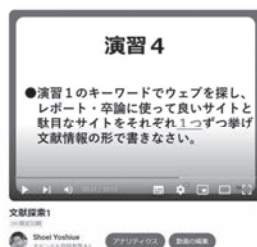
■情報リテラシー担当

- ・『図書館指南書』をテキストに
- ・初年次教育科目も全部担当
- ・図書館利用講座を全部担当
- ・講義動画を事前視聴させる
- ・当日は個別指導
- ・提出課題は添削→返却

40

大学図書館副館長としての4年

■情報リテラシー担当



41

大学図書館副館長としての4年

■反転学習



※宮教大図時代に先生らに習う

42

講習会動画の公開

■岩手大学



43

講習会動画の公開

■岩手大学



44

講習会動画の公開

■広島大学



45

講習会動画の公開

■広島大学

●図書館ミニガイダンス動画・資料一覧

動画※1	視聴時間	資料	掲載日
文庫の探し方1：基礎編	8分	文庫の探し方1：基礎編.odt	2024年7月28日
文庫の探し方2：図書の入手法	7分	文庫の探し方2：図書の入手法.odt	2024年7月28日
文庫の探し方3：論文の入手法	6分	文庫の探し方3：論文の入手法.odt	2024年7月28日
日本語論文をCINII Researchから探す	8分	日本語論文をCINII Researchで探す.odt	2024年6月20日
外国語論文をWeb of Scienceで探す	29分	スライド「学内限定」※2	2024年4月5日
EndNote Basicの基礎 文庫検索・管理・リスト作成	28分	スライド「学内限定」※2	2024年4月5日

「アンケート」（所要時間：1～2分程度）にご協力をお願いします。

※1 動画の視聴（Microsoft Stream）には、大学メールアドレスでのログインが必要です。
 ※2 学外からアクセスする場合、VPNサービスを利用してください。

46

大学図書館副館長としての4年

〈優れた点〉

○図書館利用を促進するために、親しみやすいキャラクターを用いていること、「図書館学生サポーター」を導入していること、レポート及び論文作成の入門書として「図書館指南書」を作成し、学内の学びと図書館の活用の工夫との連携を図っていることは高く評価できる。



認証評価で学内唯一の優れた点

47

5. おわりに

48

まとめ

- 情報リテラシー教育はやるべき
- 自由参加=4月だけ対面ok
- あとはオンデマンド型
- 研究室オーダーメイドが必勝
- 反転学習ができると良い

講習会動画が作れると良い

49

ご清聴ありがとうございました

■吉植庄栄(よしうえ しょうえい)

東北学院大学文学部歴史学科・司書課程准教授

〒980-0812 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1

ホーイ記念館H405

e-mail: syoshiue@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

電話:022-721-3225(ダイヤルイン)

50

第 79 回東北地区大学図書館協議会総会 議事録

期日：令和 6(2024)年 9 月 13 日(金) 13:30～17:00

会場等：尚絅学院大学(ハイブリッド開催)

当番館：尚絅学院大学図書館

参加者：対面参加 21 大学 22 名(国立 6、公立 3、私立 13)

オンライン参加 27 大学 30 名(国立 5、公立 9、私立 16)

議事

司会：佐々木真也

(尚絅学院大学 教育研究支援課長)

1. 開会

尚絅学院大学学長鈴木道子、図書館長太田健児より挨拶があった。

2. 基調講演

東北学院大学文学部准教授 吉植庄栄氏より、「約 10 年間、情報リテラシー教育業務を担当して：図書館員と教員の視点から」と題して講演頂いた。

3. 議長選出

当番館、尚絅学院大学佐々木教育研究支援課長から、当番館 太田健児館長を議長として選出することが提案され、承認された。

4. 総会

議長：当番館館長 太田健児

<4-1 報告事項>

1 令和 5 年度活動報告について

・常任幹事館東北大学附属図書館 三角課長より、【資料 1】「令和 5 年活動報告」について報告された。

2 令和 5 年度一般報告：国公立大学図書館の動向

(一般報告)国立大学部会関係

・常任幹事館東北大学附属図書館三角課長より、【資料 2-1】「国公立大学図書館等の動向」、ならびに【資料 2-2】「国立大学部会関係」について報告された。

(一般報告)公立大学部会関係

・幹事館会津大学短期大学部附属図書館佐々木主務より、【資料 2-3】「公立大学部会関係」について報告された。

(一般報告)私立大学部会関係

・幹事館仙台白百合女子大学佐藤事務長より、【資料 2-4】「私立大学部会関係」について報告された。

3 令和 5 年度研修部会活動報告について

- ・東北学院大学大岡主査より、【資料 3】「東北地区大学図書館協議会研修部会 活動報告」について報告された。

＜4-2 協議事項＞

1 令和 5 年度決算報告(案)について

2 令和 5 年度記念事業基金決算書(案)について

3 令和 5 年度会計監査報告について

- ・東北大学附属図書館 三角課長より【資料 4】「令和 5 年度決算書(案)」、【資料 5】「令和 5 年度記念事業基金決算書(案)」について報告された。また、監査館 山形県立米沢栄養大学 井渕総務企画課長より、監査結果について報告された。【資料 6】

※結果:原案通り承認された。

4 令和 6 年度事業計画(案)について

- ・東北大学附属図書館三角課長より【資料 7】「令和 6 年度事業計画(案)」について提案された。なお、令和 6 年度は福島地区が合同研修会の開催当番である。

※結果:原案通り承認された。また令和 7～9 年度の当番県についても承認された。

5 令和 6 年度予算(案)について

6 令和 6 年度記念事業基金予算(案)について

- ・東北大学附属図書館三角課長より【資料 8】「令和 6 年度予算書(案)」、「令和 6 年度記念事業基金予算書(案)」について提案された。

※結果:令和 6 年度予算書(支出の部)合計金額を一部修正のうえ、承認された。

7 第 80 回総会の当番地区(館)について

- ・東北大学附属図書館三角課長より【資料 9】「第 80 回総会の当番地区(館)」について提案された。

※結果:提案通り、次年度の当番地区は秋田県であることを確認した。また、82～89 回の当番地区についても、案の通りに承認された。

8 第 80 回記念事業(案)について

- ・東北大学附属図書館三角課長より【資料 10】「東北地区大学図書館協議会 第 80 回総会記念事業(案)」について提案された。

(1) 記念講演会…東北ゆかりの作家による講演会。講師は幹事館に一任頂きたい。2025 年秋開催予定とするが、総会にあわせて実施するか、別途開催するかは、今後検討する。

(2) 80 回記念ショート動画制作…各館より写真提供及び制作チーム結成。2025 年夏、遅くとも次回総会までには公開予定

※結果:提案通り承認された。

＜4-3 承合事項＞

東北大学附属図書館三角課長より説明。国際教養大学から「2025 年度からのオープンアクセス義務化に関連して、大学図書館として準備していることがあれば教えてほしい」と承合事項が出された。資料の通り、設問事項を設け、7/29～8/23 の期間で Microsoft Forms に回答入力を依頼し、39 機関から回答があった。詳細は資料 P35～41 の通り。

東北地区を対象とした、かつ国公立大学を横断して実施したアンケート結果は大変貴重。協議会誌にまとめる方向で、国際教養大学とも相談して進めていきたい。

5. 部会

国立、公立、私立大学に分かれて、会合が行われた。

6. 全体会議

6-1 各部会より報告された。

国立大学:東北大学三角課長…今後の地区の研修計画について、意見交換を行った。

公立大学:宮城大学茅原センター長…OA化についての進捗について意見交換を行った。

私立大学:東北公益文科大学西村館長…東北学院大学が研修部会を辞任する意向について、協議の結果承認された。後任は特に決めず、2025 年 8 月末までの任期を、東北文化学園大学に一任することとした。

6-2 その他

・令和 6 年度予算書について、予算書の収入の部と支出の部の合計額に齟齬があるとの指摘があった。事務局で確認し、支出の部予備費令和6年度予算額2,631,704は、「2,431,704」の誤記であると確認した。後日、差し替えの資料を送付する。

7. 閉会

次年度、当番館となる秋田大学図書館・情報推進課 利課長より挨拶があった。

16:30 閉会。

閉会后、見学希望者が図書館、礼拝堂等の施設を見学した。

以上

図 書 館 統 計 年 報

(1) 建物・蔵書状況

(令和6年3月31日現在)

図書館名	建物 延面積 (㎡)	蔵書冊数			雑誌種類数		
		和書 (冊)	洋書 (冊)	計 (冊)	和雑誌 (種類)	洋雑誌 (種類)	計 (種類)
弘 前 大 学	7,700	617,963	221,850	839,813	19,407	6,397	25,804
岩 手 大 学	9,089	698,736	197,314	896,050	12,855	4,958	17,813
東 北 大 学 (本 館)	18,215	1,639,798	1,181,572	2,821,370	27,039	16,742	43,781
同 医 学 分 館	4,476	157,713	228,809	386,522	5,238	9,383	14,621
同 北 青 葉 山 分 館	3,356	95,431	285,816	381,247	2,400	8,245	10,645
同 工 学 分 館	5,365	185,391	183,958	369,349	4,024	4,378	8,402
同 農 学 分 館	5,732	99,176	71,002	170,178	4,393	2,308	6,701
宮 城 教 育 大 学	2,857	342,269	51,464	393,733	2,284	635	2,919
秋 田 大 学	4,604	316,017	113,845	429,862	6,673	2,607	9,280
同 医 学 部 分 館	1,717	56,594	56,767	113,361	2,067	1,788	3,855
山 形 大 学 中 央 図 書 館	7,626	541,575	183,833	725,408	10,128	3,189	13,317
同 医 学 部 図 書 館	373	26,993	21,313	48,306	3,155	1,325	4,480
同 工 学 部 図 書 館	3,259	106,741	51,401	158,142	2,058	1,387	3,445
同 農 学 部 図 書 館	969	87,345	17,379	104,724	2,618	623	3,241
福 島 大 学	10,084	734,934	237,679	972,613	10,924	2,732	13,656
青 森 公 立 大 学	1,607	147,771	44,826	192,597	388	714	1,102
青 森 県 立 保 健 大 学	1,850	110,304	27,768	138,072	946	240	1,186
岩 手 県 立 大 学	6,828	284,358	70,566	354,924	684	450	1,134
宮 城 大 学 大 和 キ ャ ン パ ス	2,193	114,949	18,091	133,040	2,016	471	2,487
同 太 白 キ ャ ン パ ス	943	63,891	7,691	71,582	2,243	274	2,517
秋 田 県 立 大 学	4,906	259,019	61,661	320,680	2,865	1,059	3,924
秋 田 公 立 美 術 大 学	1,194	49,921	9,311	59,232	95	25	120
国 際 教 養 大 学	1,831	33,323	53,123	86,446	100	119	219
山 形 県 立 保 健 医 療 大 学	903	66,799	6,930	73,729	1,118	227	1,345
山 形 県 公 立 大 学	984	116,301	9,741	126,042	109	7	116
会 津 大 学	2,446	62,402	66,281	128,683	609	832	1,441
会 津 大 学 短 期 大 学 部	443	68,372	7,002	75,374	122	91	213
福 島 県 立 医 科 大 学	4,194	146,768	96,098	242,866	4,627	3,027	7,654
柴 田 学 園 大 学	559	42,422	4,930	47,352	85	44	129
八 戸 学 院 大 学	1,647	163,729	12,837	176,566	518	116	634
八 戸 工 業 大 学	1,853	131,267	26,804	158,071	857	611	1,468
弘 前 学 院 大 学	1,280	94,855	19,894	114,749	718	43	761
青 森 中 央 学 院 大 学 ・ 同 短 期 大 学	1,952	98,438	5,556	103,994	235	85	320
岩 手 医 科 大 学	5,054	162,942	137,112	300,054	5,472	2,586	8,058
富 士 大 学	1,786	177,359	31,115	208,474	2,998	178	3,176
盛 岡 大 学 図 書 館	2,081	168,969	22,200	191,169	2,446	232	2,678
修 紅 短 期 大 学	205	16,773	230	17,003	40	5	45
仙 台 大 学	1,248	132,909	18,370	151,279	1,479	163	1,642
仙 台 白 百 合 女 子 大 学	1,446	92,693	10,521	103,214	485	116	601
石 巻 専 修 大 学	3,496	124,859	63,899	188,758	1,317	819	2,136
東 北 学 院 大 学 (中 央)	13,864	760,507	444,739	1,205,246	11,882	4,928	16,810
東 北 工 業 大 学	2,977	191,355	56,080	247,435	1,045	1,041	2,086
東 北 福 祉 大 学	4,696	332,990	69,029	402,019	4,075	696	4,771
東 北 文 化 学 園 大 学	1,744	127,696	15,996	143,692	1,118	132	1,250
東 北 医 科 薬 科 大 学	1,902	68,299	41,879	110,178	542	484	1,026
同 医 学 分 館	589	14,106	526	14,632	113	57	170
宮 城 学 院 女 子 大 学	3,216	287,858	103,232	391,090	8,499	790	9,289
尚 綱 学 院 大 学	2,337	149,755	27,346	177,101	943	181	1,124
聖 和 学 園 短 期 大 学 図 書 館	427	59,070	1,313	60,383	362	4	366
仙 台 青 葉 学 院 短 期 大 学	604	33,282	2,272	35,554	224	19	243
東 北 生 活 文 化 大 学 ・ 同 短 期 大 学 部	660	67,152	5,527	72,679	175	30	205
ノ ー ス ア ジ ア 大 学	1,689	181,517	20,112	201,629	376	306	682
東 北 芸 術 工 科 大 学	1,795	142,923	16,305	159,228	225	129	354
羽 陽 学 園 短 期 大 学	705	66,970	2,453	69,423	134	17	151
東 北 文 教 大 学 ・ 同 短 期 大 学 部	1,533	120,568	8,517	129,085	1,221	44	1,265
東 北 公 益 文 科 大 学	1,639	106,869	12,519	119,388	190	45	235
医 療 創 生 大 学	4,943	218,234	60,018	278,252	927	500	1,427
奥 羽 大 学	2,635	147,963	93,666	241,629	1,141	1,253	2,394
郡 山 女 子 大 学	1,157	106,571	12,816	119,387	814	90	904
東 日 本 国 際 大 学 ・ い わ き 短 期 大 学	1,127	80,166	10,682	90,848	272	122	394
日 本 大 学 工 学 部 分 館	5,006	204,650	117,178	321,828	1,105	1,373	2,478
桜 の 聖 母 短 期 大 学	642	54,551	9,627	64,178	114	27	141
福 島 学 院 大 学	2,254	90,468	6,303	96,771	103	38	141

(2) 電子情報資源の利用可能種類数

(令和6年3月31日現在)

図書館名	電子ジャーナル			電子書籍			データベース		
	国内 (種類)	国外 (種類)	計 (種類)	国内 (タイトル)	国外 (タイトル)	計 (タイトル)	国内 (種類)	国外 (種類)	計 (種類)
弘 前 大 学	1,643	1,643	3,286	11,862	8,681	20,543	6	2	8
岩 手 大 学	2	6,294	6,296	4,842	6,438	11,280	7	7	14
東 北 大 学 (本 館)	34	13,498	13,532	7,291	2,993	10,284	25	33	58
同 医 学 分 館	1,583	-	1,583	9,767	192	9,959	-	-	-
同 北 青 葉 山 分 館	-	-	-	445	1,423	1,868	-	-	-
同 工 学 分 館	-	-	-	1,242	651	1,893	-	-	-
同 農 学 分 館	-	-	-	350	12	362	-	-	-
宮 城 教 育 大 学	-	27,262	27,262	672	3,151	3,823	6	1	7
秋 田 大 学	1,614	6,419	8,033	2,683	598	3,281	7	6	13
同 医 学 部 分 館	-	-	-	8,225	17	8,242	-	-	-
山 形 大 学 中 央 図 書 館	-	6,867	6,867	1,392	4,684	6,076	6	1	7
同 医 学 部 図 書 館	1,583	112	1,695	7,451	3	7,454	2	-	2
同 工 学 部 図 書 館	-	66	66	173	88	261	-	1	1
同 農 学 部 図 書 館	-	-	-	38	10	48	-	-	-
福 島 大 学	1	27,262	27,263	1,631	1,102	2,733	7	3	10
青 森 公 立 大 学	-	54	54	-	-	-	5	2	7
青 森 県 立 保 健 大 学	1,662	566	2,228	7,211	18	7,229	2	7	9
岩 手 県 立 大 学	14	188	202	256	-	256	5	-	5
宮 城 大 学 大 和 キ ャ ン パ ス	1,851	3,031	4,882	731	219	950	9	6	15
同 太 白 キ ャ ン パ ス	9	2,000	2,009	49	-	49	-	1	1
秋 田 県 立 大 学	61	3,378	3,439	501	1,888	2,389	4	5	9
秋 田 公 立 美 術 大 学	-	304	304	277	123	400	2	-	2
国 際 教 養 大 学	-	10,238	10,238	43	476,535	476,578	2	3	5
山 形 県 立 保 健 医 療 大 学	1,631	3,878	5,509	65	-	65	1	-	1
山 形 県 公 立 大 学	9	-	9	190	-	190	3	-	3
会 津 大 学	33	336	369	62	5,377	5,439	1	2	3
会 津 大 学 短 期 大 学 部	289	7	296	-	-	-	1	-	1
福 島 県 立 医 科 大 学	1,550	8,815	10,365	8,819	530	9,349	2	5	7
柴 田 学 園 大 学	5	1	6	-	-	-	6	-	6
八 戸 学 院 大 学	1	11	12	-	41	41	3	-	3
八 戸 工 業 大 学	-	1	1	47	-	47	-	-	-
弘 前 学 院 大 学	2	2	4	-	-	-	1	-	1
青 森 中 央 学 院 大 学 ・ 同 短 期 大 学	4	10	14	22	-	22	3	-	3
岩 手 医 科 大 学	1,660	3,253	4,913	148	5,477	5,625	3	3	6
富 士 大 学	-	1	1	1	-	1	4	-	4
盛 岡 大 学 図 書 館	1,648	2,298	3,946	820	25	845	3	-	3
修 紅 短 期 大 学	-	-	-	-	-	-	-	-	-
仙 台 大 学	1,603	1,400	3,003	507	-	507	5	-	5
仙 台 白 百 合 女 子 大 学	-	16	16	-	100	100	9	2	11
石 巻 専 修 大 学	1	1,577	1,578	271	6	277	2	1	3
東 北 学 院 大 学 (中 央)	7	29,132	29,139	5,212	966	6,178	11	13	24
東 北 工 業 大 学	12	9	21	1,207	206	1,413	3	-	3
東 北 福 祉 大 学	1,612	7,782	9,394	285	8	293	14	4	18
東 北 文 化 学 園 大 学	1,711	4,576	6,287	302	-	302	5	-	5
東 北 医 科 薬 科 大 学	1,648	11,896	13,544	8,162	34,163	42,325	4	5	9
同 医 学 分 館	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮 城 学 院 女 子 大 学	3	22,343	22,346	786	17	803	12	2	14
尚 綱 学 院 大 学	71	4,678	4,749	58	125	183	7	2	9
聖 和 学 園 短 期 大 学 図 書 館	-	-	-	-	-	-	-	-	-
仙 台 青 葉 学 院 短 期 大 学	-	137	137	1,956	-	1,956	1	-	1
東 北 生 活 文 化 大 学 ・ 同 短 期 大 学 部	-	2	2	171	-	171	-	-	-
ノ ー ス ア ジ ア 大 学	-	-	-	-	-	-	3	-	3
東 北 芸 術 工 科 大 学	-	5	5	130	-	130	-	-	-
羽 陽 学 園 短 期 大 学	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東 北 文 教 大 学 ・ 同 短 期 大 学 部	-	1	1	-	-	-	4	2	6
東 北 公 益 文 科 大 学	-	3	3	233	92	325	7	1	8
医 療 創 生 大 学	1,644	3	1,647	390	-	390	4	-	4
奥 羽 大 学	-	-	-	11	-	11	-	-	-
郡 山 女 子 大 学	1	-	1	73	-	73	1	-	1
東 日 本 国 際 大 学 ・ い わ き 短 期 大 学	-	-	-	1,173	189	1,362	3	-	3
日 本 大 学 工 学 部 分 館	1	34	35	-	-	-	4	1	5
桜 の 聖 母 短 期 大 学	4	-	4	76	-	76	1	-	1
福 島 学 院 大 学	-	1	1	30	-	30	1	-	1

※分館でも利用できるが、中央館でまとめて契約している場合は、中央館に計上している。

(3) 利用状況

(令和5年度分)

図書館名	館外貸出				現物貸借		文献複写	
	教職員 (冊)	学生 (冊)	学外者 (冊)	計 (冊)	貸出 (冊)	借受 (冊)	受付 (件)	依頼 (件)
弘 前 大 学	5,968	40,551	2,233	48,752	470	384	2,013	1,544
岩 手 大 学	2,794	20,488	4,646	27,928	320	289	596	991
東 北 大 学 (本 館)	19,744	112,937	2,384	135,065	923	1,268	2,534	1,931
同 医 学 分 館	4,344	10,272	137	14,753	36	24	2,517	809
同 北 青 葉 山 分 館	366	2,701	-	3,067	16	23	244	86
同 工 学 分 館	2,859	34,345	224	37,428	57	45	546	167
同 農 学 分 館	1,911	7,584	20	9,515	41	42	236	93
宮 城 教 育 大 学	3,366	17,759	439	21,564	184	135	336	116
秋 田 大 学	2,924	17,581	678	21,183	194	153	179	354
同 医 学 部 分 館	549	2,193	77	2,819	7	1	997	502
山 形 大 学 中 央 図 書 館	2,060	19,843	1,150	23,053	154	346	631	730
同 医 学 部 図 書 館	372	1,172	12	1,556	-	1	906	448
同 工 学 部 図 書 館	553	5,888	117	6,558	22	12	146	76
同 農 学 部 図 書 館	179	1,379	101	1,659	8	53	45	48
福 島 大 学	3,574	19,261	697	23,532	517	300	852	640
青 森 公 立 大 学	759	5,693	377	6,829	11	26	16	53
青 森 県 立 保 健 大 学	1,740	8,752	1,737	12,229	67	17	68	342
岩 手 県 立 大 学	3,792	13,750	2,481	20,023	143	125	280	1,064
宮 城 大 学 大 和 キ ャ ン パ ス	1,363	4,486	13	5,862	3	22	375	366
同 太 白 キ ャ ン パ ス	243	1,267	9	1,519	1	10	53	128
秋 田 県 立 大 学	3,180	24,486	862	28,528	99	49	228	268
秋 田 公 立 美 術 大 学	946	5,130	203	6,279	41	28	29	53
国 際 教 養 大 学	1,042	5,972	1,187	8,201	62	226	16	36
山 形 県 立 保 健 医 療 大 学	731	11,823	188	12,742	1	6	184	159
山 形 県 公 立 大 学	650	4,819	216	5,685	16	32	69	233
会 津 大 学	1,184	10,546	216	11,946	4	18	63	35
会 津 大 学 短 期 大 学 部	2,875	1,363	153	4,391	1	20	32	51
福 島 県 立 医 科 大 学	3,658	7,681	252	11,591	40	37	1,082	1,164
柴 田 学 園 大 学	668	704	-	1,372	-	-	-	-
八 戸 学 院 大 学	1,350	3,056	677	5,083	66	48	47	71
八 戸 工 業 大 学	217	621	56	894	5	14	4	53
弘 前 学 院 大 学	627	1,308	4	1,939	1	9	2	46
青 森 中 央 学 院 大 学 ・ 同 短 期 大 学	600	2,740	21	3,361	12	8	14	81
岩 手 医 科 大 学	2,749	1,415	251	4,415	7	12	1,118	581
富 士 大 学	224	965	176	1,365	18	14	35	11
盛 岡 大 学 図 書 館	366	2,701	60	3,127	28	34	77	90
修 紅 短 期 大 学	383	555	-	938	-	7	35	39
仙 台 大 学	275	656	-	931	-	-	1	34
仙 台 白 百 合 女 子 大 学	295	2,085	128	2,508	-	1	8	20
石 巻 専 修 大 学	712	1,455	254	2,421	60	60	42	204
東 北 学 院 大 学 (中 央)	4,114	15,046	1,750	20,910	80	95	43	253
東 北 工 業 大 学	2,873	6,853	221	9,947	48	105	54	218
東 北 福 祉 大 学	2,420	14,460	-	16,880	62	8	370	183
東 北 文 化 学 園 大 学	1,942	7,603	4	9,549	14	8	143	214
東 北 医 科 薬 科 大 学	489	1,737	-	2,226	-	4	84	26
同 医 学 分 館	1,652	5,362	-	7,014	-	1	30	171
宮 城 学 院 女 子 大 学	3,783	15,800	216	19,799	122	74	542	187
尚 綱 学 院 大 学	1,303	6,017	76	7,396	7	45	39	132
聖 和 学 園 短 期 大 学 図 書 館	1,328	1,775	-	3,103	-	-	57	17
仙 台 青 葉 学 院 短 期 大 学	1,719	5,381	14	7,114	-	6	-	51
東北生活文化大学・同短期大学部	312	497	-	809	-	-	-	5
ノ ー ス ア ジ ア 大 学	568	497	4	1,069	6	7	164	33
東 北 芸 術 工 科 大 学	1,596	18,153	-	19,749	55	51	52	123
羽 陽 学 園 短 期 大 学	258	3,074	297	3,629	-	-	4	-
東 北 文 教 大 学 ・ 同 短 期 大 学 部	526	2,998	41	3,565	4	2	1	30
東 北 公 益 文 科 大 学	1,269	3,928	3,133	8,330	6	31	70	359
医 療 創 生 大 学	1,244	3,347	-	4,591	78	50	30	273
奥 羽 大 学	926	1,638	12	2,576	2	1	20	90
郡 山 女 子 大 学	401	855	11	1,267	4	15	8	109
東 日 本 国 際 大 学 ・ い わ き 短 期 大 学	372	1,564	28	1,964	15	2	7	2
日 本 大 学 工 学 部 分 館	3,863	4,335	6	8,204	3	25	105	42
桜 の 聖 母 短 期 大 学	393	1,359	78	1,830	3	-	-	8
福 島 学 院 大 学	577	2,326	67	2,970	-	5	-	15

協議会総会当番地区・当番大学

回	年	当番地	当番大学	回	年	当番地	当番大学
	昭和				平成		
1	22	宮 城	東北大学	51	8	山 形	山形大学
2	23	〃	仙台工業専門学校	52	9	宮 城	東北工業大学
3	24	〃	東北学院大学	53	10	青 森	青森公立大学
4	24	〃	東北大学	54	11	岩 手	盛岡大学・盛岡短期大学
5	25	岩 手	岩手大学	55	12	宮 城	宮城教育大学
6	26	山 形	山形大学	56	13	福 島	奥羽大学
7	27	青 森	弘前大学	57	14	秋 田	秋田県立大学
8	28	福 島	福島大学	58	15	宮 城	東北福祉大学
9	29	秋 田	秋田大学	59	16	山 形	山形大学
10	30	宮 城	宮城学院女子大学	60	17	青 森	青森大学・青森短期大学
11	31	岩 手	岩手医科大学	61	18	宮 城	宮城大学
12	32	山 形	山形大学	62	19	岩 手	岩手県立大学
13	33	秋 田	秋田大学	63	20	福 島	いわき明星大学
14	34	青 森	弘前大学	64	21	宮 城	仙台白百合女子大学
15	35	福 島	福島県立医科大学	65	22	秋 田	国際教養大学
16	36	宮 城	東北大学	66	23	山 形	山形大学
17	37	岩 手	岩手大学	67	24	宮 城	東北大学
18	38	福 島	福島大学	68	25	青 森	八戸工業大学
19	39	宮 城	東北学院大学	69	26	岩 手	岩手大学
20	40	秋 田	秋田大学	70	27	宮 城	宮城教育大学
21	41	山 形	山形大学	71	28	福 島	福島大学
22	42	宮 城	東北薬科大学	72	29	秋 田	秋田公立美術大学
23	43	青 森	弘前大学	73	30	宮 城	東北学院大学
24	44	岩 手	奥州大学		令和		
25	45	宮 城	東北工業大学	74	元	山 形	山形大学
26	46	福 島	福島県立医科大学	75	2	青 森	弘前大学
27	47	秋 田	秋田経済大学	76	3	宮 城	宮城大学
28	48	宮 城	宮城教育大学	77	4	岩 手	岩手医科大学
29	49	山 形	山形大学	78	5	福 島	日本大学図書館工学部分館
30	50	青 森	弘前大学	79	6	宮 城	尚綱学院大学
31	51	宮 城	東北大学	80	7	秋 田	(秋田大学)
32	52	岩 手	岩手大学	81	8	山 形	
33	53	福 島	福島大学	82	9	宮 城	
34	54	宮 城	東北福祉大学	83	10	青 森	
35	55	秋 田	秋田大学	84	11	岩 手	
36	56	山 形	山形大学	85	12	宮 城	
37	57	宮 城	宮城学院女子大学	86	13	福 島	
38	58	青 森	弘前大学	87	14	秋 田	
39	59	岩 手	岩手医科大学	88	15	宮 城	
40	60	宮 城	東北大学	89	16	山 形	
41	61	福 島	福島県立医科大学	90			
42	62	秋 田	秋田大学				
43	63	宮 城	東北学院大学				
	平成						
44	元	山 形	山形大学				
45	2	青 森	弘前大学				
46	3	宮 城	石巻専修大学				
47	4	岩 手	富士大学				
48	5	福 島	郡山女子大学				
49	6	宮 城	東北薬科大学				
50	7	秋 田	秋田経済法科大学				

※第79回総会において、89回までの当番地区が確認された。

東北地区大学図書館協議会 役員館一覧

回次 (任期)	常任 幹事館	幹事館			監査館		審査委員館(平成19年8月までは論文審査館)		
		(国立)	(公立)	(私立)	(公立)	(私立)	(国立)	(公立)	(私立)
第46回総会 (H3.9～H5.8)	東北大学	東北大学 岩手大学	福島県立会津短期大学	宮城学院女子大学 石巻専修大学	宮城県農業短期大学	東北福祉大学	東北大学 岩手大学	福島県立医科大学 山形県立米沢女子短期大学	東北工業大学 日本大学工学部
第48回総会 (H5.9～H7.8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	会津大学短期大学部	東北福祉大学 いわき明星大学	宮城県農業短期大学	東北学院大学	東北大学 宮城教育大学	福島県立医科大学 秋田県立農業短期大学	八戸工業大学 秋田経済法科大学
第50回総会 (H7.9～H9.8)	東北大学	東北大学 秋田大学	会津大学	東北薬科大学 富士大学	宮城県農業短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 秋田大学	福島県立医科大学 岩手県立宮古短期大学	仙台大学 郡山女子大学
第52回総会 (H9.9～H11.8)	東北大学	東北大学 福島大学	会津大学	八戸工業大学 東北工業大学	宮城県農業短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 福島大学	福島県立医科大学 岩手県立宮古短期大学	仙台大学 郡山女子大学
第54回総会 (H11.9～H13.8)	東北大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学	秋田経済法科大学 東北文化学園大学	山形県立米沢女子短期大学	宮城学院女子大学	東北大学 山形大学	秋田県立大学 秋田公立美術工芸短期大学	仙台大学 盛岡大学
第56回総会 (H13.9～H15.8)	東北大学	東北大学 弘前大学	山形県立保健医療大学	仙台北百合女子大学 秋田経済法科大学	秋田県立大学	東北福祉大学	東北大学 弘前大学	宮城大学 宮城県農業短期大学	八戸工業大学 東北工業大学
第58回総会 (H15.9～H17.8)	東北大学	東北大学 岩手大学	秋田県立大学	宮城学院女子大学 いわき明星大学	宮城大学	仙台北百合女子大学	東北大学 岩手大学	青森県立保健大学 岩手県立大学	宮城学院女子大学 いわき明星大学
第60回総会 (H17.9～H19.8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	宮城大学	東北学院大学 岩手医科大学大学	岩手県立大学	東北福祉大学	東北大学 宮城教育大学	青森県立保健大学 青森公立大学	仙台大学 郡山女子大学
第62回総会 (H19.9～H21.8)	東北大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学	東北福祉大学 郡山女子大学	青森県立保健大学	東北学院大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学	東北福祉大学 郡山女子大学
第64回総会 (H21.9～H23.8)	東北大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学	盛岡大学 仙台大学	福島県立医科大学	石巻専修大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学	盛岡大学 仙台大学
第66回総会 (H23.9～H25.8)	東北大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学	東北薬科大学 東北文教大学・短期大学部	山形県立保健医療大学	岩手医科大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学	東北薬科大学 東北文教大学・短期大学部
第68回総会 (H25.9～H27.8)	東北大学	東北大学 弘前大学	山形県立米沢女子短期大学	東北学院大学 八戸学院大学	秋田公立美術大学	東北工業大学	東北大学 弘前大学	山形県立米沢女子短期大学	東北学院大学 八戸学院大学
第70回総会 (H27.9～H29.8)	東北大学	東北大学 岩手大学	秋田公立美術大学	東北学院大学 青森中央学院大学	宮城大学	東北文化学園大学	東北大学 岩手大学	秋田公立美術大学	東北学院大学 青森中央学院大学
第72回総会 (H29.9～R1.8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	宮城大学	修紅短期大学 聖和学園短期大学	岩手県立大学	東北医科大学薬科大学	東北大学 宮城教育大学	宮城大学	修紅短期大学 聖和学園短期大学
第74回総会 (R1.9～R3.8)	東北大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学	仙台青葉学院短期大学 東北芸術工科大学	青森公立大学	尚絅学院大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学	仙台青葉学院短期大学 東北芸術工科大学
第76回総会 (R3.9～R5.8)	東北大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学	東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部 奥羽大学	会津大学短期大学部	仙台北百合女子大学	東北大学 福島大学	青森県立保健大学	東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部 奥羽大学
第78回総会 (R5.9～R7.8)	東北大学	東北大学 山形大学	会津大学短期大学部	仙台北百合女子大学 東北公益文科大学	山形県公立大学法人	仙台青葉学院短期大学	東北大学 山形大学	会津大学短期大学部	仙台北百合女子大学 東北公益文科大学

東北地区大学図書館協議会会則

昭和 22 年 5 月 30 日 制定

令和 2 年 9 月 30 日 最近改正

改正：昭和 28 年 11 月 13 日（第 1 条（名称）改正）、昭和 29 年 6 月 11 日（第 7 条（会費）、第 8 条（票決権）

改正）、昭和 31 年 10 月 5 日（第 6 条（監査館）追加）、昭和 33 年 10 月 7 日（第 5 条（顧問）追加）、昭和 34 年 8 月 4 日（第 9 条（会費）改正）、昭和 39 年 7 月 9 日（第 9 条（会費）改正・同第 2 項（会計年度）制定）、昭和 43 年 5 月 10 日（第 9 条（会費）改正）、昭和 46 年 5 月 13 日（第 9 条（会費）改正）、昭和 50 年 5 月 16 日（第 2 条（加盟組織の追加）改正）、昭和 53 年 10 月 19 日（第 9 条（会費・会計年度）改正）、昭和 56 年 10 月 22 日（第 6 条（幹事館を追加）改正）、昭和 61 年 9 月 25 日（第 9 条（会費）改正）、平成 3 年 9 月 26 日（第 9 条（会費）改正）、平成 6 年 9 月 21 日（第 9 条（会費）改正）、令和 2 年 9 月 30 日（第 9 条（会費）改正）

第 1 条 本会は東北地区大学図書館協議会と称する。

第 2 条 本会は東北地区における大学および国立工業高等専門学校に附属する図書館をもって組織し、図書館の施設、運営、管理などの進歩改善について、相互に連携協力することを目的とする。

第 3 条 本会は毎年 1 回、加盟館輪番により総会を開催する。但し必要に応じ、加盟館過半数の賛成を得て、臨時総会を開くことができる。

第 4 条 本会の目的を達成するため、随時図書館に関する講習会を開催、その他必要と認める事業を行うものとする。

第 5 条 本会に顧問を置くことができる。

顧問はかつて加盟館に在籍し、本会において特に顕著なる功績のあった者の中から、総会においてこれを推薦する。顧問は総会に出席し、また随時意見を述べるができる。

第 6 条 本会に常任幹事館、及び幹事館若干を置く。

1. 常任幹事館、幹事館は幹事会を組織し、協議会の運営にあたる。
 2. 幹事会は毎年少なくとも 1 回招集するものとする。
 3. 常任幹事館は協議会の会務を処理し、幹事会を招集する。
 4. 常任幹事館、幹事館は総会において互選によってこれを定め、その任期を 2 カ年とする。
- 但し、重任することができる。

第 7 条 本会の会計事務を監査するため若干の監査館をおく。監査館は総会において互選によってこれを定め、その任期を 2 カ年とする。但し、重任することができる。

第 8 条 本会の事務所は、常任幹事館内におく。

第 9 条 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。会費は年額 12,000 円とする。

2 本会の会計年度は毎年 9 月 1 日にはじまり、翌年 8 月 31 日に終わる。

第 10 条 総会の票決権は 1 館につき 1 票とし、議決は出席館過半数の賛成を要する。

第 11 条 本会則は総会の議決によらなければこれを変更することができない。

附 則

本会則は昭和 24 年 12 月 2 日から施行する。

（略）

附 則（昭和 53 年 10 月 19 日第 33 回総会）

この改正による会則は、昭和 53 年 10 月 19 日から施行し、昭和 54 年 9 月 1 日から適用する。

附 則（昭和 56 年 10 月 22 日第 36 回総会）

この改正による会則は、昭和 56 年 10 月 24 日から施行し、昭和 56 年 10 月 24 日から適用する。

附 則（昭和 61 年 9 月 25 日第 41 回総会）

この改正による会則は昭和 61 年 9 月 27 日から施行する。

附 則（平成 3 年 9 月 26 日第 46 回総会）

④ この改正による会則は平成 3 年 9 月 26 日から施行する。

附 則（平成 6 年 9 月 21 日第 49 回総会）

この会則は、平成6年9月21日から施行する。

附 則（令和2年9月30日第75回総会）

この会則は、令和2年9月1日から施行する。

○第38回東北地区大学図書館協議会総会議事録（抄）

昭和58年9月29日～30日（会場：弘前大学）

全体会議（第1日）

6. 役員の改選について

常任幹事館から、役員の任期（2年）が今年度で満了となるため、次期役員館選出について提案がなされた。これは、幹事館が国立2館、公立1館、私立2館の計5館で、うち1館が常任幹事館となる。

会計監査館は公立1館、私立1館で、学術奨励論文審査委員館は、国・公・私立各2館の計6館となる。

以上について各部会で検討し、選任の上全体会議で取りまとめることにした。又、会計監査館については、常任幹事館を決め、それに近い大学を推薦願いたいとの提案があり承認された。

東北地区大学図書館協議会表彰規程

平成19年9月20日制定

（趣旨）

第1条 この規程は、東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）会則第4条に基づく事業として加盟館の職員を表彰するため、必要な事項を定めるものとする。

（表彰の区分）

第2条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。

- （1）図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者
- （2）協議会の運営、発展のために功績顕著であった者

（応募の方法）

第3条 表彰を受けようとする者は、所属する加盟館の長に応募の申請を行う。加盟館の長は、応募の申請に基づき常任幹事館へ推薦を行う。

（審査委員会）

第4条 前条の推薦があった時は、審査委員会が審査を行う。

- 2 審査委員会は、常任幹事館及び加盟館の互選による審査委員館若干をもって組織する。
- 3 審査委員会に主査館を置き、常任幹事館をもって充てる。
- 4 審査委員会は、必要に応じ学識経験者の意見を参考とすることができる。

（表彰者の決定）

第5条 幹事会は、審査委員会の審査に基づき、表彰者を決定する。

（表彰状の授与等）

第6条 表彰に際しては、別紙様式による表彰状に併せて記念品を贈呈することができる。

- 2 表彰は、協議会の総会において行う。

（取扱要項への委任）

第7条 この規程に定めるもののほか、表彰について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年9月20日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会学術奨励規程（昭和40年6月2日制定）は、廃止する。
- 3 東北地区大学図書館協議会表彰規程（昭和38年6月30日制定）は、廃止する。

東北地区大学図書館協議会表彰規程取扱要項

平成 19 年 9 月 20 日制定

- 第 1 この取扱要項は、東北地区大学図書館協議会表彰規程（以下「規程」という。）第 7 条の規定に基づき表彰について必要な事項を定めるものである。
- 第 2 規程第 2 条第 1 号の「図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者」とは次に掲げる者をいう。
- (1) 図書館活動における業績 業務処理の改善や業務遂行上の成果等で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動において先導的な意義を有するもの。
 - (2) 図書館情報学の研究、調査等の業績 図書館情報学に関する著作で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動に対して啓発性を有するもの。
 - (3) 前 2 号の業績は、個人以外にグループも対象とする。
- 第 3 規程第 2 条第 2 号の「協議会の運営、発展のために功績顕著であった者」とは、加盟館に 5 年以上勤務した者のうち、規定文言の主旨に合致するものを対象とする。
- 第 4 規程第 3 条の推薦の期日は、毎年 5 月末日までとする。
- 2 推薦は、別紙文書により行う。
 - 3 応募については、自薦、他薦を問わないものとする。
- 第 5 主査館は、推薦調書（各写）を審査委員館に送付し、審査を依頼するものとする。
- 第 6 審査は、会議又はその他の方法による。
- 第 7 推薦調書を提出した審査委員館は、審査には加わらない。
- 第 8 常任幹事館から推薦調書の提出があった場合は、常任幹事館を除く審査委員館の互選によって主査館を決定する。
- 第 9 審査委員館は、当分の間、会則第 6 条に規定する幹事館をもって充てる。
- 第 10 審査委員館は、審査結果を文書にて、その年の 7 月末日までに常任幹事館に報告する。
- 第 11 常任幹事館は、審査委員会の結果を総会に報告するものとする。
- 第 12 受賞者等については、その受賞事由、業績等の概要等を協議会誌に公表するものとする。

附 則

- 1 この取扱要項は、平成 19 年 9 月 20 日から施行する。
- 2 学術奨励賞候補論文等審査取扱要項（平成 2 年 9 月 20 日制定）は、廃止する。

.....
表彰状様式 1（第 2 条第 1 号該当者）

表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります
よってここにそのすぐれた功績を讃え記念品を贈り表彰いたします

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会

.....
表彰状様式 2（第 2 条第 2 号該当者）

表 彰 状

殿

あなたは本協議会の運営に尽力されるとともに大学図書館の発展に多大な貢献をされました
よってここにそのすぐれた功績を讃え記念品を贈り表彰いたします

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会

(別紙)

文書番号

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会常任幹事館

〇 〇 大学附属図書館長

殿

〇 〇 大学（附属）図書館長

〇 〇 〇 〇 公印

表 彰 者 の 推 薦 に つ い て

下記の者を、東北地区大学図書館協議会表彰規程第2条〇号に基づく表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。

なお、別紙のとおり推薦調書を提出します。

記

〇 〇 〇 〇

別紙（第2条第1号該当者）

表 彰 者 推 薦 調 書

〇 〇 大学（附属）図書館

職 名		氏 名		生年月日	昭和 平成	年	月	日
推 薦 理 由								
業 績 等	研 究 の テ ー マ 又 は 調 査 事 項							
	発 表 集 会 等 名							
	発 表 年 月 日							
	掲 載 誌 名 及 び 巻 号							
	発 行 年 月 日							
	発 行 機 関							
	発 表 者 又 は 著 者 名							
当 該 業 績 等 に 係 る 他 組 織 等 か ら の 表 彰 の 有 無 (有 の 場 合 当 該 組 織 名)								
図 書 館 業 務 歴								

備考

- 1) グループの業績等で推薦する場合は、氏名の欄は代表者名を記入し、推薦理由に当該グループ名を記載すること。
- 2) 業績等の記入欄については、該当する個所について記載すること。
- 3) その他参考となる資料を添付すること。

表彰者推薦調書

〇〇大学（附属）図書館

職名		氏名		生年月日	昭和 平成	年	月	日
推薦理由								
履歴事項								
年	月	日	勤務内容等（大学等名及び業務）					
	～							
	～							
	～							
	～							
	～							
	～							
	～							
	～							
加盟館勤務年数計〇〇年								

備考

- 1) 勤務期間の計算は、暦日数によるものとし、日を月に換算する時は30日をもって1月とする。
- 2) 休職の期間（業務上の傷病の期間は除く）及び懲戒処分により停職された期間は、勤務期間から除算する。
- 3) その他参考となる資料があれば、添付すること。

東北地区大学図書館協議会研修部会設置要項

制定 平成 20 年 9 月 18 日

改正 平成 30 年 2 月 1 日

(目的)

第 1 条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に研修部会（以下「部会」という。）を設置し、具体的な研修実施のための企画立案を行い、協議会加盟館員の人材育成と交流の機会を図る。

(活動内容)

第 2 条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 部会が主体となって実施する研修の企画
- (2) 研修会会場館（地区）との協力による集合型研修への協力
- (3) 研修結果・成果の協議会ウェブサイト等を利用した公開

(組織)

第 3 条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 国立大学部会から推薦された者 2 名
- (2) 公立大学部会から推薦された者 1 名
- (3) 私立大学部会から推薦された者 2 名

2. 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第 4 条 前条第 1 項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第 5 条 第 3 条第 1 項に掲げる委員の任期は 2 年とする。ただし、再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第 6 条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第 7 条 部会の庶務は常任幹事館において処理する。

(その他)

第 8 条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成 20 年 9 月 18 日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会研修検討 WG は、廃止する。

附 則

この要項は、平成 30 年 2 月 1 日から施行する。

東北地区大学図書館協議会ウェブサイト運用部会設置要項

平成 20 年 9 月 18 日制定

(目的)

第 1 条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）にウェブサイト運用部会（以下「部会」という。）を設置し、協議会の活動を広く公開するとともに加盟館及び図書館関連機関に有用な情報を提供する。

(活動内容)

第 2 条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 協議会ウェブサイトの運用、管理、更新
- (2) 新規掲載コンテンツの企画

(組織)

第 3 条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 国立大学部会から推薦された者 2 名
- (2) 公立大学部会から推薦された者 1 名
- (3) 私立大学部会から推薦された者 2 名

2. 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第 4 条 前条第 1 項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第 5 条 第 3 条第 1 項に掲げる委員の任期は 2 年とする。ただし再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第 6 条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第 7 条 部会の庶務は、常任幹事館において処理する。

(その他)

第 8 条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成 20 年 9 月 18 日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会ウェブサイト開設WGは、廃止する。

記念事業基金積立要綱

昭和 57 年 10 月 14 日制定

当協議会が記念事業を将来行うに必要な基金のために、年度予算に一定積立として計上し、積立てる。

1. 年度の積立金額は、その年度会費総額の 10%を限度とする。
2. 期間は昭和 57 年度からとし、総会の議決により記念事業を行う予定の年度までとする。
3. 積立方法は、金融機関に口座を設け積立てる。
4. その支出については、総会の議決を経なければならない。
5. その会計事務は監査をうけ、総会に報告する。

東北地区大学図書館間相互利用手続き申し合わせ

平成 14 年 9 月 20 日 第 57 回東北
地区大学図書館協議会総会決定

第 56 回総会の協議結果を尊重し、東北地区大学図書館協議会に加盟する各大学図書館は、「国公立大学図書館間相互貸借に関する協定」の目的にある「図書館間の相互貸借の円滑化を図り、もってわが国の学術研究・教育の進展に寄与すること。」の精神を生かし、以下を目標として努力する。

記

1. 来館利用の際の持参書類については、従来必要とした、「利用依頼書・閲覧許可願」等に代り、所属大学発行の「身分証明書」、「学生証」等の本人確認が可能なものの提示により利用を可能とすること。
2. 各大学それぞれの事情があり（例：女子大学の場合における男子学生の入構等）、また、確実に資料を入手するためにも事前連絡は必要と思われるが、急な来館についても、受入館はできるだけのサービスを行うこと。
3. 相互利用を円滑に行うため、各館は所属する研究者、学生に対して相互利用手続きに関する十分な利用者教育を行うこと。
4. 相互利用を円滑に行うため、各館は「図書館間相互協力便覧」に利用上の留意事項を明記するとともに、各館のホームページ上での利用案内においても明記すること。

東北地区国立大学図書館防災連絡網設置要項

平成 12 年 4 月 20 日 第 31 回国立
大学図書館東北地区協議会決定
平成 16 年 4 月 22 日 第 35 回東北
地区国立大学図書館協会改正

(目的)

第 1 条 国立大学図書館協会東北地区協定会則（以下「会則」という。）第 2 条に定める会員（以下「会員」という。）において地震等による激甚な災害が発生した際、会員における図書館業務の維持に関し、会員間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

(地区防災連絡網)

第 2 条 地区防災連絡網は会員により構成し、会員間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、国立大学図書館協会の東北地区理事館を充て、地区連絡館が被災した場合は、東北地区国立大学図書館協会総会の当番館がこれに代わるものとする。

(地区防災連絡館)

第 3 条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱等をさけるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。但し、会員における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等会員間に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び会員の防災意識を高めるため、原則として年 1 回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、必要がある場合は、国立大学図書館協会の他地区防災連絡館等との連絡にあたるものとする。

5 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会の公立大学及び私立大学の代表との連絡窓口になるものとする。

(会員の連絡窓口の設置)

第 4 条 会員に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

(雑則)

第 5 条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、会則第 5 条に定める会議において定める。

附 則

この要項は、平成 12 年 4 月 20 日から施行する。

附 則

1 この要項は、平成 16 年 4 月 22 日から施行する。

2 第 2 条 2 項の規定において、東北地区理事館と東北地区国立大学図書館協会総会の当番館が重複した場合、地区防災連絡館は会則第 5 条に定める総会において決定する。

東北地区大学図書館協議会公立部会防災連絡網設置要項

平成 12 年 9 月 20 日

東北地区大学図書館協議会（公立部会）

（目的）

第 1 条 東北地区大学図書館協議会公立部会加盟館（以下「公立部会加盟館」という。）において地震等による激甚な災害により被災した際、公立部会加盟館における図書館業務の維持に関し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

（地区防災連絡網）

第 2 条 地区防災連絡網は、公立部会加盟館により構成し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会公立部会幹事館（以下「公立部会幹事館」という。）を充て、公立部会幹事館が被災した場合は、公立部会会計監査館がこれに代わるものとする。

（被災館）

第 3 条 地震等による激甚な災害に被災した公立部会加盟館（以下「被災館」という。）は、被災状況を地区防災連絡館へ連絡するものとする。

（地区防災連絡館）

第 4 条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱を避けるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。

ただし、個々の公立部会加盟館における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等公立部会加盟館に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び公立部会加盟館の防災意識を高めるため、原則として年 1 回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会加盟の国立部会及び私立部会の代表との連絡窓口になるものとする。

（会員の連絡窓口の設置）

第 5 条 公立部会加盟館に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

（雑則）

第 6 条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、東北地区大学図書館協議会公立部会総会において定めるものとする。

附 則

この要項は、平成 12 年 9 月 20 日から施行する。

東北地区大学図書館協議会大学教育部会設置要項

平成 24 年 10 月 19 日制定

(目的)

第 1 条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に大学教育部会（以下「部会」という。）を設置し、大学図書館に関わる教職員協働型の大学教育のあり方について検討するとともに、協議会としての事業化の企画立案を行い、加盟大学における「学生の主体的学び」を育成するための取り組みを強化する。

(活動内容)

第 2 条 部会は、次に掲げる事項について活動する。

- 一 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するために、加盟大学における知見を集約化し、共有する。
- 二 大学教育そのものに関する図書館員の知見を深めるための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。
- 三 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。

(組織)

第 3 条 部会は、原則として次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 国立大学部会の委員 2 人
- 二 公立大学部会の委員 1 人
- 三 私立大学部会の委員 3 人

2 部会に主査を置き、前項に掲げる委員の互選によって定める。

(委嘱)

第 4 条 前条第 1 項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第 5 条 第 3 条第 1 項に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(協議会からの援助)

第 6 条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第 7 条 部会の庶務は、常任幹事館において処理する。

(その他)

第 8 条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成 24 年 10 月 19 日から施行する。
- 2 この要項の施行後最初に委嘱される委員の任期は、第 5 条本文の規定にかかわらず、平成 25 年 8 月 31 日までとする。

東北地区大学図書館協議会 加盟館名簿

2025（令和7）年4月1日現在

図書館名（国立15館）		電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
1	弘前大学附属図書館	0172-39-3155	弘前市文京町1 jm3155@hirosaki-u.ac.jp	附属図書館長 羽濑 一代	附属図書館事務長 三上 豊
2	岩手大学図書館	019-621-6082	盛岡市上田三丁目18-8 lsomu@iwate-u.ac.jp	図書館長 小林 宏一郎	学術情報課長 高橋 和恵
3	東北大学附属図書館	022-795-5911	仙台市青葉区川内27-1 lib-som@tohoku.ac.jp	図書館長 植木 俊哉 副館長 小田中 直樹	事務部長 佐藤初美
4	同 医学分館	022-717-7973	仙台市青葉区星陵町1-1 lib-med2@grp.tohoku.ac.jp	医学分館長 酒井 寿郎	専門員 照内 弘通
5	同 北青葉山分館	022-795-6368	仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 klib-k@grp.tohoku.ac.jp	北青葉山分館長 岩井 伸一郎	図書係長 代田 有紗
6	同 工学分館	022-795-5892	仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-03 elib-k@grp.tohoku.ac.jp	工学分館長 木村 祥裕	専門員 横山 美佳
7	同 農学分館	022-757-4022	仙台市青葉区荒巻字青葉468-1 alib@grp.tohoku.ac.jp	農学分館長 戸田 雅子	図書係長 福井 ひとみ
8	宮城教育大学附属図書館	022-214-3348	仙台市青葉区荒巻字青葉149 library@grp.miyakyo-u.ac.jp	図書館長 岡 正明	学術情報課長 大沼 忠弘
9	秋田大学附属図書館	018-889-2273	秋田市手形学園町1-1 libsomu@jimu.akita-u.ac.jp	図書館長 千代延 俊	図書館・情報推進課長 利 勝利
10	同 医学部分館	018-884-6052	秋田市本道1丁目1-1 ibun@jimu.akita-u.ac.jp	分館長 大森 泰文	総括主査 菅野 久美子
11	山形大学附属図書館 中央図書館	023-628-4904	山形市小白川町1-4-12 yu-jmtosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	中央図書館長 池田 光則	研究情報部長 庄司 三輝
12	同 医学部図書館	023-628-5054	山形市飯田西2-2-2 yu-itosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	医学部図書館長 村上 正泰	係長 赤塚 美保
13	同 工学部図書館	0238-26-3019	米沢市城南4丁目3-16 yu-koutosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	図書館長 小坂 哲夫	係長 會田 忠弘
14	同 農学部図書館	0235-28-2810	鶴岡市若葉町1-23 yu-notosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	農学部図書館長 堀口 健一	主任 高橋 圭
15	福島大学附属図書館	024-548-8083	福島市金谷川1番地 k-soumu@lib.fukushima-u.ac.jp	図書館長 菊地 芳朗	学術情報課長 小沼 清二

図書館名（公立12館）		電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
16	青森公立大学図書館	017-764-1551	030-0196 青森市合子沢山崎153-4 lib@mat.nebuta.ac.jp	図書館長 金子 輝雄	総務企画グループ 副参事 越谷 英樹
17	青森県立保健大学附属図書館	017-765-2011	030-8505 青森市大字浜館字間瀬58-1 auhwlib@ms.auhw.ac.jp	附属図書館長 川内 規会	経営企画室副参事（図書館課長兼務） 鶴谷 卓司
18	岩手県立大学 メディアセンター	019-694-2070	020-0693 滝沢市菓子152-52 library@ml.iwate-pu.ac.jp	メディアセンター長 高橋 聡 宮古短期大学部図書館長 鼻高 茂樹	教育支援室長 中川 友治
19	宮城大学学術情報センター（大和キャンパス図書館）	022-377-8313	981-3298 黒川郡大和町学苑1-1 toshom@myu.ac.jp	学術情報センター長 茅原 拓朗	事務局学術情報室長 佐藤 尚志
B	宮城大学学術情報センター（太白キャンパス図書館）	022-245-1046	982-0215 仙台市太白区旗立2丁目2-1 f-toshom@myu.ac.jp	学術情報センター長 茅原 拓朗	太白事務室教務・学生支援グループリーダー 若木 優貴枝
20	秋田県立大学附属図書館	018-872-1561	010-0041 秋田市下新城中野字街道端西241-438 a_library@akita-pu.ac.jp	図書館長 水野 衛	事務局次長 佐藤 節子
21	秋田公立美術大学附属図書館	018-888-8106	010-1632 秋田市新屋大川町12-3 aqa-library@akibi.ac.jp	附属図書館長 大八木 敦彦	総務課参事 兼 附属図書館事務長 佐々木 崇
22	国際教養大学中嶋記念図書館	018-886-5907	010-1292 秋田市雄和椿川字奥椿岱193-2 lib1@aiu.ac.jp	図書館長 豊田 哲也	学修支援室長 須田 幸子
23	山形県立保健医療大学附属図書館	023-686-6671	990-2212 山形市上柳260番地 kanri@yachts.ac.jp	図書館長 菊池 昭夫	主事 横尾 美聡
24	山形県公立大学法人附属図書館	0238-22-7334	992-0025 米沢市通町六丁目15番1号 toshom@yone.ac.jp	図書館長 吉田 敏	図書館管理係長 角屋 聡美
25	会津大学情報センター附属図書館	0242-37-2545	965-8580 会津若松市一箕町鶴賀 library@u-aizu.ac.jp	情報センター長 北道 淳司	情報センター事務長 菊池 章一
26	会津大学短期大学部附属図書館	0242-37-2458	965-8570 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-1 toshom@jc.u-aizu.ac.jp	附属図書館長 漆谷 博志	
27	福島県立医科大学附属学術情報センター	024-547-1684	960-1297 福島市光が丘1 lib@fmu.ac.jp	附属学術情報センター長 松岡 有樹	総務課長兼附属学術情報室長 奥寺 洋暁

図書館名（私立34館）	電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
28 柴田学園大学附属図書館	0172-33-2289	036-8530 弘前市清原1-1-16 univ_tosyokan@shibata.ac.jp	図書館長（学長） 吉澤 結子	
29 八戸学院図書館	0178-30-1695	031-8588 八戸市美保野13-98 tosyokan@hachinohe-u.ac.jp	図書館長 遠藤 光男	図書館事務室長 織戸 浩
30 八戸工業大学図書館	0178-25-8031	031-8501 八戸市大字妙字大開88-1 tosyo@hi-tech.ac.jp	図書館長 鈴木 寛	事務長 谷津 昌樹
31 弘前学院大学附属図書館	0172-34-5211	036-8577 弘前市総町13-1 library@hirogaiku.ac.jp	図書館長 井上 諭一	
32 青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター	017-728-0131	030-0132 青森市横内字神田12 lib@aomorigu.ac.jp	図書館情報センター長 北原 かな子	学事担当次長 石田 智久
33 岩手医科大学附属図書館	019-651-5111	028-3694 紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号 toshio@j.iwate-med.ac.jp	図書館長 原田 英光 副館長 中岡 克己	図書館事務室総括課長事務取扱 （学務部長） 水戸 信博
34 富士大学図書館	0198-22-4986	025-8501 花巻市下根子450-3 tosyokan@fuji-u.ac.jp	図書館長 早川 光彦	課長 小林 淑子
35 盛岡大学図書館	019-688-5561	020-0694 滝沢市砂込808 library@morioka-u.ac.jp	図書館長 斎藤成夫 副館長 小原 俊一	事務室長 福島 夏代
36 修紅短期大学図書館	0191-24-2211	021-0902 一関市萩荘字竹際49-1 library@shuko.ac.jp	図書館長 中島 元子	
37 仙台大学附属図書館	0224-55-1399	989-1693 柴田郡柴田町船岡南2-2-18 library@sendai-u.ac.jp	図書館長 日下 三男	課長 今村 絵里香
38 仙台白百合女子大学図書館	022-374-5090	981-3107 仙台市泉区本町6-1 library@sendai-shirayuri.ac.jp	図書館長 大本 泉	図書館事務長 佐藤 啓朗
39 石巻専修大学図書館	0225-22-7718	986-8580 石巻市南境新水戸1 lib@isenshu-u.ac.jp	図書館長 松崎 俊之	事務次長 尾崎 由明
40 東北学院大学図書館（中央図書館）	022-264-6493	980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 lib-office@mail.tohoku-gakuin.ac.jp	図書館長 松村 尚彦	図書部長 渡邊 義春 図書情報課長 曾根 邦敏

図書館名（私立34館）	電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
41 東北工業大学附属図書館	022-305-3178	982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1 library-yagiyama@tohtech.ac.jp	附属図書館長 高橋 秀太郎 図書館長 生田目 学文 図書館長補佐 太田 義久	図書館事務長 目黒 裕二 図書館長 重松 積男
42 東北福祉大学図書館	022-717-3319	981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1 lib@tfu.ac.jp		
43 東北文化学園大学総合情報セン ター図書館	022-233-3878	981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1 lib@office.tbgu.ac.jp	総合情報センター長 鈴木 伸夫	図書館情報事務室課長 松浦 宝志
44 東北医科薬科大学附属図書館	022-727-0061	981-8558 仙台市青葉区小松島4-4-1 library@tohoku-mpu.ac.jp	図書館長 細野 雅祐	学務部図書館事務課課長 畑中 亨
45 宮城学院女子大学図書館	022-279-5658	981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1 library@mgu.ac.jp	図書館長 増富 和浩	庶務課長 赤井 史之
46 尚絅学院大学図書館	022-381-3440	981-1295 名取市ゆりが丘4-10-1 library@shokei.ac.jp	図書館長 太田 健児	教育研究支援課長 佐々木 真也
47 聖和学園短期大学図書館	022-376-8257	981-3213 仙台市泉区南中山5-5-2 seiwatandai.toshokan@seiwa.ac.jp	図書館長 関根 俊二	
48 仙台青葉学院大学・仙台青葉学 院短期大学図書館	022-369-8003	984-0022 仙台市若林区五橋3-5-75 seiyo_library@hokuto.ac.jp	図書館長 桑田 恵美子	主任 酒井 麻紀
49 東北生活文化大学・東北生活文 化大学短期大学部附属図書館	022-272-7518	981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18-2 library@mishima.ac.jp	図書館長 鶴巻 史子	主任 村山 智美
50 ノースアジア大学附属図書館	018-836-2406	010-8515 秋田市下北手桜守沢46-1 naulib@nau.ac.jp	図書館長 道端 忠孝	教務部長 山田 浩之
51 東北芸術工科大学図書館	023-627-2044	990-9530 山形市上桜田3-4-5 library@aga.tuad.ac.jp	教学1課長 小野 瑠美	
52 羽陽学園短期大学附属図書館	023-655-2385	994-0065 山形県天童市大字清池1559 toshu@uyo.ac.jp	附属図書館長 渡辺 聡	図書係長 高橋 明子
53 東北文教大学・東北文教大学短 期大学部附属図書館	023-688-7544	990-2316 山形市片谷地515 library@t-bunkyo.ac.jp	図書館長 松田 浩平	課長 安部 愛
54 東北公益文科大学図書館	0234-41-1177	998-8580 酒田市飯森山3-5-1 media@koeki-u.ac.jp	図書館長 西村 まどか	図書館・IMC事務室長 齋藤 富実子
55 医療創生大学図書館	0246-29-7121	970-8551 いわき市中央台飯野5-5-1 library@isu.ac.jp	図書館長 関根 邦充	図書館事務室課長 半澤 智祐

図書館名（私立34館）	電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
56 奥羽大学図書館	024-932-9061	963-8611 郡山市富田町字三角堂31-1 ohu-lib@jim.ohu-u.ac.jp	図書館長 小林 初夫	図書館事務部図書課 主任 小林 克也
57 郡山女子大学図書館	024-932-4848	963-8503 郡山市開成3-25-2 library@koriyama-kgc.ac.jp	図書館長 齋藤 美保子	図書係 [主任] 井上 英子
58 東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館	0246-35-0416	970-8023 いわき市平鎌田字寿金沢37 shk_lib@tonichi-kokusai-u.ac.jp	図書館長、学部長 河合 伸	主任 和賀 典子
59 日本大学図書館工学部分館	024-956-8642	963-8642 郡山市田村町徳定字中河原1 ceb.toshokan@nihon-u.ac.jp	工学部分館長 濱田 幸雄	図書館事務課長 大岡 敦
60 桜の聖母短期大学図書館情報センター	024-534-7137	960-8585 福島市花園町3-6 lib-c@ssjc.ac.jp	図書館情報センター長 和田 賢一	司書 岩佐 美樹
61 福島学院大学図書館情報センター	024-553-2087	960-0181 福島市宮代乳児池1-1 tosh@fukushima-college.ac.jp	図書館長 梅宮 れいか	業務課主任 善方 和美

東北地区大学図書館協議会誌 第 76 号

令和 7 年 5 月

編集・発行 東北地区大学図書館協議会
(事務局: 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学附属図書館内)
<https://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/>
